名桜大学 数理学習センター設置15周年記念

2024年度
数理学習センター1年間の活動記録

(Mathematical Science Learning Center：MSLC)

公立大学法人
名桜大学
MEIO UNIVERSITY

はじめに

名桜大学数理学習センター（通称MSLC：Mathematical Science Learning Center ）は，開学15周年を迎えた2009年，公立大学法人化に向けた大学教育改革推進の一環として設置されました。今年は名桜大学開学30周年，公立大学法人化15周年，つまり数理学習センターも15周年を迎えました。

MSLCの設置趣旨は，主体的に自らの数理能力の向上に立ち向かい，学び続ける学生の自主学習の促進を目的としています。本学の目指す教育目標実現に向けて，MSLCでは計画的な学修支援に取り組んでいます。MSLCには１限（8：45）から５限（18：00）までチューターが常駐し，数理系科目の学修支援を計画的に行い，特に連携授業の履修者にとっては，心強い学習環境が提供されています。

今年度は設置15周年の節目にあたり，2024年度（前期・後期）MSLCの１年間の活動記録をまとめることになりました。MSLCの特徴は，学部生による数理系科目の学修支援であることから，チューターのトレーニングがより重要となります。特に，効果的な学修支援を目指して研修を重ねているチュートートレーニングについては，学期末の数理学習センタープロジェクト発表会で報告しております。今後のチューター育成の参考にもなるようその発表スライドも合わせて活動の記録をまとめることにしました。

■本学の特色ある教育活動

本学は，学部教育において人文科学，社会科学，自然科学を幅広く柔軟に学び，論理的かつ批判的な知識体系を身につけ，同時に自立した思考を深め，知的倫理性を実践することを目的とした教育を推進しています。「（母語による）文章力，数理的な判断・分析能力，外国語，ICT リテラシー」という４つの基礎的なアカデミックスキルは，グローバル化する世界に対応するためのリベラルアーツ教育の重要な基本要素です。名桜大学では，その４つのアカデミックスキルの下に幅広い教養教育を基礎とした，円満な人間形成をめざし，専門分野では深い知識を探求するようカリキュラムが設計されています。

本学は全国から入学生や海外からの留学生を受け入れているため，このような正課のカリキュラムに加えて，学生の自発的な学修を支援するとともに，慣れない大学生活のスタートをサポートする「名桜ウェルナビ（名桜大学新入生支援組織ウェルカムナビゲーション）」という新入生の学生支援を行うボランティア学生団体があります。その活動には，新入生歓迎スポーツ大会や入学式・新入生ガイダンス，１年次教育研修のサポート等のイベントによるサポートも行います。

また，教養教育をより充実させるために，外国語支援の「言語学習センター（ＬＬＣ）」，数理系科目支援の「数理学習センター（MSLC）」，ライティング支援の「ライティングセンター（MWC）」の学生団体があり，学生のサポート，学修支援を組織的におこなっていることが，本学の特徴となっています。これら３学習センターの活動は，教養教育の推進主体である「リベラルアーツ機構」の傘下にあり，年度計画，年度目標に照らして自己点検・評価を行い，教育の質保証に貢献しています。

さらに，2018年度より高校と大学間の課題となっている学びのギャップを改善し，地域の人材育成を目的とした地域の高等学校の教員との「高大接続勉強会」を発足させました。さらに総合型選抜入試や学校推薦入試等で早期に本学への入学が決まった地域の高校生を対象とした「入学前特別講座Ⅰ・Ⅱ」を継続して開催し，入学後の学びへの意識改革及び継続した自主的・主体的な学修態度の確立と将来への目標設定への意識づけを行っています。

この入学前特別講座においても，学生団体との交流会や学習センターの先輩学生のピア・チュータリングを体験するなど，入学前から入学後も様々なサポート体制が構築されています。

このように，入学前から授業の学修支援など様々な大学生活を学生が多角的に支援し，学生のキャンパスライフの充実に貢献できる学生団体は，本学にとっても心強い団体です。サポートを受けた学生が，次はサポートをする側に身を置き，成長していくというのも学生たちの特徴です。

本誌では，数理系科目の学修支援を担当する数理学習センター（MSLC）の実践をご報告いたします。

2025年３月31日

数理学習支援センター長　**高　安　美智子**

目　次

はじめに
2025年度ＭＳＬＣリーフレット …… 1
数理学習センター活動報告（写真） …… 2
Ⅰ　2024年度（前期）数理学習センタープロジェクト発表会 …… 3
＜発表１＞「ＭＳＬＣの活動報告」　発表者：清水麻由（４年次），外間涼花（３年次） …… 3
＜発表２＞「チュータリングに特化したプレゼンテーション・TRロールプレイ」
発表者：具志堅百奏（情報システムズ専攻３年次） …… 5
◎事前研修会①「チュータリング（TR）について」 …… 5
◎事前研修会②「自己調整学習と学修者本位の学び」 …… 6
◎第２回「チュータリングにおける表現や言い換え」 …… 7
◎第３回「チューターに期待されることと自覚すべきこと」 …… 7
◎第４回「傾聴力を鍛えるためのポイント」 …… 7
◎第５回「チュータリングにおける成功について」 …… 10
◎第９回「スタディバディーとスタディグループ」 …… 13
◎第11回「チュータリングの際の困りごとにどう対応するのか」 …… 14
＜発表３＞「四期間を終えての所感」　発表者：赤嶺妃美紀（国際文化専攻３年次） …… 16
Ⅱ　2024年度（後期）数理学習センター活動報告 …… 19
2024年度（後期）数理学習センタープロジェクト発表会 …… 20
＜発表１＞「ＭＳＬＣの活動報告」　発表者：佐事奏実（国際文化学科２年次） …… 20
（１）　2024年度　後期　MSLC事前研修会の報告 …… 23
◎今期の取組と来期に向けての報告 …… 26
＜発表２＞「データ管理」 MSLC利用状況　発表者：田浦和珠（スポーツ健康学科２年次） …… 27
＜参考資料＞１．チュートートレーニング …… 30
２．運営業務の報告 …… 32
３．連携授業報告 …… 33
４．連携授業の実践報告 …… 35
＜１＞　自然科学特別講義（統計学基礎） …… 35
プロジェクト発表会チューターの報告　発表者：森田春香（国際文化学科２年次） …… 37
＜２＞　数学 …… 39
＜３＞　医療統計学 …… 42
５．MSLCのチューター業務と社会人基礎力について
発表者：山内貴裕（スポーツ健康学科　３年次） …… 44
Ⅲ　MSLC社会人基礎力調査について …… 45
Ⅳ　チュータリングスキルの自己評価 …… 47
★　MSLCでの活動を振り返って　発表者：山田翔大（経営専攻４年次） …… 49
★　MSLCでの７期間の活動を通して　発表者：清水麻由（観光産業専攻４年次） …… 50
資料１　2024年度　MSLC後期の振り返り（第16回　最終ミーティングのまとめ） …… 52
資料２　〈チューターになってよかったこと・成長したこと・MSLCに期待すること〉 …… 53
2024年度　MSLC前期チューターリーダーからのメッセージ　具志堅百奏（情報システムズ専攻３年次） … 56
2024年度　MSLCのチームビルディングに奮闘した後期チューターリーダーより
佐事奏実（国際文化学科２年次） …… 57
2024年度　チューター紹介　前期・後期 …… 58
◆MSLCチューター名簿（2019年度後期～2024年度後期） …… 60
おわりに …… 62
編集後記 …… 62

2025年度MSLCリーフレット

数理学習センターとは？

Mathematical Science Learning Center

2009年（平成21年）5月に、学生の数理能力の向上と自主学習の促進を目的として創設された名桜大学の学習支援機構です！
学生の疑問・質問や連携授業の課題点検などに対する個別の支援（チュータリング）や、各種検定・定期試験に向けた講座を行っています。

公立大学法人 名桜大学 MEIO UNIVERSITY

MSLC

学生の「わかる」をサポート！

数理学習センター

Mathematical Science Learning Center

MSLCキャラクター
チュータくん

MSLC基本理念

1.MSLCは優しさ・笑顔・努力を大事にする学びの空間です。

2.MSLCは、学生の数理能力の向上と自主学習促進を目的とした学習支援機関です。

3.MSLCピア・チューターは寄り添う学習支援を心がけ向上心を持ち、自己実現を目指します。

with Tutors

【場　　所】学生会館SAKURAUM4階
【開館時間】月~金 8:45~18:00
【TR受付】月~金 8:45~17:30

最新情報は、公式SNSをCheck!

MSLCホームページ

MSLC_TUTORS_
MSLCインスタ

お問い合わせ先

公立大学法人名桜大学　数理学習センター
msls-tutors@mail.meio-u.ac.jp

〒905-8585　沖縄県名護市字為又1220-1
名桜大学学生会館　SAKURAUM 4階

学生のつくる学びの空間

MSLCは「わからない」を「わかる！」に変える場所

MSLCで、学びの悩みを
スッキリ解決しませんか？
勉強が苦手な人も、
もっと深く学びたい人も大歓迎！
一緒に楽しく学びましょう！

MSLCには簿記や数検の過去問、データサイエンスや診療科目、統計学の専門書があります。

少しでも興味のある分野があればぜひ足を運んでください！

MSLC利用者の声

チュータリングでどこを間違えているのか知ることができ、理解に繋げることができた！　【医療統計学受講者】

問題が解けるだけじゃなくて、学習習慣や考え方も身についたのでよかったです！　【統計学基礎受講者】

数学が苦手でも優しく丁寧に教えてくれるMSLCがあるから数学を頑張ろうと思えました！　【数学受講者】

数学

数学マスターになろう！
実用的な数学力も身につくよ

統計学

公式の意味を理解すると
統計学の問題がグッとわかる！

診療科目

学んだ知識が未来の医療現場で
役立つ日を楽しみにしてます！

統計学基礎

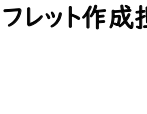
基礎を押さえて
色んな問題を解いてみよう！

健康情報

どんな小さな疑問でも大歓迎！
一緒に解決しましょう！

情報科目

情報の知識や実践的なスキルを
身につけよう！



予約フォーム

チュータリングの予約はこちらから

ご注意ください

予約完了メールが届いているか確認をお願いします。

よくある質問

Q 該当科目を受講していないのですが、利用できますか？

A 学生であれば、誰でも利用可能です！
授業課題に関するチュータリングだけでなく、資格試験（数学検定・簿記・統計学検定など）の過去問を解いてみたり、SPI問題や公務員試験対策問題、自己学習に関する相談にも対応しています。

Q 予約は必要ですか？

A 予約を強く推奨しています。
予約なしでも利用可能ですが、混雑時や予約枠がいっぱいの際は別の時間帯を案内することがあります。予約の方法がわからない場合などは、ぜひMSLCチューターに聞いてください！

Q チューターになりたいです！

A 大歓迎です！ MSLCでは学習支援に興味がある学生チューターを募集しています。応募期間や応募方法、活動内容についてはMSLCの掲示物や、　学生チューターに気軽にお問い合わせください！

リーフレット作成担当　佐事奏実（国際文化学科　2年次）

数理学習センターの活動報告

2024年度リベラルアーツ機構の年度計画

名桜大学

①学生ピアによる学生支援・学修支援を推進しつつ、
センター利用者を対象とした支援効果を検証する。

②リベラルアーツ機構は、学生ピア活動の支援を継続する。
(各センター間の学生ピア 活動の交流の促進)

③リベラルアーツ機構は、名桜大学のリメディアル教育プログラム
を策定する。

MSLCの組織

名桜大学

◆ 名桜大学リベラルアーツ機構の学生団体のコンセプトは、
「先輩・後輩コミュニティを基本とし、学生が主体的に企画・
運営および学生支援を行う」

リベラルアーツ機構年次報告書

2024年「MSLC学習支援プロジェクト」

名桜大学

◆ MSLCの基本理念

優しさ・笑顔・努力
を大事にする
学びの空間

学生の数理能力の向上
と自主学習の促進
を目的とした
学習支援機関

ピア・チューターは、寄り
添う学修支援を心がけ、
向上心を持ち、
自己実現を目指す

MSLC「学修支援プロジェクト」

名桜大学

「学修支援プロジェクト」
①MSLCの組織づくり
②事前研修会の準備
③事前研修会＆勉強会
④チューター トレーニング
⑤連携授業（成果内・成果外学習支援）
⑥MSLCプロジェクト発表会
⑦チューターの自己評価・総合評価

「学生から学生に繋ぐ学修支援活動「学修支援プロジェクト」

半期間の流れ

半期間の流れ

事前研修会(3/26,27)

【目的】
①MSLCの活動目標を共通理解する
②ピアチューターとしてのスキルの向上
③業務が円滑にまわることを目的としたMSLCの講座や連携授業の計画と準備
④MSLCメンバー相互の親睦を深める

勉強会（3/28,29）

【目的】
・チューターの教育能力の向上
・TRスキルの向上

今学期は先生方の講義を中心に、
理解を深めることを焦点を当てまし
た！

Ⅰ　2024年度（前期）数理学習センタープロジェクト発表会

7月26日（月）に学生会館SAKURAUM6階スカイホールAにて，2024年度（前期）名桜大学数理学習センター（Mathematical Science Learning Center：通称MSLC）プロジェクト発表会を開催しました。

MSLCの活動は,事前研修会の準備で半期間の活動が開始します。学生チューターが主体となって,全員が科目担当チームと運営担当チームに所属し活動をします。

授業と連携した計画的・継続的な学修支援を目的として,それぞれのチームで,計画(Plan)・実践(Do)・評価(Check)・改善(Action)を行い,学期末には活動報告会を開催し,参加者に活動内容・発表力の評価をしてもらいます。その後,それぞれの担当業務の報告書を作成・提出し学期の活動は終了となります。

全員で担うこの一連の活動が「MSLC学修支援プロジェクト」です。それは,本学のリベラルアーツ機構の「特色ある教育の推進」の一環であり,課題発見・問題解決能力を鍛えて国際社会で活躍できる有為な人材となるよう,ピア・チューターの社会人基礎力の向上にも繋がる活動となっています。また,リベラルアーツ機構の年度計画には,「学生ピアによる学生支援・学修支援を推進しつつ,センター利用者を対象とした支援効果を検証する。」ことが求められています。MSLCプロジェクト発表会は,学修支援の成果報告会としての取組でもあります。

今回のMSLCプロジェクト発表会の司会は,国際文化学科2年次の森田さんが務めました。報告内容は,①MSLC活動報告,②MSLCの利用状況,③チュータリングに特化したチュータートレーニング（プレゼンテーションとTRロールプレイ）,④連携授業の実践と成果及び課題,⑤新規チューター育成の報告,⑥今回でMSLCの活動が終了となるチューターによる所感を述べるというプログラムでした。

報告できなかった活動内容も含めて,チューターの発表スライド及び活動報告書等から概要をご紹介いたします。

＜発表Ⅰ＞「MSLCの活動報告」　発表者：清水麻由（4年次 観光産業専攻）,外間涼花（3年次 観光産業専攻）

（1）数理学習セター（通称MSLC）の基本理念について説明します。

初めに数理学習センター通称MSLCの基本理念について説明します。

MSLCには,基本理念が3つあり,一つ目が,「優しさ・笑顔・努力を大事にする学びの空間である」こと,二つ目は,「学生の数理能力の向上と自主学習の促進を目的とした学習支援機関」であること,三つ目が「MSLCチューターはピアチューターであり,寄り添う学習支援を心がけ,向上心を持ち,自己実現を目指す」ということです。

この目的を達成するため,MSLCには三つの業務があります。

一つ目は,連携授業の支援や各種対策講座などを行う「学習支援」です。二つ目は,入退室管理や広報活動など業務を円滑に行っていくための「MSLC運営業務」です。三つ目は,事前研修会や勉強会,定期トレーニングなどチューターとしての資質を高める「チューター育成プログラム」があります。

（2）業務の紹介

「学習支援」には,連携授業の支援や各種対策講座があります。学習支援の主な活動は連携科目の支援になります。黄色のマーカーをしている科目はすべてのチューターがTRを行えるようにしなければなりません。

連携授業は,前期8科目,後期9科目実施しました。内容としては,担当科目の講座運営や課題点検・チュータリングを行っています。そして,試験前の対策講座の企画・運営・報告書作成等となっています。

講座は,各連携科目の試験対策講座と数学検定や統計検定などの検定取得対策のための講座などがあります。

また,診療科目は「診療管理士認定試験」,情報科目は「ITパスポート試験等」の資格取得に向けた連携授業内容となっています。学習支援のねらいには,学び合うコミュニティの提供や学生の学習サイクルの定着化などがあります。

次に,②「MSLC運営業務」について説明します。おもにこの4つがあります。

「入退室管理」は,チューター全員が行うものとなっており,チュータリングを始める際の入室,そして終わったあとの退室のQRコードを読んでもらっています。「データ管理」では,そのデータを集計し,利用状況のまとめや各チューターのチュータリングの時間の集計などを行っています。その際,チュータリング時間に偏りがある場合は,シフトの組換えを行います。「広報」では,月刊MSLCの作成やインスタグラムでの情報発信,名桜広報の執筆等も行っています。

「新規チューター育成」は,定期トレーニング以外に,チューターとしての業務を理解・遂行するための研修があります。

「チューター育成プログラム」の概要は,学習支援およびMSLC運営を円滑に行うためのスキルアップを目的として行います。学期が始まる前に行う事前研修会と勉強会,合同研修会、週に1回行っている定期トレーニングがあります。その他には,チューター主催の各種講座の企画、センター長やリーダーとの面談等があります。

「事前研修会」では,チューターとしての心構えやMSLCの活動の内容を新規,継続共に再確認したり,前学期の課題を改善するために今期の目標を立て,意見を出し合ったりとMSLCの活動内容の理解に努めました。また今回は数学検定の問題を用いてチュータリング技術を学んだり,スキルの向上のためにチュータリングロールプレイも行いました。

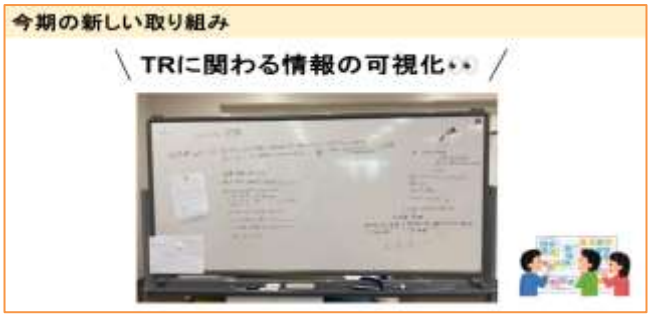
引き続き「勉強会」では,チューターの数理能力とTRスキルの向上を目的にチューターの理解を深めたい分野を中心に学習をしました。また今学期は例年とは異なり,先生方の講義を中心に理解を深めるというところに焦点を当て勉強会を行いました。

事前研修会後のアンケート	
Q.この研修会でなにを学んでできるようになったか？	
新規チューターの感想 各グループに分かれて話し合いをすることで,他のチューターの方々と協力していくのが重要だということを学びました。 数検を実際に解いて自分の実力がどの程度なのかを学んで,自信を持って解答することができるようになった。	継続チューターの感想 4期目として上の立場になる自覚を持つことができたので,しっかりと立場に沿った役割を果たしていきたい。 事前研修会の中で改めてMSLCについてやチュータリングとはなにかについて学び,生かそうと考えることが出来た。
勉強会	
新規チューターの感想 ◎実際にチューターとして活動する前にこのような研修会や勉強会ができて非常に良かったと感じている。 ◎やるべきことを明確にし,チューターの一員であることを忘れないようにしていきたい。	継続チューターの感想 ◎統計学や健康情報数学が勉強出来たのは,チュータリングスキルアップのためにとてもよかった。 ◎SPIの問題は解く時間が少なく感じたため時間を増やすか,問題数を減らして取り組むか対応した方がよいと思った。

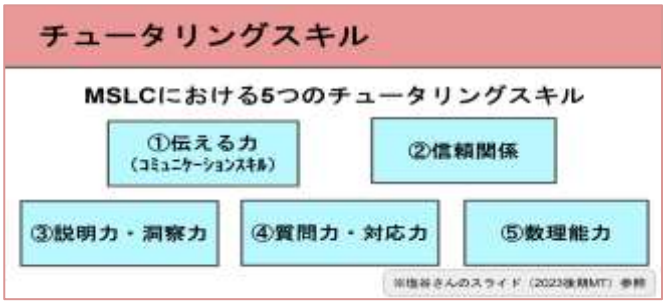
「今期の新しい取り組み」として次の二つのことに取り組みました。一つ目に「TRに関わる情報の可視化」です。前学期で,より質の高いTRを目指したいということからTR時にわからないものを共有していこうという案が出ました。

今期はチューター自身が分からなかった問題やTRに苦戦した問題などTRに関わる情報をホワイトボードにて共有しチューター自身の数理能力,TR力向上に努めました。二つ目に数理・データサイエンス・AI入門の分析課題講座の開講

です。これは新たな取り組みであり,私たちチューター自身も履修したことのない科目だったため少し苦戦しましたが,講座には参加した14名の学生の皆さんから良い評価をいただくことができました。



<発表2> チュータリングに特化したプレゼンテーション・TRロールプレイ　発表者:具志堅百奏(3年次)

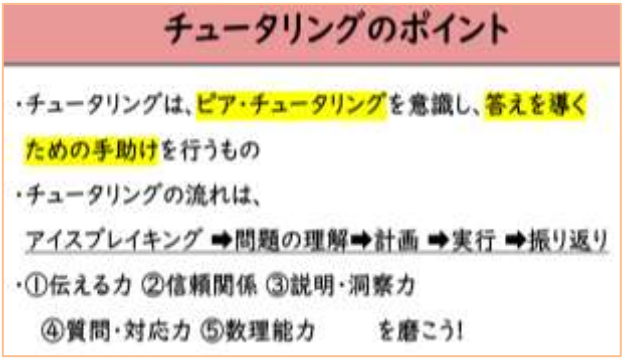


MSLCでは,チューターの資質向上のために,チューターのプレゼンテーションによる研修とチュータリングロールプレイの二つのトレーニングを計画的・継続的に行っています。これは,名桜大学の特色ある学修支援の成果に繋がっていると思います。今年度は,「チュータリングに特化したトレーニング」テーマを取り上げました。プレゼンテーションによる研修も,具体的にTRに焦点を当てることで,MSLCの現状や改善点を提案し,自分達で考え,実際のTRに活かすことを目的に行いました。ここでは,トレーニングで行ったスライドをこのまま使って報告します。

<プレゼンテーションによるトレーニングの紹介>

◎事前研修会プレゼンテーション①:テーマ「チュータリングについて」赤嶺妃美紀(国際文化文化専攻 3年)

まず,事前研修会では,基本となるチュータリングスキルはどういうものなのか?について学びました。
数理学習センターでのチュータリングスキルの定義として次の5点を上げています
「①伝える力,②信頼関係,③説明力・洞察力,④質問力・対応力,⑤数理能力」です。
これを基本として共通理解した上でトレーニングを行います。その力を高める方法として次の点を意識しています。



①「伝える力」は,考えを整理し,相手の意見や考え方を尊重した上で,自分の考えをしっかり伝えるアサーティブ・コミュニケーションを基本とします。個々のチューティーの学ぶ意欲や態度に応じて臨機応変な対応も心がけましょう。

②「信頼関係」づくりは,支援を求める相手に寄り添い,対等な立場であるという姿勢で接することが必要です。そのため,チュータリングを始める前のアイスブレイキングを取り入れ,話しやすい雰囲気づくりに努めることも大切です。

③「洞察力」は,自らの説明力を磨き,時間配分も考慮しながら相手の理解度だけではなく,意欲を読み取る観察力も求められます。

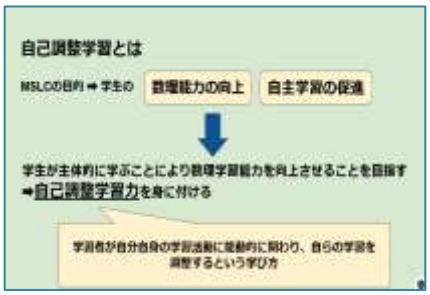
④「質問力」は,主に復習型の支援を行う際に重要となります。わかっているところから次のステップへつなげる必要があるからです。下位目標の設定力もついてきます。

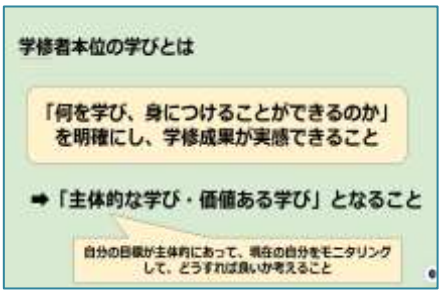
⑤チュータリングは,チューター自身の「数理能力」が問われます。単に公式を示すのではなく,下位目標を示しながら公式を導くためにはチューター自身が問題の本質を見抜く力が求められるからです。

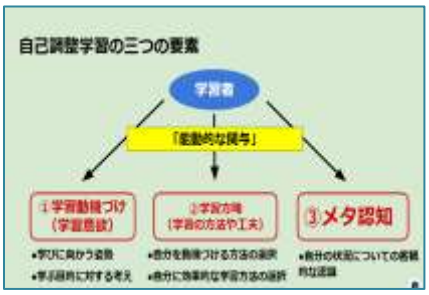
まとめとして,チュータリングのポイントは,単に答えを教えるのではなく,答えを導くための手助けを行うことです。チュータリングの流れは,MSLCのチュータリングマニュアルにある「問題理解➡計画 ➡実行 ➡振り返り」の4つのステップの前に,アイスブレイキングを入れることも重要だということでした。

①伝える力 ②信頼関係 ③説明・洞察力 ④質問・対応力 ⑤数理能力　を磨こう! と締めくくりました。

◎事前研修会プレゼンテーション②:「自己調整学習と学修者本位の学び」 外間涼花さん(観光産業専攻 3年次)







まずは,自己調整学習について説明します。

MSLCの目的として,「数理能力を向上させること」と「自主学習の促進」を目指しています。数理能力を向上させるためには,学生が主体的に学ぶことが重要で,そのためには,自己調整学習力を身に付けることが重要です。

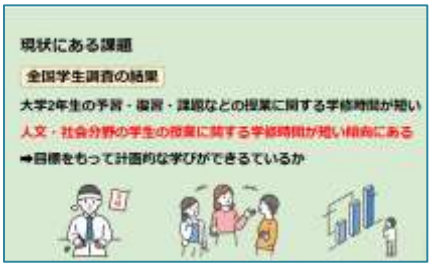
「自己調整学習」とは,学習者が自分自身の学習活動に能動的に関わり,自らの学習を調整するという学び方です。その自己調整学習力を身に付けるためには,学習者が自分自身の学習活動状況を理解し,自らの課題を把握し,その改善に向けて自己コントロールすることが大切になってきます。

次に,「学修者本位の学び」について説明します。

学修者本位の学びとは「何を学び,身に付けることができるのか」を明確にし,学修成果が実感できることです。つまり,自分の目標が主体的に設定できて,現在の自分をモニタリングして,どうすればよいかを考え,主体的な学びで,学修の成果が実感できること,これが「価値ある学び」となっています。つまり,「学習者本位の学び」ができたとき,「自己調整学習」ができているということになります。

次の図は,学習者本位の学びについて図で表したものとなっています。さきほどの学習者本位の学びでは,自分の状況についての客観的な認識であるメタ認知とつながっています。メタ認知を働かせることによって,学ぶ意欲が高まり,より良い改善を見つけることが学習方略に繋がってさらに頑張ろうとPDCAサイクルが回るようになります。さらに目標もどんどん高くなっていき,自分自身の成長にも繋がります。

この事前研修会も今期のMSLCの活動がよりよくなるための準備なので, 今期のMSLCのためにも頑張りましょう。



次に,学習者本位の学びが求められている背景について説明します。

これからの時代(Society5.0)では,課題解決と価値創造が重要になってきています。

社会の変化に伴い,学校教育も変化してきています。学校教育でもこれまでの時代からの変化を見ていくと,Society1.0～Society3.0の時代の学校では「勉強」の時代,学校中心で,知識を詰め込まれる授業形態が取られていました。そしてSociety4.0の時代の学校では「学習」の時代となり,主体的で,対話的・深い学びを取るようになってきています。それが,アクティブ・ラーニングです。そしてこれからの時代Society5.0の時代の学校では「学び」の時代となっていき,いつでもどこでも学べ,学びの体験重視型となっていきます。このように時代が変化していくと,学校も変化していきます。「学び」の時代とは,自分で目標を決めて,自分で行動し,その行動をモニタリングし,評価し,自分自身をコントロールしなければいけません。自分自身で情報もキャッチし,発信し,自己を評価する力が重要となります。

では,現状の学生はどのようになっているのでしょうか。

大学2年生と4年生,短期大学の最終学年を対象に全国学生調査行った結果,大学2年生の予習・復習・課題などの授業に関する学習時間が短く,また,人文・社会分野の学生の授業に関する学習時間が短い傾向にあるという結果になっていました。

これらのことから,自分自身の学生生活を振り返って,例えば資格取得や,人との関わり,将来の目標など計画的な学びができているかどうか,近くの人話し合ってみましょう。(5分間のグループ活動)

特に新規チュータに向けて,自分自身が一学生として主体的に学ぶ活動,環境として,私たちが所属しているMSLC(数理学習センター)があると思います。一学生として,数理学習センターで活動することの強みについて考えていきましょう。これらは,私自身が実際に感じたもの何ですが,

まず一つ目は,協働的な学びができる環境があることです。協働でプレゼンの作成を行ったり,MSLC内で解決が必要な課題が出てきた際に話し合いを行ったりと個人のみの活動だけでなく,みんなで協働的な学びができる環境が整っていると思います。

二つ目は,自ら学ぶ場があることです。大学の授業だけでは身に付けられないようなことを自ら学ぶことができます。例えば,今行っているプレゼンテーションやロールプレイなどは大学の授業だけでは身に付けられないと思います。また,チューター同士がお互いを高め合って資格取得などに向けた活動も出来るような場所だなと思います。

三つ目は,PCスキルです。MSLCでは,パソコンを使った作業が多く,ポスターの作成や,プレゼン作成のほかにも基本的なパソコンの操作等も身に付けることができると感じます。

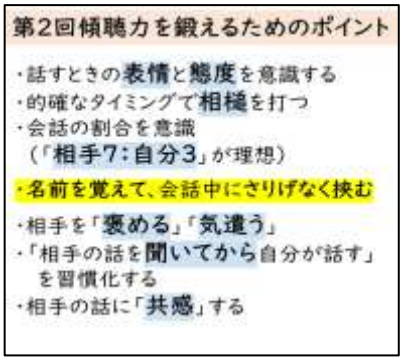
四つ目は,コミュニケーションスキルです。チューター間でももちろんですけど,MSLCを利用するチューティーとのコミュニケーションも大切です。MSLCでは,コミュニケーションを取る機会がとても多いので,そのようなスキルも身に付けることが出来ると思います。

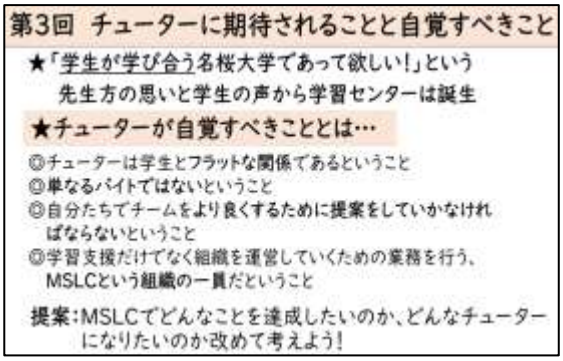
これらは一部なので,数理学習センターでは,主体的な学びや価値ある学びを得る場としてはとても充実しているのではないかと考えます。

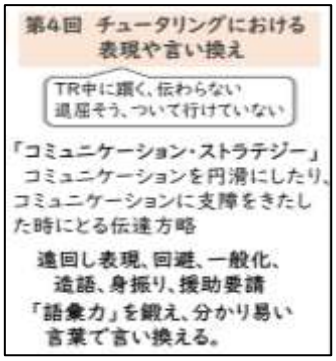
最後にまとめです。

主体的な学びや価値ある学びを見つけ出す活動として,今回は私たちの身近にある数理学習センターを挙げましたが,もちろん数理学習センター以外でも主体的な学びや価値ある学びを得ることが出来ることはたくさんあると思います。数理学習センター以外の活動などでも主体的な学びや価値ある学びをぜひ見つけてみましょう。自分の将来の姿を高い位置から俯瞰できる学生になることが,学習者本位の学びの実現であり,自己調整学習力が身に付いたという結果だと思います。

◎第2回の「チュータリングにおける表現や言い換え」







◎第2回の「チュータリングにおける表現や言い換え」では,TR中に躓いたり,伝わらなくて退屈そうにしていたり,ついて行けていないなと思うときには,相手に伝わるような表現や言い換えができるコミュニケーションストラテジーを身に付けましょう。日ごろからコミュニケーションスキルアップを意識して語彙力を高める努力が必要だということでした。

◎第3回は,「チューターに期待されることと自覚すべきこと」について,以下の内容で進めていきました。4月に行われた3学習センター交流会の中で,木村副学長から学習支援センターの成り立ちにつて説明がありました。ゴミが散乱していたり,授業を真面目に受けていなかったり,このような学生がいたりしたがなんか憎めない学生たちに何かしたい,学生が学び会える環境を作りたいという思いから学習センターは誕生しました。先輩・後輩コミュニティの構築に繋がるという内容を学びました。その学習センターの成り立ちを聞き,私たちも引き継ぐ使命があると考えました。

次に,「MSLCでどんなことを達成したいのか,どんなチューターになりたいのか改めて考えよう!」というグループワークがあり,様々な提案がありました。最後にチューターとして自覚するべきことを確認しました。

◎第4回「傾聴力を鍛えるためのポイント」として,いくつかの説明がありましたが,重要なこととして“名前を覚えて,会話中にさりげなく挟む”」ということは,先輩方から受け継いだ大切な視点だとわかりました。

さらに,傾聴力を上げる為の次の点を意識して行うことが提案されました。ポイントとしては,「相手の名前を覚えて,会話中にさりげなく挟む ・相手を「褒める」「気遣う」 ・「相手の話を聞いてから自分が話す」を癖づける。

しかし,やはり重要なことは,チューターは,普段からコミュニケーションスキルを高めることが重要だということでした。

第3回「MSLCでどんなことを達成したいのか,どんなチューターになりたいのか改めて考えよう!」

（チュータートレーニング時に各チームで協議をし,まとめた取組）

【4年次】

①学生に数理科目はもちろん学ぶことが楽しいと思ってもらえるようにする!

➡・ダイアローグ,承認力を意識したTRを行う

・自分自身も学び続けることを忘れない

②チューティー,チューター共に「私に教えてもらってよかった」と思ってもらえるようにする!

➡・責任感のある行動を心がける

・分かりやすい言葉を使う

【3年次】

③MSLCをより良くするために提案をする!

➡・MSLCを客観視する　・提案があったら必ず発言する

④新規チューターが楽しく分かりやすいTRができるようにサポートする!

➡・新規への積極的な声かけ　・良いところを伸ばす　・よく観察する

⑤数学検定準1級の一次試験に合格する!

➡・公式や解き方を忘れないように毎日コツコツ復習する　・先生と一緒に勉強する

⑥チームをより良く進化させていく!

➡・トライ&エラーを繰り返す　・積極的に声をかける

⑦学生に寄り添う支援を心がけるために自分自身を成長させる!

➡・数理的能力の向上はもちろん,資格取得を目指す

・目指すだけではなくその過程(計画性)を大切に,一生懸命取り組む

⑧目標を持ち続けるという姿勢を維持し,この半期が終わった際に形ある状態でなくても自他共にスキルアップしたと認められる!

➡・自身の数理能力の向上

・チューターとしての自覚と行動(言葉遣いや気持ちの面でのサポート)を意識し続ける

⑨もう一度MSLCに来たいと思ってもらえるようなチュータリングをする!

➡・毎週の課題を見ておいてスムーズなチュータリングを行う

・解き方や伝え方などわかっている人に聞いておく

【2年次】

⑩MSLCのチューターとして活動する事を楽しむ!チューターが楽しそうだったらチューティーの学びも楽しくなって両者が有意義な時間になるため!

➡・MSLCチューターとして数理能力に限らず,社会人基礎力や人間性など様々な面で自分が成長できているということを意識するようにする。

・自分成長を実感できるように目標設定を行う。

①学期末までに数検準1級取得する!

②データ管理のリーダーとして新しい取り組みや引き継ぎを意識して行動する!

➡①勉強する　MSLCのチューターとして活動する事を楽しむ!チューターが楽しそうだったらチューティーの学びも楽しくなって両者が有意義な時間になるため!

➡MSLCチューターとして数理能力に限らず,社会人基礎力や人間性など様々な面で自分が成長できているということを意識するようにする。成長を実感できるように目標設定を行う。

②勉強会の企画と引き継ぎ書の作成

⑪わかりやすいTRを心がける!

➡理解したことを具体例を使ってもう一度自分で再現する。自分自身のTRの質を向上させる!

➡普段の挨拶や会話で明るくコミュニケーションをとることを心がける。

⑫自分の発言や行動に自信を持てるようにする!

➡自ら色々なことを学び,挑戦し経験を積んでいく。

⑬自己成長する! 学ぶ楽しさを伝える!

➡数検やインターンなど色んなことに挑戦し,学ぶ楽しさを自分自身が知る。

⑭「伝える力」を向上させる!

➡先輩のチュータリングやスライド,発表を観察して取り入れる

⑮チューターとしてのスキルを向上させる!

➡数検に挑戦する

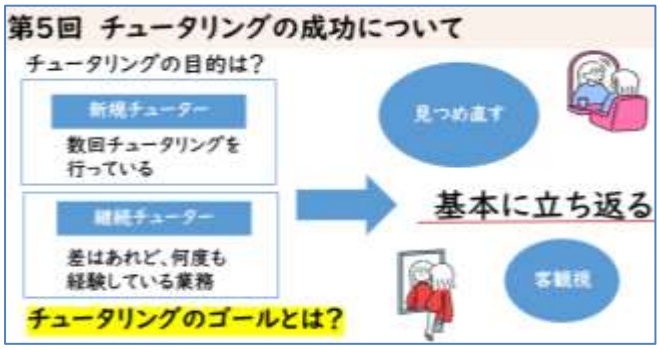
⑯自分自身を成長させる!

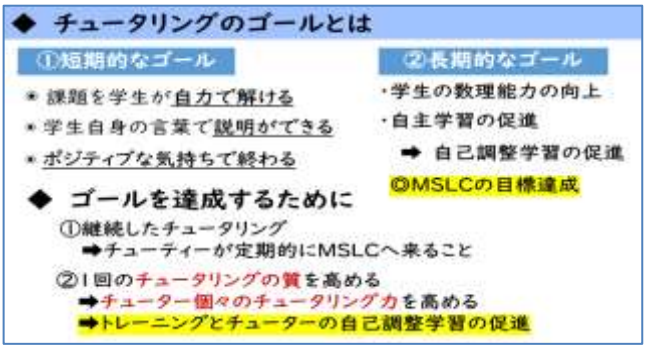
➡・相手に伝えることを上手く言語化できるようにするためにTRをたくさん経験する。数検2級を取得する
【1年次】
⑰MSLCに来てもらったチューティーがまた来て学習したいと思えるようなTRをする! ➡わかりやすい説明を心がけ,学習することの楽しさや問題を解くことを通して分かち合う。

宣言シート:チューターのプレゼンテーションの中で,各チューターが今期の目標・行動計画を立てた。

目標:学生に数理科目はもちろん学ぶことが楽しいと思ってもらえるようにする! 行動:ダイアローグ,承認力を意識したTRを行う。自分自身も学び続けることを忘れない
目標:チューティー,チューター共に「私に教えてもらってよかった」と思ってもらえるようにする! 行動:責任感のある行動を心がける。分かりやすい言葉を使う。
目標:MSLCをより良くするために提案をする! 行動:MSLCを客観視する。提案があったら必ず発言する。
目標:新規チューターが楽しく分かりやすいTRができるようにサポートする! 行動:新規への積極的な声かけ,良いところを伸ばす,よく観察する
目標:数学検定準1級の一次試験に合格する! 行動:公式や解き方を忘れないように毎日コツコツ復習する。先生と一緒に勉強する。
目標:チームをより良くし進化させていく! 行動:トライ&エラーを繰り返す。積極的に声をかける。
目標:学生に寄り添う支援を心がけるために自分自身を成長させる! 行動:数的能力の向上はもちろん,資格取得を目指す 目指すだけではなくその過程(計画性)を大切に,一生懸命取り組む
目標:目標を持ち続けるという姿勢を維持し,この半期が終わった際に形ある状態でなくても自他共にスキルアップしたと認められる! 行動:数理能力の向上。チューターとしての自覚と行動(言葉遣いや気持ちの面でのサポート)を意識し続ける。
目標:もう一度MSLCに来たいと思ってもらえるようなチュータリングをする! 行動:毎週の課題を見ておいてスムーズなチュータリングを行う。 解き方や伝え方などわかっている人に聞いておく。
目標:MSLCのチューターとして活動する事を楽しむ!チューターが楽しそうだったらチューティーの学びも楽しくなって両者が有意義な時間になるため! 行動:MSLCチューターとして数理能力に限らず,社会人基礎力や人間性など様々な面で自分が成長できているということを意識するようにする。自分の成長を実感できるように目標設定を行う。
目標:学期末までに数検準1級取得する! データ管理のリーダーとして新しい取り組みや引き継ぎを意識して行動する! 行動:勉強する。勉強会の企画と引き継ぎ書の作成
目標:わかりやすいTRを心がける! 行動:理解したことを具体例を使ってもう一度自分で再現する。
目標:自分自身のTRの質を向上させる! 行動:普段の挨拶や会話で明るくコミュニケーションをとることを心がける。
目標:自分の発言や行動に自信を持てるようにする! 行動:自ら色々なことを学び,挑戦し経験を積んでいく
目標:自己成長する!　学ぶ楽しさを伝える! 行動:数検やインターンなど色んなことに挑戦し,学ぶ楽しさを自分自身が知る
目標:「伝える力」を向上させる! 行動:先輩のチュータリングやスライド,発表を観察して取り入れる。
目標:チューターとしてのスキルを向上させる! 行動:数検に挑戦する
目標:自分自身を成長させる! 行動:相手に伝えることを上手く言語化できるようにするためにTRをたくさん経験する。数検2級を取得する。
目標:MSLCに来てもらったチューティーがまた来て学習したいと思えるようなTRをする! 行動:わかりやすい説明を心がけ,学習することの楽しさを通して分かち合う。

◎第5回 「チュータリングにおける成功について」





今回はチュータリングに焦点を当ててチュータリングの成功について,考えていきたいと思います。
では,基本に立ち返って,「チュータリングの目的は何か?」「チュータリングのゴールは何か?」をみんなで考えてみましょう。基本に立ち返り,自分自身と自身のチュータリングを見つめ直して,客観視して欲しいです。チュータリング成功のために,基本に立ち返り,チュータリングの流れや,身につけるべき力を知ってほしい。そして基本を知る+自信をつけて欲しい。これまで何回かチュータートレーニングのプレゼンテーションを通して「チュータリングとは?」と考えてきました。隣同士で20秒間教え合ってください。継続年数が少ない人から言ってください。チュータリングとはなにか改めて確認しましょう。私たちが大切にしている「ピア・チュータリング」は,チューターとして大切な心構えであり,尚且つ根底にあるものです。

「チュータリングの成功」とは何か?

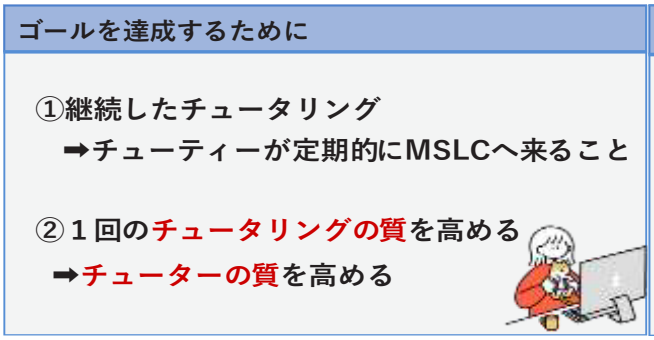
・課題を学生が自力で解けるようになること ・学生自身の言葉で説明ができるようになること ・ポジティブな気持ちで終わることができる。

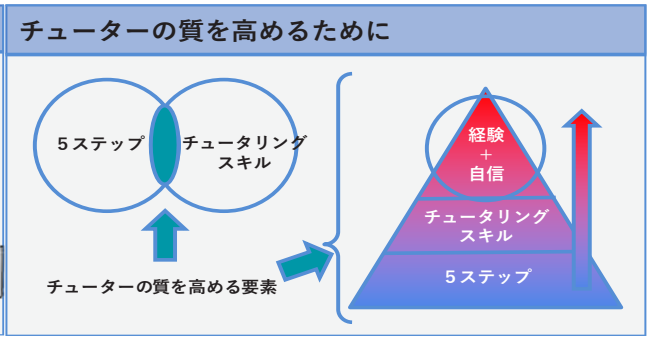
これは,チュータリングの短期的なゴールで,私たちチューターが日々のチュータリングで目指すべきゴールです。

チューターによって短期的なゴールは細かく変わっていくと思います。

長期的なゴールとは,MSLCのゴール「**学生の数理能力の向上,自主学習の促進**」ですね。つまりMSLCの目標達成です。「長期的なゴール ＝ MSLCのゴール」 すなわち長期的なゴールは「自己調整学習の促進」に繋げることです。つまり,私たちはチュータリングの成功を通してこれらの長期的なゴールを達成することができます。自己調整学習は, チューティーだけでなく,チューター自身にも求められています。なぜならば,チューターは学生のロールモデルとなることが求められているからです。

「チュータリングの成功」とは何か? それは「ゴール」を達成することだと考え,短期的なゴールと長期的なゴールを紹介しました。短期的なゴールは私たちチューターが日々のチュータリングで目指すべきゴールです。
では短期的なゴールも長期的なゴールも,達成するためには,私たちはどうすればいいでしょうか。考えるべきは「どうやって」ということです。今回,その「どうやって」の部分を2つの柱,要素に分けました。

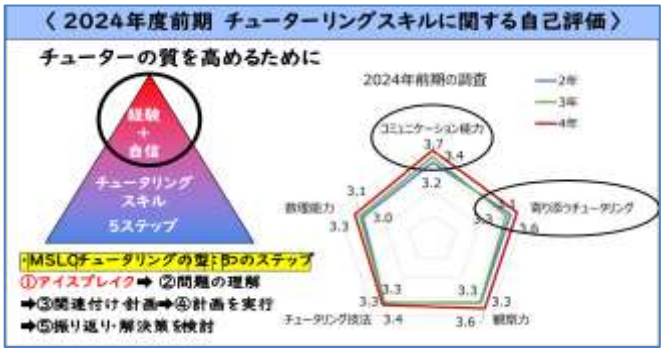


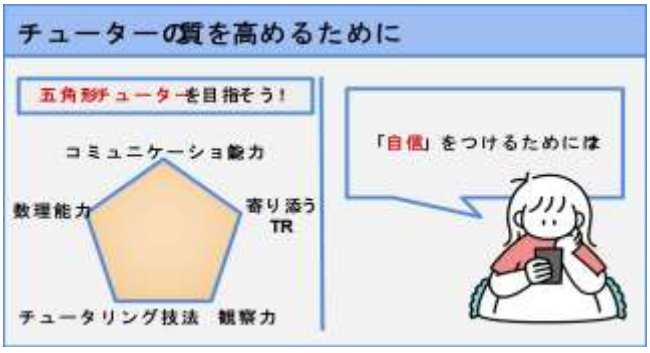


今回のプレゼンテーションでは主に②の「チュータリングの質を高める」ことに着目して進めていきたいと思います。
ではチューターの質を高めるにはどうしたらいいでしょうか。それには,いくつかの要素が絡んでくると考えました。

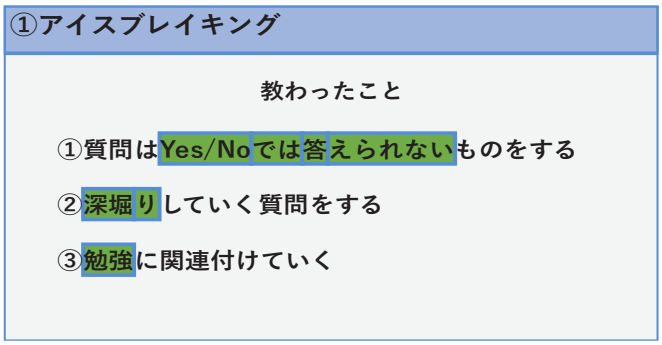
5つのステップとチュータリングスキルについて,ベン図とピラミッド型で説明します。

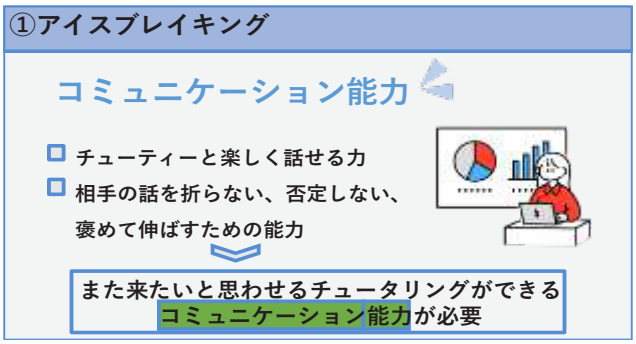
5つのステップは,チュータリングにおける流れで,チュータリングスキルは,チュータリングで必要となってくる力のことです。今回の主役である5つのステップと具体的なチュータリングスキルについて考えてみましょう。5つのステップとは,MSLCのチュータリングの型(問題理解・関連付け・計画を実行・振り返り)+アイスブレイキングです。MSLCで考えたチュータリングスキルとは,「コミュニケーション能力・寄り添うチュータリング・観察力・チュータリング技法・数理能力」です。





この5つの力をどちらも鍛えるということは,五角形チューターになることです。そのためには「経験と自信」が必要になってきます。経験はチュータリングを継続することで積み重ねることができますが,では「自信」はどうしたらいいでしょうか。自信を積み重ねるためには,経験ももちろん必要になってきますが,何より基礎的,基本的なことができるという点が必要不可欠となってきます。





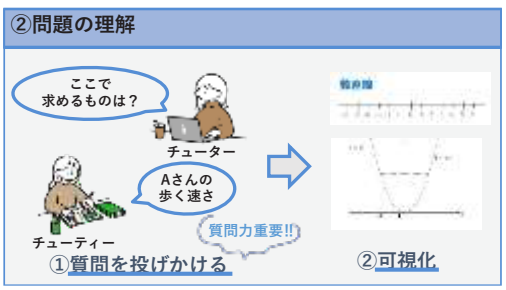
まずはアイスブレイキングで心を落ち着かせてからチュータリングに入ることが重要だと考えます。

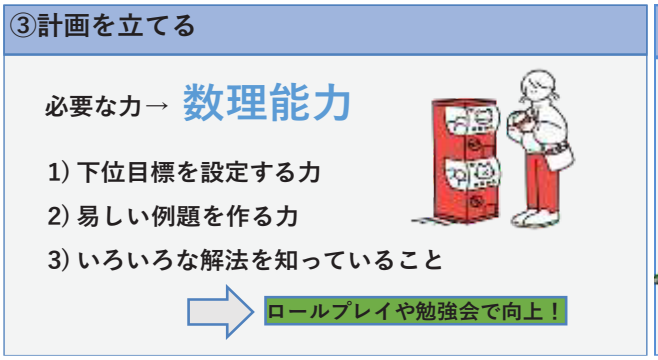
次に,学びやすい関係を作るということです。チューティーがチューターのことを怖い・話しにくいと感じてしまうと,気軽に相談できず,利用者の身近な存在である「チューター」とはかけ離れてしまいます。したがって話しやすい学びやすい関係を作るために重要になります。最後に,相手(チューティー)を知るということです。最初のアイスブレイキングでチューティーがどのような性格か,例えば話すのが苦手な子,好きな子,言葉で表現するのが苦手な子,さまざまなチューティーがいる中で相手を知り,一人一人に合ったチュータリングをする必要があります。

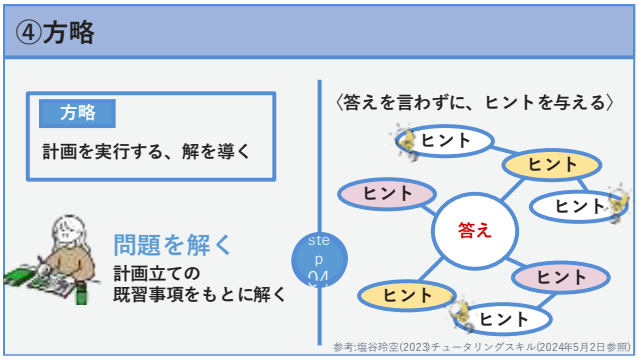
アイスブレーキングは初めの挨拶から始まっています。第一印象で相手に良い印象を持ってもらうためにもまずは笑顔で大きい声で挨拶をすることから心がけるのが重要だと考えます。次に日常会話です。例えば,「どこ出身?,数学好き?,県外だったら何で沖縄きたの?」など,たわいもない話をしてチューティーの緊張をほぐしていきます。最後に当たり前ではありますがチュータリング内容の確認をするということもアイスブレイキングのなかで行うべき内容だと考えます。チューターとチューティーのお互いのゴールを一致させる,つまり「どこの課題をチェックするのか」,「どこまで考えたのか」をお互いが把握し,それに向けたゴールを考えてチュータリングに入ることが重要になってきます。そして,わたしはここで最も重要なポイントして伝えたいのがアイスブレイキング中,常に笑顔を意識するということです。笑顔で悪い印象を持つ人はいないと思いますし,笑顔は相手にポジティブなエネルギーを与え,好意的な印象をもたせるコミュニケーション力の一つと考えます。是非心掛けてみてください。

次に問題の理解に入っていきます。ここでの目的としては,わからなかった問題をチューティーがどこまで理解できているか把握するために行います。ここで私たちに必要な力が「質問力」です。

私たちチューターが淡々と説明するだけではチュータリングをする意味がないので,質問を投げかけ,答えてもらい,わからない場合はチューティー自身がその分からないところを把握してもらうことが重要になります。そして,質問を投げかけるときに,チューティーの答えを引き出す質問力が重要になるのでチュータリングを通して鍛える必要がある力の一つとなります。



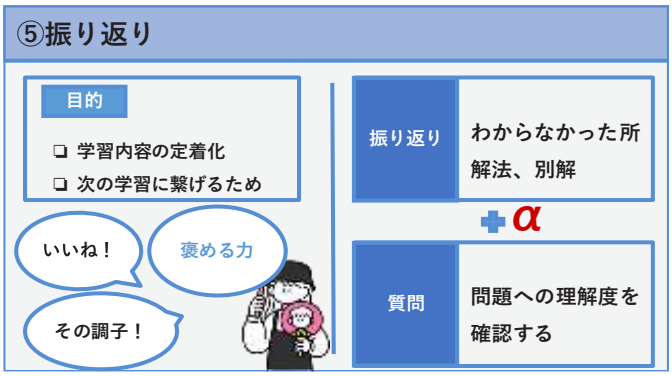


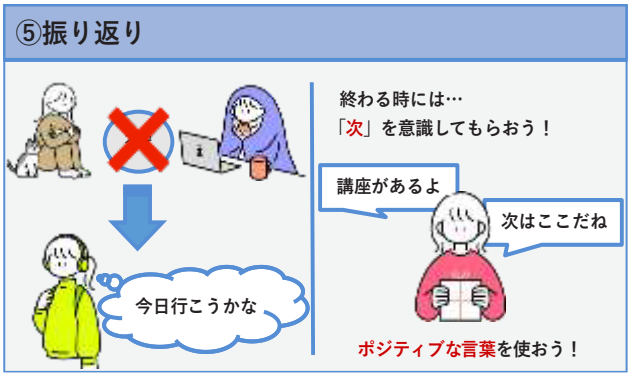


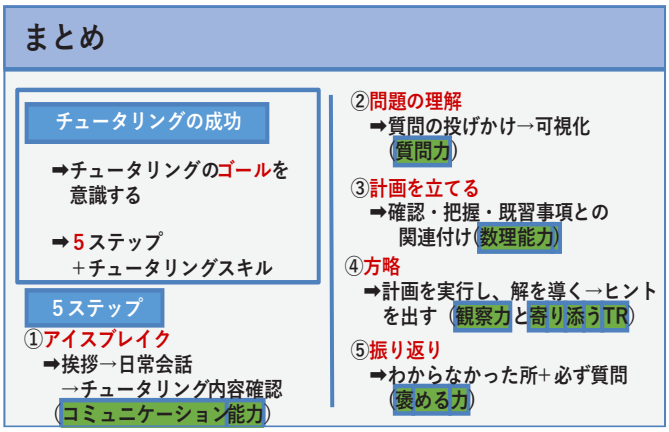
では計画を立てるステップとして,まず基本事項の確認をしていきます。次に躓いている原因を把握していきます。例えば,問題が複雑で分からなかったり,数字が中途半端でわからなかったりなど,どこでわからなくなったのか具体的に探っていきます。そして,既習事項との関連付けをしていきます。問題が複雑でわからない時は,まず基本問題を出して解いてもらったり,数字が中途半端で分からないときは簡単な数字に置き換えたりして問題を理解していきます。

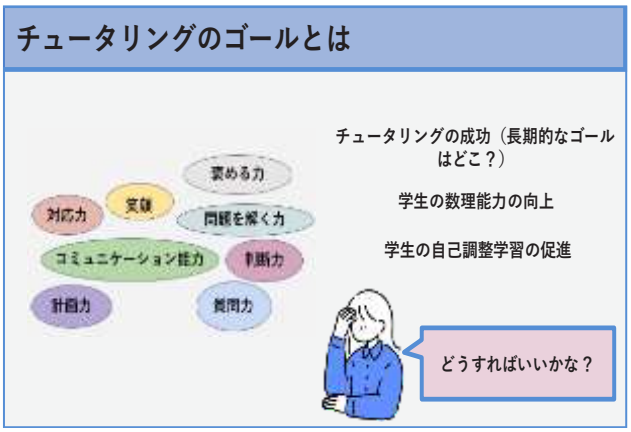
計画を立てるときに必要となる力は「数理能力」です。ここでいう数理能力とは「下位目標を設定する力」「易しい例題を作る力」「いろいろな解法をしっていること」先ほど説明したステップのなかの既習事項の関連づけでこのような力はとくに重要です。「方略」は,立てた計画を実行することです。実際の実行をどのようにするかということです。どのような工夫の仕方があるか,学習内容を定着させる方法はあるかなどです。数的能力も当然必要ですが,普段から取り組める内容として,ここでは問題の解を導くことが挙げられます。注意すべきは「答えを言わずに,ヒントを与える」という点が重要です。「数理能力」とは,数学を解く力だけではなく,それに加えて問題でどういう基礎がないと解けないのかやどのような解き方があるのかをすべて知り,チューティーに答えまで導いていけるか力が数理能力になります。

これは,ロールプレイ,日々のチュータリング,勉強会で向上させていきましょう。



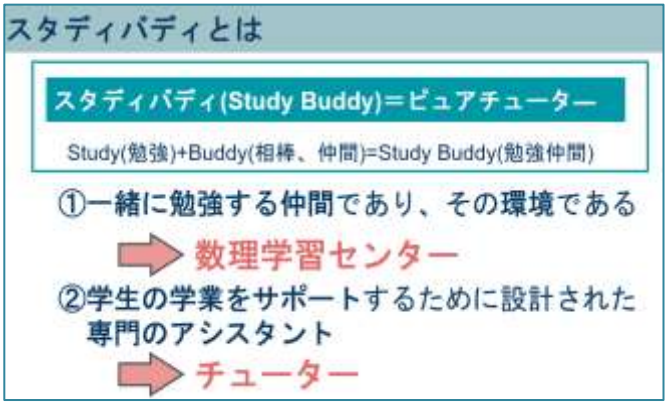






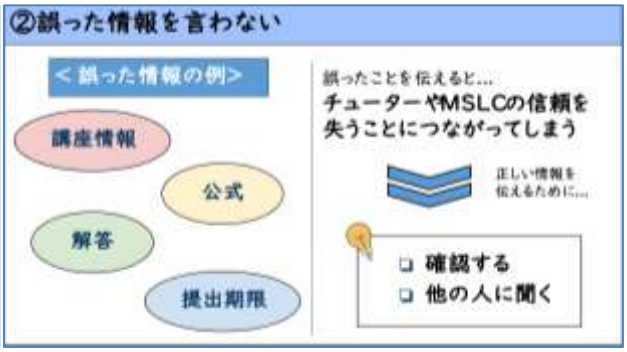
チューターが優先すべき重要な業務は,運営業務ではなく学習支援です。チューターが楽しく勉強に打ち込む姿勢をチューティーは感じ取ります。そのためにも,この第5回の**「チュータリングにおける成功について」**の研修は重要な内容となっています。繰り返し基本に立ち返り自身のチュータリングを見直しチュータリング力を向上させていきましょう。

◎第9回「スタディバディーとスタディグループ」

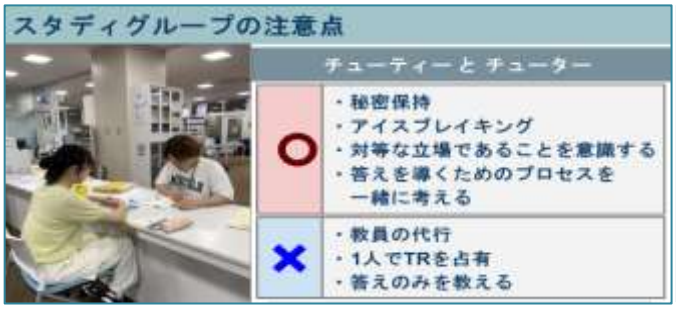


「スタディバディー」は,①一緒に勉強する仲間であり,その環境です。つまりMSLCです。②学生の学業をサポートするために設計された専門のアシスタントである。つまりチューターです。すなわち,「スタディー・バディー」とは一緒に勉強する仲間であるチューターであり,その環境であるMSLCのことだと受け止めることができます。

「スタディー・グループ」は,1対1であっても1対複数のグループであってもいいということです。MSLCでは,チューティーのスタディー・バディーとなって,教えるのではなく,同じ目標に向って共に学ぶ仲間として接していく必要があります。より効果的な学びのためには,チューターと勉強すると分かるようになって楽しいという場にすることが,双方にとって快適なスタディー・バディーとなります。そのためには,上から目線ではなく,同じ学生という対等な立場であるということをチューターが強く認識していることが相手にとって重要なスタディー・バディーとなります。スタディー・バディーがチューティーにとってより効果的な場所となるようにMSLCチューターとしての責任と自覚を持ちましょう。



ここで,気を付けて欲しいことは,「明確な表現」を使いましょう。曖昧な表現を使わないこと,明確な表現をすることを意識して,チューティーを不安にさせない言葉を心がけましょう。次に,「誤った情報を言わない」(講座情報や公式,解答や提出期限)など誤った情報を伝えると,そのチューターだけでなく,他の全チューターやMSLCの信頼を失うことにつながってしまいます。そのようなことをなくすために,まずは自分で確認し,それでも分からない場合は他の人に聞いて,確実に正しい情報を伝えるようにしましょう。



スタディグループは同じ目標に向かってともに学ぶ仲間である。チューティーとチューター,チューターとチューターも。やるべきこと,やってはけないことを認識し,MSLCがチューティーにとって**より効果的な場所**となるように,MSLCチューターとしての**責任と自覚**を持ちましょう!

最後に皆さんに学生主体の学修支援を継続するために意識してほしいことを3つまとめました。

①全員が自分事として課題を受け止める(一人一人のモチベーションが異なると連携が難しくなる)

②自分の業務を全て引き継いでいく(情報共有)

③やりがいを見つけて発展させていく

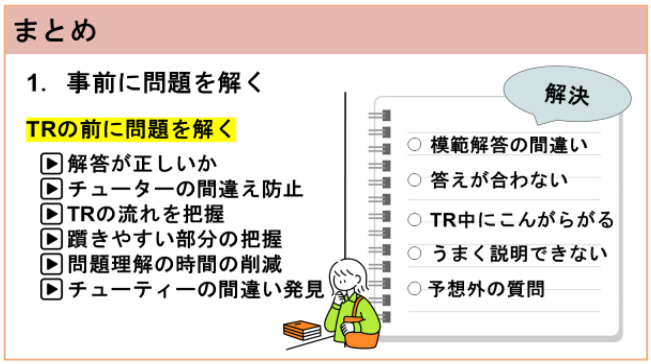
◎第１１回「チュータリングの際の困りごとにどう対応するのか」

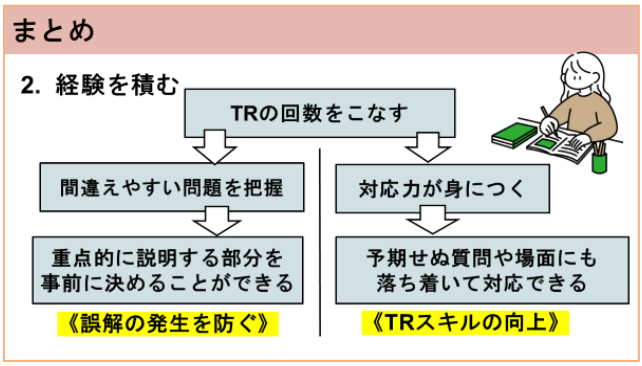
予め全チューターに,チュタリングの際に困ったことがなかったかのアンケートを取り,その対応についてグループで話し合い,それぞれの意見発表をしてもらいました。

<チューターから出た困りごと>
チューティーに対する困りごと
・チューティーが疲れているのか意欲が低いとき　・相手の言葉使いや質問への答え方に棘があったとき ・何を言っても納得してくれないとき　・寡黙なチューティーへの対応方法 ・反応が薄かったり,声が小さく聞き取りにくいとき　・課題を一気に持ってくる学生に出会ったとき ・チューティーが静かでちょっと怖かった　・自分がすぐに解けない問題への対処方法 ・チュータリング中に誤解が生じたときの解決方法　・チューティーが質問や説明が理解できないとき ・自分で考えようとせず何もわかりませんとほとんど意欲を示さないときに対する困りごと ・返事がなく,わかっているのか,わかっていないのかすらわからない場面
TRスキルに関する困りごと
・自分が苦手な問題の時,問題を説明する時に上手い例が思いつかない時 ・予想外の質問をされた際に困った。 ・チュータリング時間が長くなってしまったこと, ・割り算がわからない,と言っていたチューティー→例えば,本人曰く,どっちが割る数でどっちが割られる数なのかがわからなくなる,とのこと。 ・解答等に答えのみしか書かれていなかったとき少し困った。途中式やポイントまで書かれていたらチューターも今以上に自信を持ってチュータリングができるのではないかと思った。 ・チューティーからの質問への対処方法がすぐには思いつかないとき ・チューティーがつまずくポイントがつかめない ・自分がすぐに解けない問題への対処方法 ・チューティーの「分からないところが分からないとき」 ・チューティーのレベルをすぐには把握できない
担当外のTRに関する困りごと
・担当ではない科目のTRが入っていたが,その場に担当チューターがいなかったこと ・健康情報の内容について,深い質問をされた際に悩んだ。 ・健康情報数学のチューティーが来た際に,健康情報数学のチューターがいなかったときの対応が難しいと感じた。 ・専門科目（情報,健康情報,統計学など）について →自分でも対応できる分野なのかを確認する必要がある。また問題を事前にとくなど。 →例えば数学の集合の問題で,ドツボにハマって解けなくなった時とか。 →統計学の後半がわからない
チューターの迷いに関する困りごと
・いっぱいいっぱいなチューティーに細かい部分まで教えると逆に理解し辛くなるだろうなということも考えたり,でも深い部分まで理解してほしいなという気持ちもあったりするので,そのチューティーの理解度や余裕を見極めて伝える情報量を図るのは難しいなと感じたりします。 ・どこまで細かく教えるべきか悩む時がありました。

●各グループの情報交換後の報告

チューティーに対する困りごととその対応
■返事がなく,分かっているのか,分っていないのかすら分からないとき
・数理能力の場合→簡単な質問をして段階的に進める。回答が当たっていたら褒める。 ・コミュニケーション能力の場合　→アイスブレイクを通して話しやすい雰囲気を作る。 ・チューティーの目を見てもう一回聞く。「難しいよね」と共感して,その反応を見て,もう一度説明して「理解できた？」と聞く。
■自分がすぐには解けない問題への対処方法
・できるところまでやって,分からない部分は後日確認して次のTRで伝える。 ・相談したり変わってもらったりする。一緒に解く。 ・TRを行う前に事前に問題を解き,どのようにTRを行うかシミュレーションを行う。 ・周りのチューターに聞く。
■チューティーのレベルをすぐには把握できないとき
・質問していく。・過程を説明してもらう。・「どうやって解いた？」と聞く。 ・その問題の少し前の内容に戻って,確実に理解できているところはどこか確認する。問題を解くのに必要な公式や知識を理解できているのかの確認をする。
■いっぱいいっぱいなチューティーにどこまで教えるのかの判断が難しい。 チューティー１人１人に合わせて,伝える情報量を調節するのが難しい。
・要点を絞る。どの問題レベルで理解できていないかで情報量の調節が決まるため,チューティーに対して随時確認を取る。 ・簡単に説明してから,「混乱するようならそうなんだ程度で頭の片隅に置いといてくれたらいいからね。」と声をかける。





◆ 定期トレーニングの振り返り <チューターの感想>

◎グループワークで色んな話題について話し合いを行えたことで,自分の考えをより深く考えるきっかけになったし,他の人の意見を聞いてそういう考え方いいな!と勉強になったことが良かった。プレゼンを聞いてる側としては,新しい知識や MSLC チューターとしての自覚とかどんな人間であるべきかっていうのを考えるヒントをもらったりして良かった。

◎実践的な内容に焦点を当てていたことにより,普段の TR や業務において応用できていた点が一番良かったと感じています。TR の際,対応が難しいチューティーへの対応方法・緊急時の対応・主体的な行動を MSLC 内で起こしていくためには,など起こりうる可能性のあるものをそれぞれ調べ,自分なりに咀嚼して発表できていたので,**発表を行うチューター自身の成長がみて取れました**。また,実践的な内容が多かったため,プレゼンテーション内においてグループワークが積極的に行われていた点も一つの成果だと思います。チューター自身が相談しながら考えを生み出していく過程は,今後の MSLC に良い影響を与えると思います。

◎チュータリングの目的や方法を漠然と把握して活動していた私にとって,プレゼンテーションの内容はとても助けになりました。「チューターはチューティーに対して**どのように振る舞うべきか**」,「チュータリングは**どのように進めるべきか**」といった事を知ることで,漠然としていたチュータリングの目標や方針を明確にすることができ,チュータリングの方法で迷うことが少なくなりました。チューターとしての行動規範や心構えを明確にすることで,MSLC の一員としての協調性も高まったと感じました。

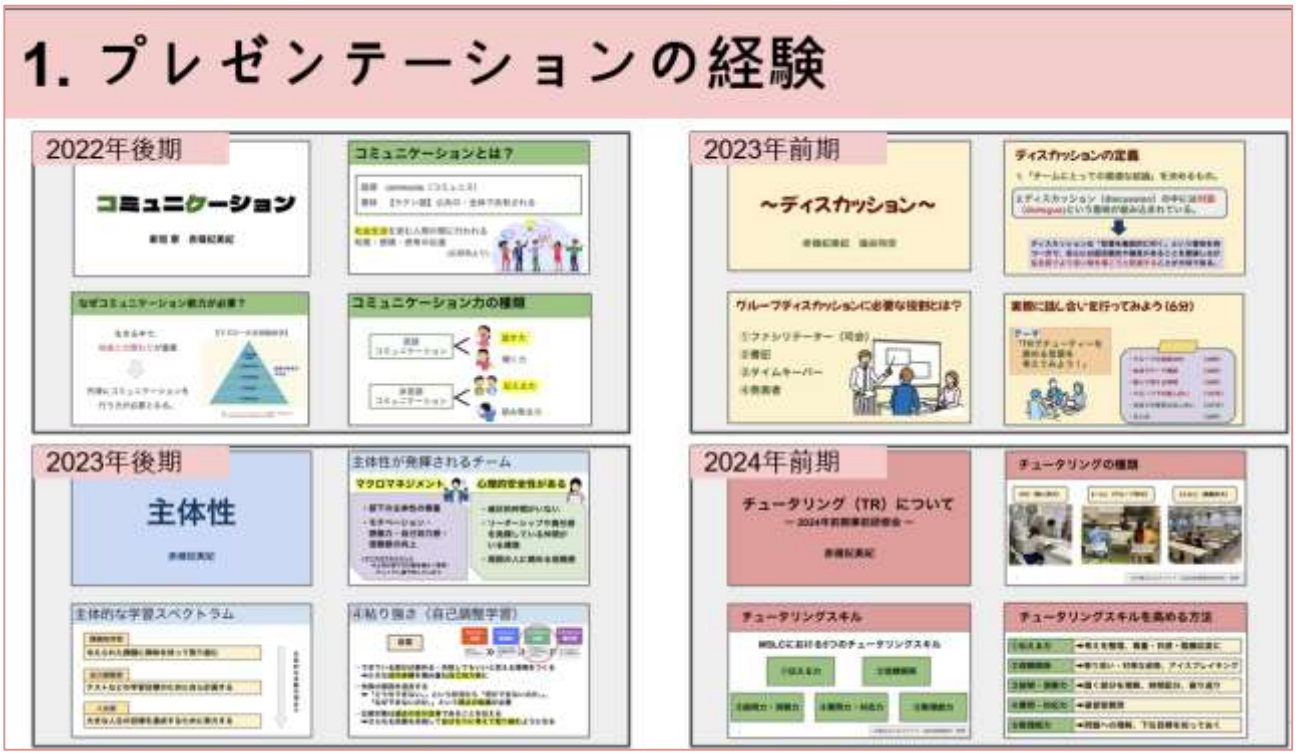
◎チュータリングについての内容だったため,他の人の発表を聞くことでも,自分が発表することでも非常にためになった。特に自身の発表はアウトプットとしてより力になった。また,継続チューターと共に作成したため,新規としては助かった。PowerPoint 作成のノウハウを学ぶことができたので良かった。

◎チューターが主体的に調べ上げそれを解釈することが多かったため,チューターが大いに成長できる取組でした。現時点でとても成果が出てると思いますが,現状維持は失敗を招きかねないので,次回もまた改善していってよりよいプレゼンテーションをつくりあげてほしいと思います。

◎MSLC を客観的に見るための方法や,SWAT 分析を実際にやってみて MSLC の強みや弱みを知れたので今後の活動に行かせたらいいと思いました。考える時間をとっていて,自分の状況に置き換えやすかった。グループでの話し合いの場を設けていて,MSLC に限らず考えていたのが,意見交換で視野が広がりよかったです!他者からの意見を取り入れて深く学べるようにしていた。計画性をもって学びができているかに対しての一人ずつ考える時間があったのがよかった。自分は,学修成果を思い浮かべた時にぼやっとしか思いつかなかったので,日頃からもっと意識して自分ができるようになったことは何なのか考えたら学修に対するモチベーションも上がるのではないかなと考えました。時間をかけて MSLC で活動しているので,せっかくやるなら自分が幸福感を感じながら活動したいなっていう思いがより一層強くなってやる気がアップしたと思う。

今困っていることや問題になっていることの現状を全体で把握することができました。またそこから,解決方法を提案することで,現状の改善に繋がったと考えます。

<発表3>「四期間を終えての所感」　発表者：赤嶺妃美紀（国際文化専攻 3年次）



これから四期間を終えての所感を発表します。赤嶺です。よろしくお願いいたします。

まず初めに成長した点について，

こちらは，私がこの4期間で行った各学期のプレゼンテーションのスライドを一部抜粋したものになります。

毎学期プレゼンテーションを行うことで，スライド作成や発表の仕方が向上し，MSLCに入る前よりも自信をつけることができました。

発表の仕方に関して，先輩から「自分の発表を録音して振り返ってみるといいよ」というアドバイスを頂いてから，実際に試してみました。その際に，自分自身の間の取り方や話し方の癖を知ることができ，少し間を置いたり，強調したい部分は声を大きくしてみたりと工夫を加えました。その後に行ったプレゼンテーションでは，発表の仕方に関して他のチューターから良い評価を受けることができました。

プレゼンテーションの準備中は自分が伝えたいことを言葉や形にして伝えることの難しさを感じて悩むこともありましたが，その分，思考力や判断力を高めたり，やり抜く力がつきました。

発表を終えると大きな達成感を得ることができ，それが自信につながりました。

この場所で自分が考えたことをみんなに伝えるという経験値を積むことができたことは，社会人になっても大きな武器になると感じています。

また,他のチューターのプレゼンテーションを通しても多くのことを学びました。

例えば,プレゼンテーションで意識するべきこと,リーダーとして余裕を持って他者と接すること,時間管理術など,大学生,さらには社会人になっても必要となるスキルを知ることができました。

特にタイムマネジメントに関しては,私がMSLCに入って身につけられたスキルの一つです。MSLCでは,時間内にチュータリングをするスキルや,先生や他の業務に影響が出ないように期限内に終わらせる必要性があったり,シフトの時間に限りがある,ということもあり,タイムマネジメントスキルが必要になってきます。

私は,元々時間管理が苦手だったのですが,ここでの活動を通して,例えば,あらかじめかかる時間を予測し逆算して考える,1日の業務を付箋紙にリスト化する,予定をすぐにカレンダーに書き込むといった習慣が身につくようになりました。タイムマネジメントスキルを身につけることで,同じ時間でもより効率的に動くことができたり,ミスに事前に気づくことができたりする他,自己管理ができたという達成感を得ることができました。

また,チューター以外の活動や勉学にも良い影響を与えてくれました。

学習の面では,チュータリングに必須の数学,統計学の知識を習得できた上で,チューティーの理解度や既習事項に合わせて説明する力を身につけることができました。

また,現在,数学検定準1級を目指して勉強しており,MSLCを辞めた後も勉強し続けて大学在学中の合格を目指します。先生との数学検定の勉強会の中で,学習習慣を定着させることができ,できていない部分の原因や対策を考え,さまざまな問題に触れ,できるようになった問題が増えるたことで自己効力感を高められるといった,自己調整学習が身につきました。 大学生活の中でも自己調整学習が身についたことは,MSLC内の学習にとどまらず,簿記やTOEICといったその他の勉強にもとても良い影響を与えてくれました。

また,日々,勉強しているチューティーの姿を見たり,目標を持って頑張ってるチューターの姿に触発される環境は,モチベーションや学習習慣を維持できている要因の一つだと考えています。

次に,組織の一員としてどのような行動を取るべきか先輩,後輩の両立場に立つことで見つけることができました。

後輩としては,分からないことが多いが,先輩に何度も質問していいのだろうか?と考えてしまいがちですが,自分が先輩の立場になって感じたことは,自分のやるべきことをこなしつつ,後輩の進捗状況を把握したり,できていない部分に気づいてあげることは大変だということです。

この経験を通して,細かなことでも自ら積極的に,質問を投げかけたり報告,連絡,相談を行うことで,周りの人の負担も減らすことができるということがわかりました。

先輩の立場としては,そんな後輩や他の仲間が活動しやすいような環境を作ることが大切なのだと気づきました。先輩が心に余裕を持った言動をすることで,組織の雰囲気は柔らかく,過ごしやすい環境になります。余裕を持った言動を心がけることは,みんなが楽しく快適に安心して活動できるという点で,自分が思っていた以上に意識的に行うべきことだと学びました。

次は,他者との関わりについて,

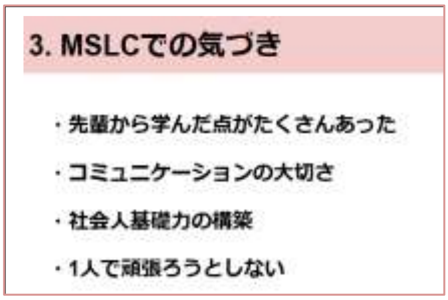
MSLCに所属することで,**多くの方々との出会い**がありました。

私にとってMSLCは,学年が違う先輩や後輩と,**共に学び,**さまざまな問題解決やプロジェクト発表会に向けて意見を出し合い,悩みを打ち明けあえる唯一の場所でした。

そして,学生だけではなく,多くの先生や職員の方とも関わりあうことができました。そのほかにも,「一緒に問題を解く」という過程を通して,チューティーとも関係性を築くことができました。

例えば,「テストの点数が上がった。」と報告に来てくれるチューティーの方や,MSLCに通い終わった後にも,すれ違いざまに挨拶をしてくれるチューティーの方がいて,チューターとしてのやりがいを感じることができ,とても**うれしい気持ち**になりました。

さらに,チューターとしての活動を見てくれていた職員の方の推薦で学生代表として大学の委員会へ参加するという経験もできました。ステークホルダー委員会に参加したことで,大人の方々に混じって自分の意見を発言できるという大変貴重な体験をすることができました。



これらの経験を通して，
気づいたことは，大きくこの4つだと考えます。
まず，先輩からは多くの学びがありました。MSLCは，先輩の活動を間近で見て，触れて，真似て，実践することができる環境でした。また，自分が先輩の立場を経験することで，今までの先輩方が私たちが快適に活動できるように考えながら過ごしていたという点に気づくことができ，感謝の気持ちも感じることができました。

そして，先輩，後輩ともにコミュニケーションを取り続けることは大切だと感じました。どうしても，担当科目や運営が同じ人との会話が多くなりがちですが，私は，MSLCに所属する中で他の科目や運営の人ともコミュニケーションをとることを意識していました。その中で，業務上関わりの少ない先輩から客観的な指摘をもらうことができたり，後輩から確認の連絡が増えたりと，コミュニケーションを取ることは業務にも良い影響を与えてくれていると気づきました。

また，伝える力や主体性を持って行動する力，組織で働く力といった社会人基礎力を培うことができました。

そして，1番の気づきは，1人で頑張ろうとしなくていいということです。アイディアが浮かばなければ仲間に相談したり，手一杯であれば力を借りたり，時には先生に頼ったりと，1人ではなく誰かと助け合うからこそより良いものが生まれるという組織だからこそその良さを感じることができました。最後に，

MSLCで活動する中で私が見つけた今後の課題は，自分自身の評価と，他者が向けてくれている評価にずれがあることです。

今後，自己と他者の認識の違いを理解し，改めて自分自身の強みと弱みをブラッシュアップし直すことで，今まで自信の持てなかった部分で自信を持つきっかけにしたり，強みを増やしていったりといった試みをしていこうと考えています。

総括としてMSLCで学んだすべてのことを，今後の大学生活，さらには社会人になっても活かしていきます。

以上で私からの発表を終わります。

〜〜〜

写真　ポスターの展示

2024年度数理学習センタープロジェクト発表会後の集合写真

Ⅱ 2024 年（後期） 数理学習センター活動報告

↑チューターリーダーが考案した MSLC の紹介（名桜広報パンフレットの原稿）

2024 年度リベラルアーツ機構 数理学習センターの活動状況

1. MSLC 基の本理念

(1)MSLC は，優しさ・笑顔・努力を大事にする学びの空間です。
(2)MSLC は，学生の数理能力の向上と自主学習の促進を目的とした学習支援機関です。
(3)MSLC ピア・チューターは，寄り添う学習支援を心がけ，向上心を持ち，自己実現を目指します。

2. MSLC の目標

(1) 数理系科目の学習支援及び数学苦手克服支援により学生の数理能力の向上を図る。
(2) MSLC 設置 15 周年，MSLC の活動を振り返る(マニュアル等の整備，これまでの活動のまとめ)
(3) 高大接続 入学前教育から初年次教育の検証(高大接続勉強会・入学前特別講座・初年次教育)
(4) ピア・ラーニングの成果をまとめる。
　①センター利用者を対象とした支援効果を検証する。
　②学生ピア活動の支援を継続する。
(5) 名桜大学3学習センターの連携
　①各センター間の学生ピア活動の交流の促進
　②名桜大学のリメディアル教育プログラムを策定する。

3. MSLC の重点努力目標

(1)チュータリングスキルの向上
(2)チューターの積極性と責任
(3)健康情報学科との連携

4. 数理学習センター構成員（人数）

○センター長(1)　副センター長(1)　センター職員(1)，　学生チューター 前期(19)・後期(20)

	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
チューター	1	4	5	1					6	5
レギュラー		1	4	5	2				6	6
アドバンス				3	4	3	1	1	5	7
マスター					1		1	1	2	1
ボランティア								1		1
合　計	1	5	9	9	7	3	2	3	19	20

2024 年度（後期）数理学習センタープロジェクト発表会

1月23日（木）に学生会館 SAKURAUM3階大講義室 A にて，2024年度（後期）名桜大学数理学習センタープロジェクト発表会を開催いたしました。数理学習センターの今期の活動は，新規チューター4名，継続チューター15名，ボランティアチューター1名の，総勢20名で延べ約1200名の利用者をサポートすることができました。

MSLC の活動は，事前研修会の準備から始まります。今回の発表では，その準備も含めた活動内容やチューターの工夫及び学修支援への思いややりがいが伝わる内容となっていました。また，本発表会に向けて，それぞれの活動について，計画・実践・評価・改善をまとめ，データを可視化する作業工程で，チューターが楽しみと達成感をもって取り組んでいることが伝わってきました。このようなMSLCの学びのコミュニティーに溶け込み，学生がピア・チュータリングを受け，チューティーとの信頼関係を築いていることも，チューターの真摯な姿勢から改めて窺い知ることができました。

今回の発表会を通して，今学期の成果として大きく2つ挙げることができると考えます。1つ目は，医療統計学で前期担当チューターと担当教員が連携し，後期の準備を整え，新たな取組を行いました。それにより健康情報学科の学生の利用者が増えたことも成果として挙げられます。詳しくは，後程チューターが報告いたします。2つ目は，スポーツ健康学科の学生の学ぶ意欲の高さ，上質な学習習慣の定着度が顕著であり，学習事項の理解度を向上させる真摯な学習態度が際立って良く，チューターにとっても大きな刺激を受けたことが挙げられます。

これらの成果は，MSLCチューターの真摯な努力の賜物であると確認できたことを誇らしく思い感謝に堪えません。

今回の本発表会には，教職員7名，学生及び卒業生3名（オンライン参加を含む）計 10名の参加がありました。

ご多忙の中，発表会にご参加いただきました皆様ありがとうございました。今後とも，チューターへの激励や指導助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。皆様のチューターへの評価及びお寄せいただきましたコメントは，チューターへの激励と新たなエネルギーへと変わる貴重なメッセージだと受け止めております。心より感謝申し上げます。

<報告資料> 前期の報告は，チューターによるプレゼンテーション研修会の概要を主にご紹介いたしました。
後半は，MSLC利用状況（前期・後期）や事前研修会の準備・運営，業務運営や連携授業の成果などの概要を中心にご報告いたします。

（一部チューターの発表スライドより抜粋）

<発表1>「MSLCの活動報告」 発表者：佐事奏実（国際文化学科 2 年次）

MSLC 運営について説明します。主にこちらの「広報」「データ管理」「新規チューター育成」の 3 つです。

◎「広報」 MSLC の「広報」の活動は，主に 4 つあります。一つ目は数学検定やチューター募集など，MSLC 活動に関する「ポスターの作成」です。二つ目は「月刊 MSLC の作成」です。月ごとの活動報告や今後の予定，学生の声などを盛り込み，センター内外の学生や関係者へ情報を発信しています。三つ目は「インスタグラムを活用した情報発信」や，四つ目に，大学全体の広報活動として，「名桜広報への寄稿」も行っています。これらの広報活動を通じて，MSLC の魅力や取り組みをより多くの人々に伝えるとともに，MSLC 利用における架け橋としての役割を果たしています。

◎「データ管理」 MSLC のデータ管理は，主に 4 つあります。

〇一つ目は書籍や PC の管理です。MSLC には PC の他にも，数学検定や簿記，データサイエンスの本があります。学習支援に必要な教材や備品が適切に利用されるよう，確認や管理を行っています。

〇二つ目はチュータリング予約の管理です。

〇三つ目は定期トレーニングの評価集計です。こちらは毎週ある定期トレーニングに関するフィードバックや評価を学生チューターが行い，集計します。最後に，利用者統計の実施です。また利用者統計に伴い，学生チューターのチュータリング時間の状況も把握しています。利用状況を把握するために，利用者数や利用時間，科目などを定期的に記録・分析しています。このデータは，今後の支援や運営の基礎資料となります。

◎「新規チューター育成」 新規チューター育成の活動は主に３つあります。

この業務の目的は，新規チューターが円滑に業務をこなせるようにサポートし，スキルアップを促進することです。

〇一つ目は新規チューターの日々の業務のサポートです。

〇二つ目は対面でのトレーニング評価の実施です。

チュータリングロールプレイなどを通じて，新規チューターの実践力を評価し，フィードバックをしています。

次に，週１回の新規チューター育成トレーニングの企画と運営です。事前に設定した問題を新規チューターが解き，チューターリングロールプレイを中心に進めていきます。この取り組みによって，新規チューターはチュータリングに必要なスキルや知識を共有し，実践的な力を養っています。

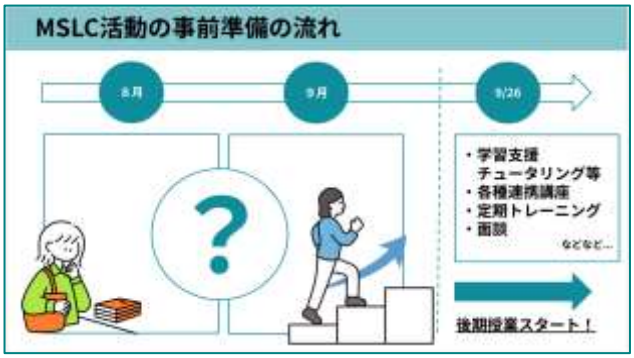
このように，新規チューター育成の業務を通じて，新規チューターのサポートと，今後の MSLC 全体の活動がより円滑に進むよう取り組んでいます。

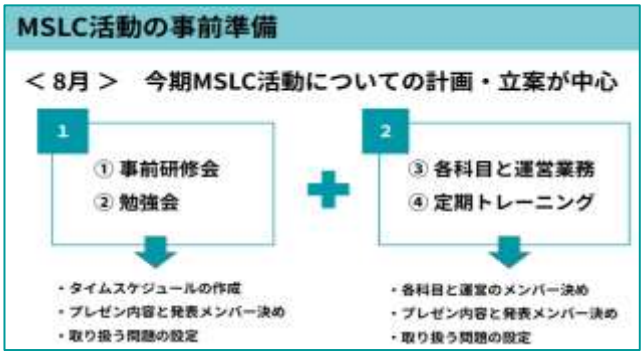
◎「チューター育成プログラム」

次に「チューター育成プログラム」の概要について報告します。

こちらは，MSLC に在籍する学生チューターが半学期を通して経験するチューター育成プログラムの概要です。学習支援および MSLC 運営を円滑に行うためのスキルアップが目的であり，主なプログラムとしては，学期が始まる前に行う事前研修会と勉強会，また週に１回行っている定期トレーニングがあります。その他には，先ほどお話した新規チューター勉強会や，センター長，リーダーとの定期面談があります。

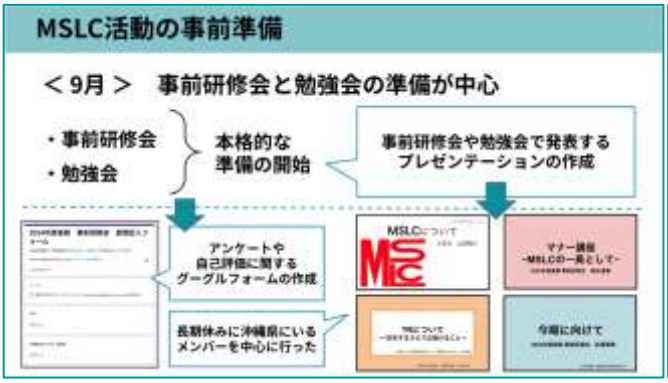
◎ リーダー業務 佐事奏実





「MSLC 活動の事前準備の流れ」についてご説明いたします。

今期は９月 26 日に学期がスタートしました。MSLC では，講義のある学期中の活動を充実させるため，学期中の活動以外に，８月や９月の長期休みを活用して早い段階から準備を進めています。これらの取り組みは，学期を通してスムーズかつ効果的に活動を進めるための**重要な初動** となります。今回は，その事前準備の活動について紹介します。



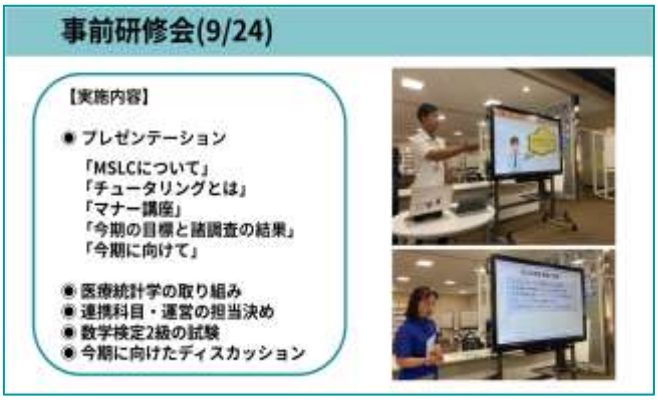
<8 月> ①事前研修会②勉強会③各科目と運営④定期トレーニングの 4 つの準備を中心に動きます。
準備の内容としては，主に MSLC に関連する計画や立案をし，センター長との話し合いを重ねることです。
これらの初動が 9 月の本格的な活動開始に向けた**土台**となります。

〇「事前研修会」と「勉強会」の準備
・タイムスケジュールの作成　・プレゼンテーション内容の設定　・科目・運営班のメンバー決め　・扱う問題の設定など
〇各科目と運営業務の準備　担当メンバーの決定や，科目ごとの引き継ぎ，運営計画の確認
〇定期トレーニングの準備
プレゼンテーションの内容，チュータリングロールプレイの内容，日程，および担当メンバーについて計画を立てる。
特に，今回のプレゼンテーション内容については，過去の内容やその他を含めて 200 の中から 140 のテーマを提案し，センター長や継続チューターとの話し合いを経て約 15のテーマに絞りました。その後，各チューターにアンケートを実施し，プレゼンテーションで使用するテーマを決定しました。
各チューターはプレゼンテーションを約 1ヶ月前から調べ学習し，チュータリングロールプレイを行うなど準備をして定期トレーニングに臨みます。定期トレーニングの第 1-3 回を担当するチューターは，長期休みの際に MSLC で作業をすることがあり，事前準備に力を入れています。これにより，学期が始まった際にスムーズな定期トレーニングの実施が可能となり，より質の高いトレーニングを共有することができます。

<9 月>
〇事前研修会や勉強会で扱うプレゼンテーションや問題の作成
〇当日行うアンケートや自己評価を集計するためのフォームや，当日使う設備の確認
〇事前研修会や勉強会は **前学期の段階** で計画を立て，実施日程を決定しています。
今年度は **9 月 23 日・24 日・25 日** に実施する予定でしたが，**学年別オリエンテーション** との日程が重なったことや，**チューターの参加可能人数の偏りがある**など，いくつかの **問題** が発生し，急遽日程を変更しました。勉強会は，グループを 2 つに分け，日程を調整し，学期開始後行いました。来期はスケジュール調整の精度を高め，より良い準備ができるよう改善を図っていきます。

〇各連携科目の準備
理由：学期開始と同時に，ワークブックを配布したり，科目によっては最初の週からチュータリングに来ること。
内容としてはワークブックの作成や，担当科目の先生方との話し合いがあります。
〇課題点検表の作成，講座開講の際に必要となるチューティーの空きコマを知るためのアンケートの作成

9 月は事前研修会や勉強会の実施に向けた調整や準備が中心となりましたが，それだけではなく，連携授業の計画や定期トレーニングの準備も進めました。これらの取り組みを学期が始まる前に綿密に行うことによって，MSLC の円滑な活動を始動することが可能となりました。



〜〜

ここから，事前研修会の内容です。

（1）2024年度 後期 MSLC 事前研修会の報告　　2024MSLC 定期トレーニング

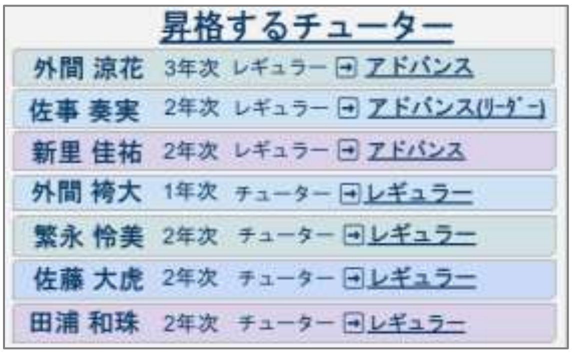
日 時：2024 年 9 月 24 日(水) 9：30〜16：00

目 的：①MSLC の活動目標を共通理解する　　②ピアチューターとしてのスキルの向上

③業務が円滑にまわることを目的とした MSLC の講座や連携授業の計画と準備

④MSLC メンバー相互の親睦を深める

概 要：1 日目：新規チューター紹介・プレゼンテーマ決め・数学検定模擬試験，他

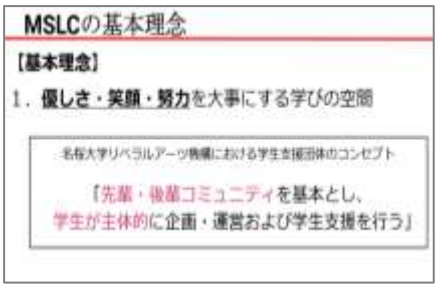


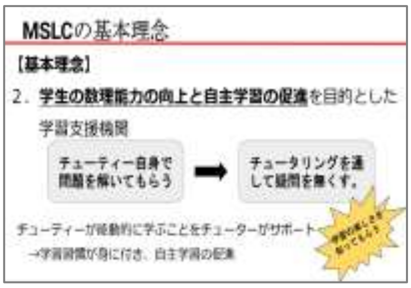
事前研修会では，新規採用チューターへの採用通知書及び昇格証明書の交付後チューターの自己紹介があります。

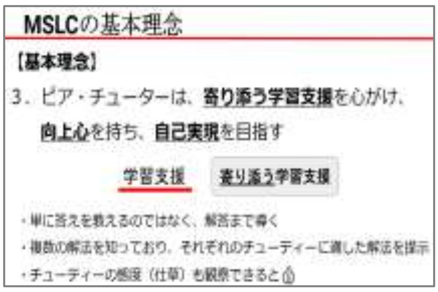
事前研修会は，新規チューターオリエンテーションも兼ねて行います。継続チューターが担当し，チューターとしての心構えやチューターとは何か，チューターの義務と責任，MSLC の活動の内容等を新規，継続共に再確認したり，前学期の課題を改善するために今期の目標を立て，意見を出し合ったりと MSLC の活動内容の理解に努めました。

<事前研修会で行ったプレゼンテーションの紹介>

◎「MSLC の基本理念・チューターとは・その他」 発表者：山田翔大（情報システムズ専攻 4年次）



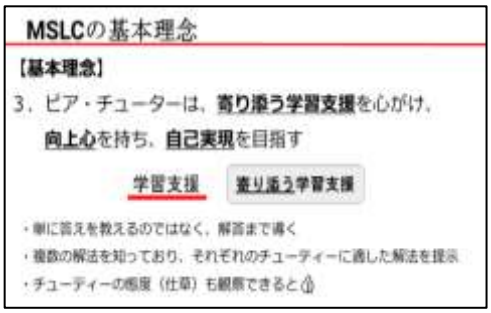


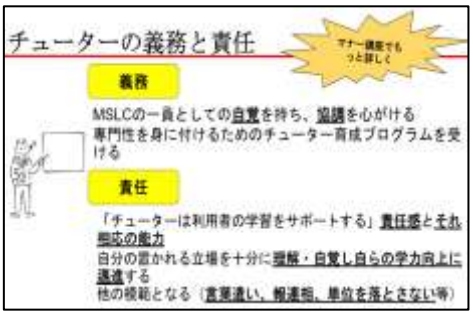


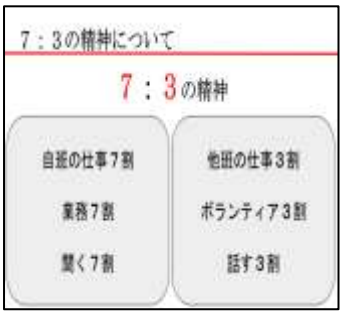
名桜大学のリベラルアーツ機構に置ける学生支援団体のコンセプトである「先輩・後輩コミュニティを基本とし，学生が主体的に企画・運営および学生支援を行う」ことが軸としてあります。

MSLC も学生であるチューターが案を出し，話し合って方針等を決めています。先輩・後輩の垣根を越えて意見を出し合うということが求められます。この事前研修会には，グループワークもあるため，そこで新規・継続チューターの皆さ

んがどんどん意見を出してほしいと思います。また，業務をするなかで分からないことが必ずあると思います。そんな時には気軽に先輩チューターに質問してください。質問や意見を出しやすい環境にするためにも，日頃のコミュニケーションを大切にしていく必要があります。MSLC のチューターとして努めていきましょう。







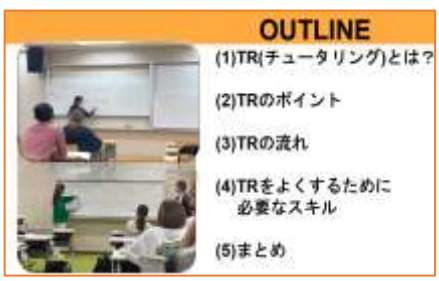
★ 寄り添う学習支援を行うための 3 つのポイント

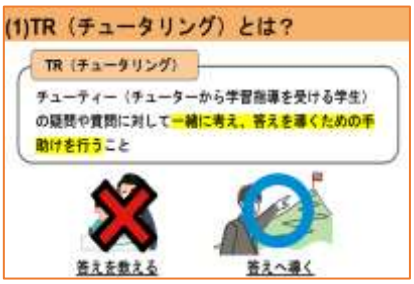
学習支援とは，
①答えを教えるのではなく，チューティー自身で解答を導き出せるようにサポートを行うことです。
チューティーに考えさせ，自ら解を導けるように支援をすることが重要です。MSLC の支援を受けることで「学習習慣を身に付ける，学習の楽しさを知ってもらう，目標を達成させる」ということを，心に留めながらチュータリングを行いましょう。
②複数の解法を知っており，それぞれのチューティーに適した解法を提示することです。
チューティーの学習状況や理解度によって分かりやすい説明や解法は異なります。それぞれに寄り添ってチュータリングを行う意識をしましょう。そのためには，チューターが問題や公式の意味を理解しておく必要があります。特に，新規チューターや不安の残る単元があるチューターは，他のチューターのチュータリングやロールプレイを良く見ておくことが重要です。チューター自身の数学力も必要です。常に学び続ける向上心を持ちましょう。
③チューティーの態度（仕草）を観察することです。
私は新規の時に先輩からこのことを伝えられ，ずっと意識し続けています。チューティーがコミュニケーションが苦手だったとしても，チューティーの集中度合いやチュータリング中の理解度も把握できると考えているため，チュータリングで余裕が出てきたときに取り入れるようにすると良いでしょう。

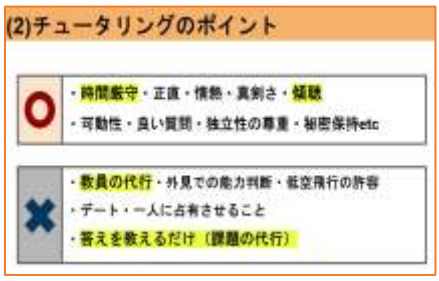
★MSLC では，「チューターの義務と責任」について，オリエンテーションでしっかり理解してもらうように努めています。チームで働くために必要・重要なことです。名桜大学の学生団体には，そのチームの一員として活動するだけではなく他の学生の模範となることを求めています。例えば，**言葉遣い，報連相，単位を落とさない**等，当たり前のことができるということから始めましょう。

★最後に，「7：3の精神」について取りあげます。7：3の精神は，MSLC 業務の中では様々な場面で利用されています。まずは，自分の仕事 7 割，他人の仕事 3 割です。自分の仕事にも集中しなければなりませんが，同じシフトの人や同じ教科担当の業務を手伝ったり，気をかけるように意識しましょう。次に，業務 7 割，ボランティア 3 割です。全ての業務でお金が発生するわけではありません。自分自身のスキルアップのためでもあるため，自己成長のための経験としての意識も持ちましょう。また，聞く 7 割，話す 3 割です。チュータリング中やコミュニケーションで大切となっていきます。話しやすい環境を作り，注意深く耳を傾けることで，チューターや私生活で相手に過ごしやすい環境を作ることができます。

◎「TR について～TR をするうえで心掛けること～」 発表者：山内貴裕（スポーツ健康学科 3 年次）



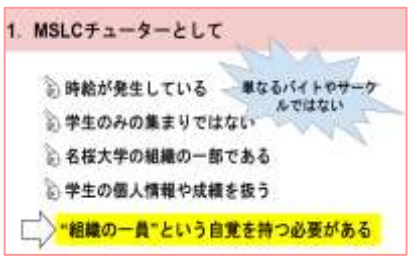


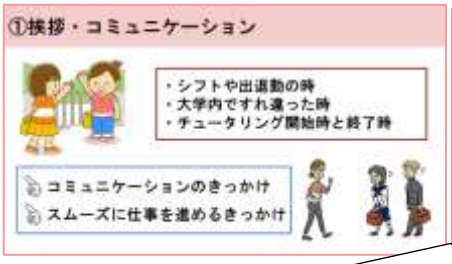


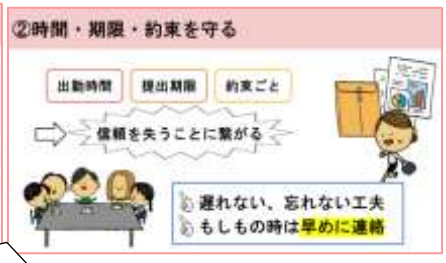
チュータリングを行う際のポイントについて説明します。
まず，チュータリングでしてはいけないことがあります。ここではこの 3 つを取り上げています。

1つ目の「教員の代行をすること」です。チュータリングはあくまで「手助け」をすることが目的です。覚えておきましょう。
2つ目は，1人でTRを占有することです。意図的に同じチューティーを担当することは避けましょう。
3つ目は，答えを教えるだけの課題の点検は，あってはいけません。

◎「マナー講座- MSLCの一員として-」　発表者：森田 春香（国際文化学科 2年次）

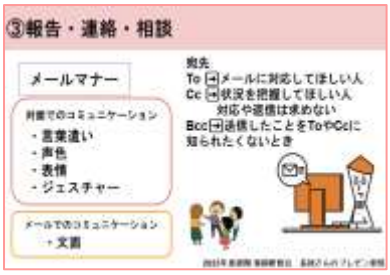






MSLC団体に所属する私たちチューターには，
・時給が発生している
・先生方と連携し授業のサポートを行っている
・名桜大学の組織の1部である
・学生の個人情報等も扱う　　など
他のバイトやサークルとは少し異なっています。
そのため，組織の一員であるという責任と自覚を持つ必要があります。

私たちは，出勤時間や資料の提出日など，守らなければいけない時間や期限があります。これらを守れないと信頼を失い，業務に支障をきたす恐れがあります。
個人のホワイトボードに自分の業務内容と期限を書くなど，遅れない，忘れない工夫をしましょう。
それでも，遅れてしまいそうな時は，できる限り早めにリーダーや先生に連絡するようにしましょう。



仕事を割り振った本人が，それぞれの業務の進捗状況を完璧に把握するのは不可能です。ですから，任された業務が終わったら，すぐに仕事を割り振った人に報告し，確認してもらうようにしよう。確認してもらって，OKが出たら先生にメールで送るなどの次のステップに進もう。自分以外の人にも確認してもらうことで，ミスや失敗を事前に防ぐことができるかもしれない。時間のかかる業務は中間報告も。困ったことがあれば，どんな些細なことでもいいから，事が大きくなる前に相談しよう。報・連・相は必ず‼

「なんでメールマナーが必要でしょうか？」対面でのコミュニケーションと違って，メールは文面でしか用件を伝えられない。そのため，誤解のないように端的に分かりやすく用件を伝える必要があるから

●To，Cc，Bccの使い方

Bccの使い方は，ToやCcの人以外には内緒に共有したい場合や他人のアドレス等の情報を保護するために用います。つまり送信したことがToやCcの人に知られたくない場合，または，複数人に一斉送信をしたいが，個人情報保護のために，送信された人が自分以外の誰に送信したかは知られないように，または他人のアドレス等の情報を保護するためです。安易にCcを使って一斉送信をした場合は，個人情報保護で罰せられることもあります。
このような場合は，必ずBccを使うように注意しましょう。

◎「今期に向けて」　発表者：佐事 奏実（国際文化学科 2年次）

今回このプレゼンテーションにあたって，今期のテーマを2つ設けました。
テーマは今期，私たちが活動するにあたって「意識」してほしいことを取り上げています。
それでは20秒間，グループの人とどんなものを私がテーマにあげたのか予測して話し合ってみてください。
これからの発表を「今期，私たちが意識するべきことってなんだろう」と考えながら聞いてください。
その中で先ほどから何回も言っている，土台型めや地盤を磐石にするために，今期は2つのテーマを設けました。
では，ここで20秒ぐらいグループの人と予測してみてください。

それは「繋げる」ことと，「整える」ことです。
「繋げる」ことをテーマに挙げた理由として，**来期いなくなる人が最低でも5人以上いる。**そして引き継ぎの面では「次誰がリーダーになってもいいように，または誰かがリーダーになっても成り立つようなチームづくり」を行ってください。

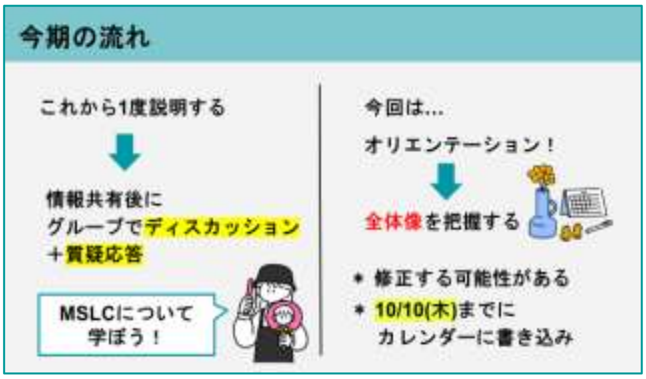
次に「整える」です。何かあれば，一度落ち着いて，自身やチームが持つ業務の優先順位を考える。そのために科目や運営にもリーダーがいます。私たちの第一優先は日々の TR です。

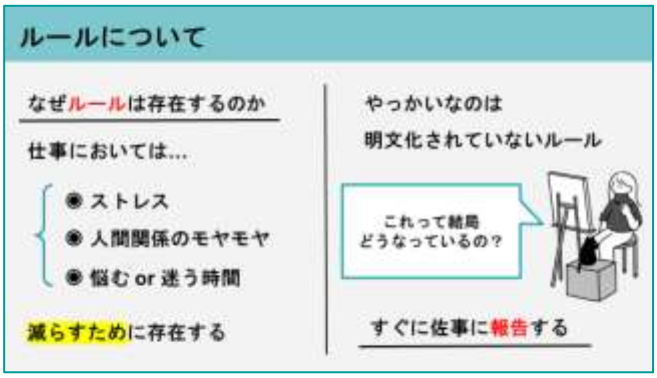
整えることは，**余裕を保つことです。**新しいことを始めるにしても「再現性のある活動に実を結ばなければ」始めた意義が薄れしまいます。そして基本の徹底です。基本の徹底は主にルール面です。

あれもこれもやることがいっぱい！ それを避けたいと思います。

これら 2 つのテーマを意識して，今期は活動していきましょう。これからまた半期が始まりますが，特に 2024 年度は MSLC 開講 15 周年ということもあって，節目の年です。

私たちが余裕をもって MSLC の活動ができるように，「繋げる」ことと「整える」ことを意識してみてください。私たち全員が全員に頼られる組織になりましょう。2024 年度後期もよろしくお願いします。





2024 年度後期 MSLC 勉強会

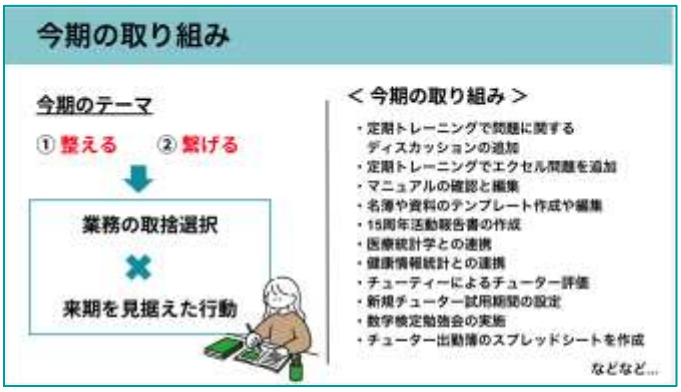
○勉強会ではチューターの数理能力と TR スキルの向上を目的にチューターの理解を深めたい分野を中心に学習をしました。また今学期は数学検定の問題や SPI・公務員試験対策問題などのチュータリングロールプレイを中心に行いました。振り返りのチューターの意見や感想をもとに，成果と課題を来期に活かし，バージョンアップを図ります。

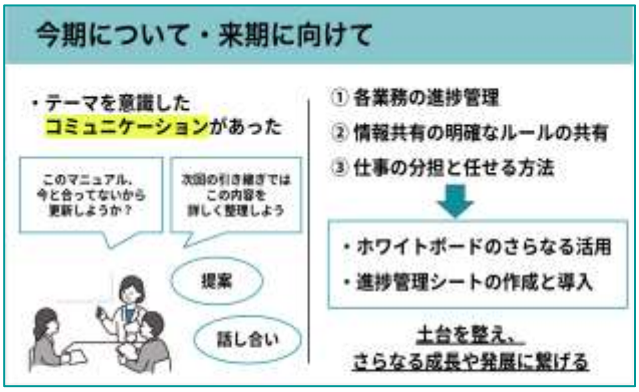
以上が，後期事前研修会・勉強会のプレゼンテーションでした。

〜〜

★ 再度プロジェクト発表会の報告に戻ります。

◎ 今期の取組と来期に向けての報告　　発表者：佐事 奏実（国際文化学科 2 年次）





それでは今期の取り組みについて報告いたします。

今期は事前研修会の際に，MSLC の 2024 年度後期のテーマをメンバーに共有しました。

今期のテーマは「整える」と「繋げる」です。

メンバーにはこの 2 つのテーマを意識してもらいながら活動をしました。それに伴い，さまざまな取り組みと，業務の改善を行いました。例えば，定期トレーニング＆ミーティングの残り時間を利用して，各科目担当班と運営班のそれぞれの情報共有を積極的に行いました。さらに，進捗管理シートの作成です。後期から，チューター出勤簿のスプレッドシートの入力などです。

最後に「今期について，来期に向けて」についてです。

今期は，メンバー全員がテーマである「整える」と「繋げる」を意識しながら行動できたと考えています。

特に，業務の効率化やスムーズな引き継ぎを意識し，「このマニュアルは今の運営に合っていないから更新しようか？」や「資料の作り方を残しておくね」といった声が自然と上がるようになりました。

また，「次回の引き継ぎではこの内容を詳しく整理しよう」「この業務の進め方を改善できないか」といった話し合いや提案も活発に行われ，新規・継続を問わず，メンバー間のコミュニケーションや連携がより強化されたと感じています。

しかし，いくつかの課題も明らかになりました。主な課題として，「各業務の進捗管理」「情報共有の明確なルールの策定」「仕事の分担と任せる方法」の 3 点が挙げられます。これらにはさらなる改善の余地があります。

これらを課題として挙げた理由は，基本的な事項であるからこそ，より強固な基盤を築くために継続的な取り組みが必要であると考えたためです。業務の分担状況を確認した際，特定のメンバーに業務が集中する傾向が見られました。このような状況を踏まえ，各チューターが業務全体を把握し，互いにサポートし合える体制を整えることが，今後の MSLC の円滑な運営において重要であると考えます。具体例としてホワイトボードのさらなる活用と講座やワークブック作成における進捗管理シートの作成と導入を検討しています。これらは今いるチューターだけでなく，今後加入するチューターもスムーズに業務を把握し，作業を進めるようになると考えます。来期に向けては，課題を一つずつ改善し，取り組みを通して業務の質を向上させ，MSLC の活動をより円滑に進めていくことを目指します。

また，引き続き「整える」と「繋げる」の意識を持ち，メンバー全員で MSLC のさらなる成長や発展に努めていきます。

以上で，2024 年度後期活動報告を終了いたします。

<発表2>　「データ管理」 MSLC 利用状況　　発表者：田浦和珠（スポーツ健康学科 2 年次）

プロジェクト発表会では，スライドに示されている 7 点について報告いたしました。

学年別では，1 年生に最も多く利用していただきました。教養科目を多く履修する，1 年生に利用者が多い結果となっています。学科別では，国際文化学科の学生が最も多く利用しています。次に多いのはスポーツ健康学科です。

今回は，初めて❼よく利用している学生の状況について報告しました。

入退室の際に入力されたデータを集計して報告事項の❶～❼の集計を行います。担当リーダーはほぼ毎学期変わるため，一人一人が責任をもって集計ができるように，勉強会を行い，毎月担当者が集計結果をミーティングで報告します。それによって業務が偏らないように，シフトの変更もあります。

※プロジェクト発表会では，学期途中までの集計であったことから，ここでは学期末（前期・後期）合わせて報告いたします。

（1） 月別利用状況　　表 1　2024 年度　月別利用者数（延べ人数・実人数等）

月	4	5	6	7	8	小計	9	10	11	12	1	2	小計
実人数	87	142	133	160	22	223	8	125	112	85	89	5	151
延べ人数	251	395	397	488	27	1558	8	443	332	200	220	9	1212
平均回数	2.9	2.8	3.0	3.1	1.2	7.0	1	3.5	3.0	2.4	2.5	1.8	8.0
授業日数	16	18	20	23	3	80	3	22	18	17	18	2	80
1 日平均利用者数	15.7	21.9	19.9	21.2	9.0	19.5	2.7	20.1	18.4	11.4	12.2	4.5	15.2

本センターの特徴は，授業開始とともに利用者が来ることです。科目によっては第 1 回目の授業から予習課題が出ることや第 1 回授業でプレテスト（高校までの習熟度チェック）を実施するため，MSLC の利用がスタートします。他の連携授業でも徐々に利用者が増えるため，5 月からさらに増えていきます。それによって学習習慣が確立できるようになります。ただし，例年，後期は年末年始の帰省が多くなり利用者が減少する傾向が見られます。

表２　月別利用者延べ人数の３年間の比較

	前　期						後　期							年間
	4	5	6	7	8	小計	9	10	11	12	1	2	小計	合計
2024 年	251	395	397	488	27	1558	8	443	332	200	220	9	1212	2770
2023 年	147	221	218	255	28	869	3	200	229	190	197	23	842	1711
2022 年	213	392	296	378	37	1316	22	210	146	150	109	37	674	1990

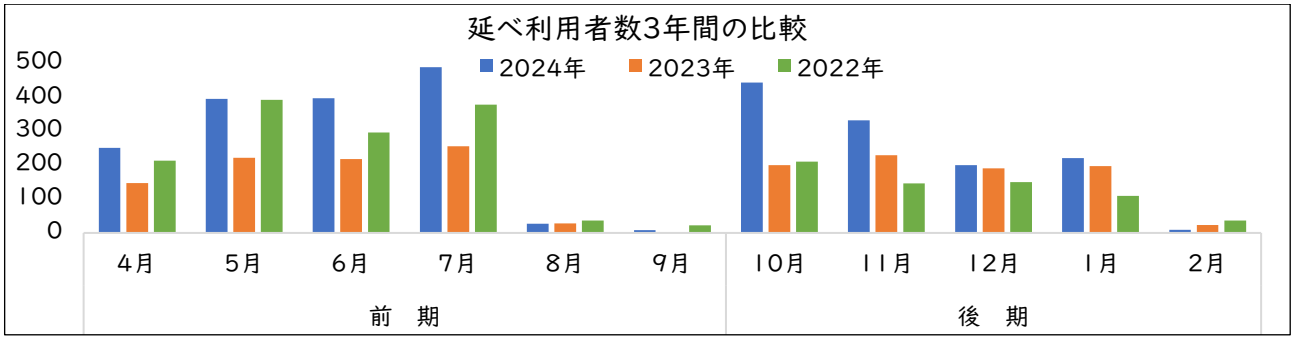


図１　延べ利用者数３年間の比較

表３　月別利用者実人数の３年間の比較

	前　期						後　期							年間
	4	5	6	7	8	小計	9	10	11	12	1	2	小計	合計
2024 年	87	142	133	160	22	223	8	124	111	85	89	5	151	374
2023 年	56	100	94	112	26	174	3	70	71	74	80	20	95	269
2022 年	95	134	91	153	29	214	22	64	54	57	46	29	86	300

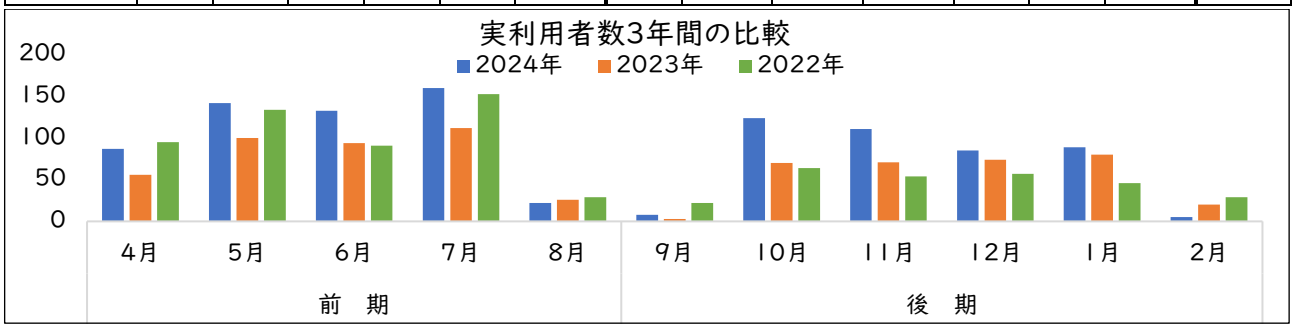


図２　３年間の比較（実利用者数）

[考察]

表 4･表5より3年間の MSLC の利用状況を比較すると，2024 年度の延べ利用者数及び実人数ともに前期も後期も増えていることがわかる。その要因について前期，後期の状況を考察する。

（前期）5 月以降は継続した利用者が多い。数理･データサイエンス･AI の課題対策講座や連携科目受講者以外の SPI 対策講座，数学検定模擬試験対策講座などへの参加があったことが原因として挙げられる。また，7月は期末試験対策講座等があったため，実人数，延べ人数ともに最も多くなっている。前期利用者の平均回数は7回となっており，連携科目の受講者は計画的によく利用している。

（後期）10月 11 月は，医療統計学の受講者全員が基礎力向上を目指して MSLC を利用してリメディアル教材に釣り組み例年より利用者増となった。12 月以降は，年末年始の休暇のため，課題点検や提出率が減少する傾向がある。しかし，後期の統計学基礎受講者は 15 週通して利用状況がよく，利用率 100%，1 人当たりの MSLC 利用回数が 11.9 回と最も多かった。

(2) 学科･学年別利用状況

表４ 2024 年度 （前期）学科･学年別利用者延べ人数･実人数

		延べ人数						実人数					
学部	学科	1 年	2 年	3 年	4 年	他	合計	1 年	2 年	3 年	4 年	他	合計
国際学部	国際文化	583	90				673	37	8				45
	国際観光産業	171	251				422	16	18				34
人間健康学部	スポーツ健康	31	66	1			98	5	6	1			12
	看護	196					196	64					64
	健康情報	110	10				120	41	6				47
国際学群	国際学類			41	3	5	49			15	3	3	21
合計		1091	417	42	3	5	1558	163	38	16	3	3	223

表 5 2024 年度 (後期) 学科・学年別利用者延べ人数・実人数

学部	学科	延べ人数					実人数					平均回数
		1 年	2 年	3 年	4 年	合計	1 年	2 年	3 年	4 年	合計	
国際学部	国際文化	300	73			373	29	13			42	8.9
	国際観光産業	82	106			188	11	11			22	8.5
人間健康学部	スポーツ健康	346	8	8	0	362	23	2	3	0	28	12.9
	看護	0	0	67	0	67	0	0	5	0	5	13.4
	健康情報	28	148			176	13	26			39	4.5
国際学群	国際学類	0	11	17	18	46	0	1	10	4	15	3.1
合計		756	346	92	18	1212	76	53	18	4	151	8.0

表 6 学科別利用割合 (前期と後期の比較)

	国際文化	国際観光産業	スポーツ健康	看護	健康情報	国際学類
前期	43.2	27.1	6.3	12.6	7.7	3.1
後期	30.8	15.5	29.9	5.5	14.5	3.8

[考察]

この3年間は学科別在籍数が毎年大きく変わっていることから, 過年度比較ではなく, 表7, 表 8, 表9より 2024 年度の前期と後期の学科・学年別利用者延べ人数・実人数を比較する。

後期に大きく増加したのは, スポーツ健康学科である。履修者増も大きな要因の一つであるが, 統計学基礎, 数学ともにスポーツ健康学科の履修生は週 1 回以上の MSLC 利用が定着しており, 学習サイクルの確立と主体的な学びができているという印象を受けた。次に, 健康情報学科の2年次の増加は際立っている。要因は, 後期は選択科目の医療統計学が, MSLC との連携授業において, 授業外にリメディアル教材の課題を課し, 履修者全員が MSLC で点検・チュータリングを受けたことによるものである。一方で, 1 年次は減少した。

看護学科は必修科目の統計学が前期のみの開講となっているため, 後期は編入生の5名のみの利用となった。5名の課題提出率はともに 100%でした。

逆に, 国際学部は両学科ともに, 受講者が減少したことが理由の一つに挙げられます。その中でも国際文化学科の 1 年次は利用回数が 10.3 回, 国際観光産業学科の 2 年次は 9.6 回と利用している学生の利用回数は高かった。

(3) 目的別利用状況

表 7 月別・目的別利用状況 *後期の SPI( )の数は講座受講者にも含まれている。

内訳	課題 TR 等	講座	数検対策 模擬試験	SPI・公務員試験対策	その他 (再試験等)	合計
前期	1279	222	9	18	30	1558
後期	1055	118	8	39*	31	1212
合計	2334	340	17	57	61	2770

(4) 連携授業科目別利用状況

表 8 科目別利用状況 (前期)

	統計学基礎	数学	統計学	情報処理諭	健康情報数学 I
受講者数	58	18	103	63	84
実人数	58	18	69	18	33
延べ人数	921	267	204	27	96
利用率(%)	100	100	67	28.6	39.3
平均利用回数	15.9	14.8	3.0	1.5	2.9

表 9 科目別利用状況 (後期)

	統計学基礎	数学	統計学	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ概論	医療統計学
受講者数	41	22	35	115	26
実人数	41	21	33	18	26
延べ人数	489	242	276	25	146
利用率(%)	100	95.5	94.3	15.7	100
平均利用回数	11.9	11.5	8.4	1.4	5.6

表 10　科目別課題提出状況（前期）

	診療情報	情報処理論	情報科学と社会		統計学	
受講者数	28	63	156	156	16	87
回数	全 13 回	全 9 回	前半 1 回	後半 1 回	22 回	23 回
提出延べ人数	356	435	135	48	126	1865
提出率	97.8	78.0	86.5	30.8	35.8	93.2

表 11　課題のオンライン提出状況（後期）

	診療情報	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ概論	情報科学と社会		統計学
受講者数	81	115	99	122	35
回数	全 11 回	全 10 回	2 回	2 回	11 回
提出率	82	62.9	78.3	84.4	67.6

(5) 曜日・時間別利用状況

表 12　後期 曜日・時限別利用者延べ人数

	月	火	水	木	金	合計	月	火	水	木	金	合計
1限	53	74	10	6	47	190	29	39	22	33	50	173
2限	73	138	135	29	32	407	9	22	149	49	24	253
3限	49	127	97	36	38	347	24	65	80	40	54	263
4限	32	128	51	69	64	344	43	101	79	76	30	329
5限	53	89	60	28	40	270	47	50	46	31	20	194
合計	260	556	353	168	221	1558	152	277	376	229	178	1212

[考察]

1. 表8より，例年同様，連携授業の課題点検・チュータリングが多いが，今年の特徴は，特に前期は講座の参加者が例年より多かったこと，後期は数学検定準1級対策講座や勉強会の参加者がおり，定期的に数学の勉強会を実施したことが挙げられる。
2. これまで課題点検やチュータリングを対面，対面及びオンライン，オンラインのどちらかで実施しているが，対面での実施の方がより成果が見込まれると考え，可能な限り対面で行い，履修者の数やチューターの人数によって対面実施ができないこともある。来期は，チューターが少ないことから，表 11～12 の結果をみながら今後も検討をしていくことになっている。
3. 表13より，前期も後期も水曜日の2限の利用者が多いことから，可能な限り1限目の利用を促しているが，水曜日は1年次全学必修の教養演習の講義があるため，水曜日の2限は厳しい状況が続いている。

<参考資料>

1. チュータートレーニング

表 13　2024 年チュータートレーニングプログラム（前期）

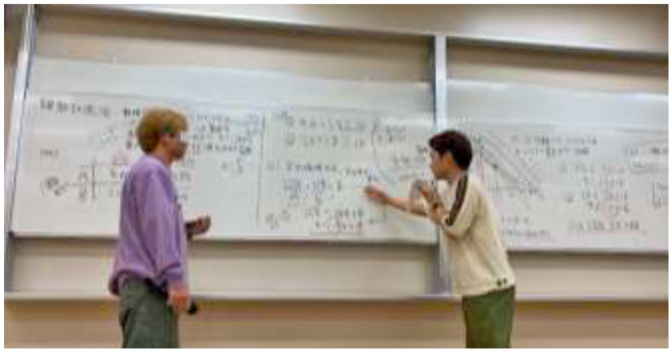
5. チュータートレーニング					
日付	ブレゼンテーション内容候補		担当者	ロールプレイ	担当者
4/11	1 回	リフェラルスキル+チューターの守秘義務	山内	指数・対数/代表値	鷲津・塩谷
4/18	2 回	チュータリングにおける表現や言い換え	山田	行列（数学）	涼花
4/25	3 回	チューターに期待されることと自覚すべきこと	清水	通過算/分割払い	新里・田浦
5/9	4 回	チュータリングにおける傾聴力	佐藤+桃原	集合	新城
5/16	5 回	チュータリング成功のカギは	繁永+佐事	共分散と相関係数	森田
5/23	6 回	創造的思考力・批判的思考力・省察的思考力	谷本	単利と複利	桃原
5/30	7 回	タイムマネジメントと学習方法	袴大+鷲津	ベイズの定理/n 進法	赤嶺・佐藤
6/6	8 回	学習や MSLC において主体性を高めるには	田浦+新里	濃度算/正規分布	繁永・谷本

6/13	9 回	スタディバディ・スタディグループの方法と注意点	塩谷	信頼区間	川鍋
6/20	10 回	グループディスカッション（プロジェクト発表会に向けて）	涼花	t 分布(excel 使用)	具志堅
6/27	11 回	チュータリングの際に直面する対応困難な学生の対応	新城+森田	区間推定/流水算	佐事・袴大
7/4	12 回	ロールモデルとは	川鍋	仮説検定	山内
7/11	13 回	プロジェクト発表会リハーサル①			
7/18	14 回	プロジェクト発表会リハーサル②			
7/25	15 回	プロジェクト発表会			
8/1	16 回	最終 MTG			

表 14　2024 年チュータートレーニングプログラム（後期）

	プレゼンテーション内容候補		担当者	ロールプレイ	担当者
9/26	第 1 回	リフェラルスキル	清水	ロールプレイの説明	佐事
10/3	第 2 回	効果的なフィードバックの提供と受け取り方	川鍋	代表値エクセル	新城
10/10	第 3 回	マニュアルについてのディスカッション	佐事	行列(エクセル) 線形計画法	田浦 川鍋
10/17	第 4 回	個人的な目標設定と達成	外間(涼)	共分散と相関係数	繁永
10/24	第 5 回	自己モチベーションの維持と向上	鷲津	標準化と正規分布・ SPI 集合	佐藤 比嘉
10/31	第 6 回	チーム内での効果的なコミュニケーション方法	田浦 高橋	ベイズの定理 t 分布と z 分布	森田 外涼
11/7	第 7 回	3 つのシンキング(クリティカル・ロジカル・ ラテラル)	佐藤 與那嶺	単利と複利 みんなで解こう	新里 清水
11/14	第 8 回	ストレス管理とメンタルヘルスケア	新城 比嘉	n進法 SPI 確率	高橋 外(袴)
11/28	第 9 回	チーム内の信頼関係の構築	繁永 横溝	SPI 速度算 エクセル課題	與那 山内
12/5	第 10 回	PJ 発表会について 科目：統計学のやっていることの共有	佐事	SPI 流水算 区間推定	横溝 鷲津
12/12	第 11 回	主体性と責任感　(報連相と引き継ぎについても責任感にいれる) PJ 発表会について	新里 外間(袴) 佐事	仮説検定	佐事
12/19	第 12 回	チームビルディングの重要性 科目：情報・診療共有　運営：広報の共有	佐事	みんなで解こう	山田
1/9	第 13 回	プロジェクト発表会リハ①　科目情報共有・引継ぎ			
1/16	第 14 回	プロジェクト発表会リハ②　科目情報共有・引き継ぎ(佐事)			
1/23	第 15 回	2024 年度 MSLC プロジェクト発表会（本番）			
1/30	第 16 回	最終 MTG　今期の振り返りと引継ぎ			

●チュータートレーニング（チュータリングロールプレイ）



●第3回（10/10）トレーニング「線形計画法」
チューター役： 川鍋さん，チューティー役：高橋さん

●第6回（10/31）トレーニング「ベイズの定理」
チューター役：森田さん，チューティー役：比嘉さん

2. 運営業務の報告

表 16 運営業務一覧（内容及び担当者）

担　当	業務内容	前期担当	後期担当
リーダー 副リーダー (リーダーを補佐する)	①全体の統括 ②シフト表作成(学期期間，長期休暇始め) ③月別作業報告書 ④リーダーズ会議への出席 ⑤チュータートレーニングプログラムの作成（センター長と連携して案作りを行い MT で決定する） ⑥チューター育成のフィードバック，成果と課題のまとめを行いプロジェクト発表会で報告する⑦新規チューター募集業務⑧リーフレット作成	◎具志堅 外間涼	◎佐事 森田
広　報	広報･メディア ：①月刊 MSLC 作成　②ポスター･広告作成 ③活動記録（写真･ビデオ） ④名桜広報原稿作成　⑤ホームページ･SNS 管理	◎森田 赤嶺･鷲津 新里･涼花 佐藤･新城 繁永	◎鷲津 森田･新城 繁永･佐藤 與那嶺 横溝
データ管理	データ管理：利用者統計：利用者延べ人数，実人数，月別利用状況等 3 年間比較学科別学年別利用者数，曜･時限別利用者数，科目別利用状況，利用率当， ①書籍管理（書籍確認･書籍移動･書籍登録） ②備品･消耗品の管理，発注 ③提出物管理 ④マニュアル編集 ⑤フォルダーの整理	◎佐事 塩谷･桃原 谷本･田浦 袴大･新城繁永 (具志堅)	◎田浦 川鍋･谷本 袴大･比嘉 高橋 (佐事)
新規チューター育成	MSLC における学習支援のノウハウを継続チューターより学ぶ TR 力向上や連携科目の理解度向上を目指して TR の練習	◎山内 山田･清水 川鍋	◎山内 山田･清水 新里･佐事
マニュアル点検･編集	MSLC 設置 15 周年の記念誌として，2024 年度活動報告及びマニュアルの製本作業	◎具志堅 ◎清水，涼花 佐事，森田，田浦，鷲津	

広報：パーテーション作成

データ管理：データ集計研修会

新規チューター育成：勉強会

◆ポスターで見る広報班の活動　　HP 参照　https://sites.google.com/meio-u.ac.jp/mslc/

2024 年度月刊 MSLC

MSLC 紹介動画

（2024 年度　事前研修会・勉強会・MSLC 紹介動画）

※ MSLC 紹介動画は，学内のデジタルサイネージで紹介しています。作成：新里佳祐（健康情報学科2年次）

3. 連携授業報告

表 17 連携科目一覧（受講者数・担当教員・担当チューター）

	連携科目	担当教員	受講者数		担当チューター
1	自然科学特別講義（統計学基礎）	高安美智子	前期	58	◎赤嶺，森田，新城
			後期	41	◎森田，外間，新城，繁永
2	数学		前期	18	◎川鍋，清水，田浦，繁永
			後期	22	◎川鍋，田浦，横溝
3	統計学	仲程基経	前期	103	◎山内，清水，佐事
			後期	35	◎佐藤，清水，比嘉，佐事
4	情報処理論	天願健	前期	63	◎山田，具志堅，谷本
5	コンピュータ概論		後期	115	◎山田，谷本，袴大，高橋
6	情報科学と社会	仲程基経	前期	159	◎山田，具志堅，谷本
			後期	221	◎山田，谷本，外間，高橋
7	臨床医学総論及び医学用語	大城真理子	前期	28	◎塩谷，桃原，新里
			後期	79	◎清水，新里，與那嶺
8	医療統計学	木村堅一	後期	26	◎清水，新里，與那嶺
	健康情報数学Ⅰ	太田佐栄子	前期	84	◎鷲津，新里，谷本，外間

9	健康情報統計Ⅰ	水　山　　克	後期	71	◎新里,鷲津,谷本,外間,與那嶺,高橋
10	数理データサイエンス･AI	立　津　慶　幸	前期	184	◎外間,具志堅,佐事
			後期	37	◎新里,鷲津,谷本,外間,與那嶺,高橋

表 18 チューターが主催する連携授業の講座一覧

	実施		前期講座 講座名
統計学基礎	4/24		Excel 講座
	4/25	5/8	第Ⅰ回基礎力テスト対策講座
	5/23		第２回基礎力テスト対策講座
	5/24		SPI 中間試験対策講座
	5/24		第Ⅰ回基礎力テスト対策講座
	5/29		第２回基礎力テスト対策講座
	6/12		統計学基礎中間試験対策講座
	6/20	6/26	第３回基礎力テスト対策講座
	6/6		中間試験対策講座
	7/4	7/10	第４回基礎力テスト対策講座
	7/26	7/31	期末試験対策講座
数学	5/22		SPI 中間試験対策講座
	6/7		数学中間試験対策講座
	7/5		SPI 期末試験対策講座
	7/26		期末試験対策講座
統計学	5/21	5/24	中間試験対策講座
	7/2	7/5	単元講座
	7/23	7/26	期末試験対策講座
情報	6/12		中間対策講座
	7/31	8/1	期末試験対策講座
デ*	6/26	7/3	分析課題に関する講座

	実施		後期講座 講座目
統計学基礎	10/11		エクセル講座
	10/16	10/18	第Ⅰ回基礎力試験対策
	11/6		中間試験対策講座
	11/8		第２回基礎力テスト対策講座
	11/15	11.20	中間試験対策講座
	12/6		第３回基礎力テスト対策講座
	1/8		第４回基礎力テスト対策講座
	1/22	1.24	期末試験対策講座
数学	10/30		SPI 中間試験対策講座
	11/15	11/26	中間試験対策講座
	1/5	1/22	SPI 期末試験対策講座
統計	11/6		中間試験対策講座
	1/29		期末試験対策講座
情報	12/6	12/8	中間試験対策講座
	1/24	1/26	期末試験対策講座
デ*	1/21	1/22	分析課題に関する講座

デ*:数理データサイエンス･AI

表 19　数学検定及び数学模擬試験の実施状況

実施日		受験者	合格者	
3/26	第Ⅰ回模擬	２級 20 名	7	合格者Ⅰ名はチューター以外の健康情報学科Ⅰ年
6/10	第2回模擬	２級２名 準Ⅰ級3名	0	受験者はチューター２名, チューター以外の健康情報学科Ⅰ年３名
6/22	第 425 回 数学検定	２級４名 準Ⅰ級Ⅰ名	2	２級２次２名合格
7/19	第３回模擬	２級Ⅰ名 準Ⅰ級３名	1	合格者Ⅰ名は２級Ⅰ次のみ チューター以外の健康情報学科Ⅰ年２名が準Ⅰ級受験
合計		34 名	10	10 名はチューター
9/24	第4回 模擬試験	２級 17 名	10	２級Ⅰ次のみ合格者3名 ２級２次７名合格
10/16	第５回 模擬試験	２級２次Ⅰ 準Ⅰ級Ⅰ次３	1	２級２次のみ合格者Ⅰ名
10･28	第６回 模擬試験	準Ⅰ級Ⅰ次３	1	チューター以外のⅠ名合格 チューターⅠ名,チューター以外Ⅰ名は不合格
2/8	第 437 回 数学検定	２級Ⅰ名 準Ⅰ級３名	0	準Ⅰ級の受験者Ⅰ名は元チューター それ以外の２名は現チューター
合計		28 名	12	

数学検定受験は,自身の数学力向上のために積極的に受験するチューターが多い。

しかし,今年度は残念なことに準Ⅰ級の合格者が出なかった。そこで,準Ⅰ級対策講座のワークブックを配布し,基礎力を確認してから過去問を解かせるように勉強会を実施した。合格者は来期に期待!

4. 連携授業の実践報告

2024年度計画において，学習センターには，学生ピアによる学生支援・学修支援を推進しつつ，センター利用者を対象とした支援効果を検証することが求められた。

数学，統計学基礎については，リメディアル教材や就職試験対策のSPI数的推理問題を授業外学習を義務付けており，数理学習センターで15週を通して課題の点検・チュータリングを行いその効果測定を行っている。

また，今年度後期の新たな取組として，健康情報学科2年次の医療統計学の連携においても，前提科目として1年次に履修した健康情報統計Ⅰの確認問題及び中学・高校での統計分野の既習内容（リメディアル教材）のワークブックをMSLCで作成し，授業外学修に取り組むこととなった。さらに，プレテストとポストテストを実施しその効果測定を行った。そこで，連携授業の報告については，学習支援の効果測定を行った科目と発表のあった科目について報告する。

その他の科目活動報告資料：　https://sites.google.com/meio-u.ac.jp/mslc/　参照

<1> 自然科学特別講義（統計学基礎）　　担当教員：高安美智子（リベラルアーツ機構）

（1） 授業について

この科目は，シラバスに「数学基礎力に課題を感じて，その改善に努力をしたいという意欲的な学生」と明記している。高校までに学習した基本的な計算技術や統計基礎は，授業外課題としてのリメディアル教材を含めたワークブックを配布し授業外学習を課している。15週を通して数理学習センターで学習支援を受けられる体制を整え，能動的に学習する姿勢を求めている。また，授業には，SAとして数理学習センターのチューターが入っており，日ごろから学び合う環境も整えている。

（2）履修状況

表 1　学年・学科別履修者・単位修得者数　　（＊・・・は学科改編のため学生がいない学科）

学科	国際文化		国際観光産業		スポーツ健康		国際学群		合計	
年次別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1 年次	28	15	7	1	3	11	・・・	・・・	38	27
2 年次	7	4	10	8	2		・・・	・・・	19	12
3 年次	・・・	・・・	・・・	・・・			2	2	2	2
履修者合計	35	19	17	9	5	11	2	2	59	41
単位修得者	34	18	17	9	5	11	2	1	58	39

表 2　出席率及び単位取得率

	出席率(%)	単位取得率(%)	備考欄
前期	91.3	98.3（58/59×100）	2 年次 1 人が 2 回目以降欠席（中途退学）
後期	91.7	95.1（39/41×100）	第 5 週目以降 1 名，9 週目以降 1 名がそれぞれ欠席

表 3　履修者の MSLC 利用状況（退学者を除く）

	受講者	述べ利用者数(人)	実人数(人)	利用率(%)	1 人当たりの利用回数(回)
前期	59	921	58	100	15.9
後期	41	487	41	100	11.9

（3）授業外学習の効果測定　プレテスト（診断テスト）とポストテスト（4回の基礎力テスト）の正解率比較

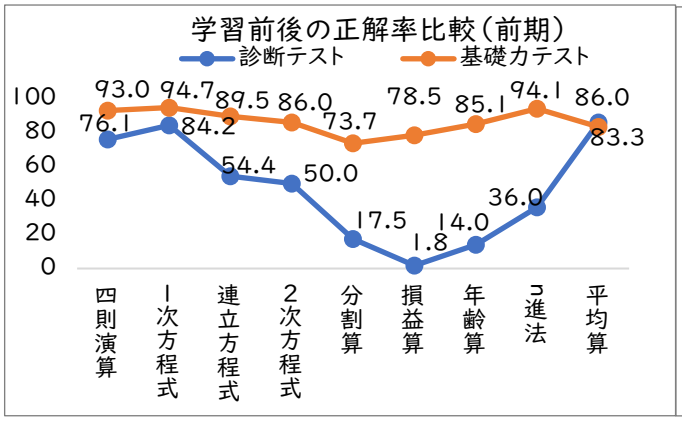


図1　学習前後の授業外学習の結果（前期）

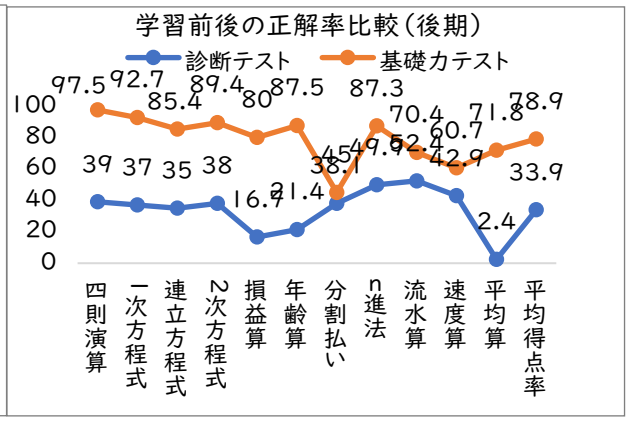


図2　学習前後の授業外学習の結果（後期）

[考察]

図1，図2はプレテスト（診断テスト）とポストテスト（4回の基礎力テスト）の結果である。前期（図1）は，単元ごとの比較においては大きな差は見られない。後半の SPI 問題は，損益算・年齢算は高校でほとんど解いた経験がなく，正解率は低かったものの，数理学習センターを活用して，ワークブックの問題が解けるようになったことが正解率アップに繋がっていると思われるn進法については。高校の必修授業で学習し得ており，忘れていたけど解けるようになったという者も少なくなかったと思われる。図2において伸び率が最も低かったのは，分割払いである。講座の受講者も 3 名と最も少なく，学習が定着していなかったことが分かる。プレテストとポストテストの比較は，前期は 44.5%から 82.4%に，後期は33.9%から 78.9%に上がっている。MSLCでは 15 週を通して課題の学習支援や試験対策講座を開講し，計画的・継続的な学習を行っていることから，この結果を学習支援の成果と捉えている。

（4）MSLC 利用回数と学習状況の比較

表4 （前期）MSLC 利用回数によって3つの層に分けて比較

	MSLC 利用回数	人数	診断ﾃｽﾄ平均点	課題提出平均回数	基礎力テスト平均点	定期試験の平均点
下位層	1～12	17	37.8	26.6	69.9	72.3
中位層	13～19	21	40.0	33.8	77.2	78.7
上位層	20～28	20	33.7	34.2	79.5	79.4

【考察】

MSLC 利用回数順に3つの層に分けて分析を行った。利用可数が最も多かった上位層は，診断テストでは最も低かったものの，診断テストで最も低かったが課題提出状況はほぼ 100%で，基礎力テスト，定期試験共に最も高い結果となっている。

表5 後期 MSLC 利用回数によって2つの層に分けて比較

	MSLC 利用回数	人数	診断テスト平均	課題提出平均回数	基礎力テスト平均点	定期試験の平均点
下位層	1～12	19	46.9	28.4	73.7	72.9
上位層	13～34	20	44.8	33.6	76.9	76.6

【考察】

後期は，受講者が少なかったこととから約半数になるように 2 つの層に分けて比較をした。前期同様，MSLC 利用の多かった高位層は，診断テストの平均点は下位層より低かったものの，課題提出はほぼ 100%で，上位層はほとんどが毎回提出しており，学習後の試験の平均得点はいずれも高い結果となっている。

（5）講座受講者の基礎力テスト・中間試験・期末試験の平均点比較

表6 前期の平均点比較

前期の開講講座	参加人数	基礎力テスト・中間・期末試験の平均点			
		講座参加者	対策トのTRを受けた	プリントをもらった	その他
第 1 回基礎力テスト対策	22	87.5	87.6	87.0	78.5
第2回基礎力テスト対策	17	91	100	90	75
中間試験対策	16	76.9	73.0	88.6	71.0
第3回基礎力テスト対策	14	72.6	79.9	65.8	66.2
第4回基礎力テスト対策	13	86.7	91.1	79.0	71.3
期末試験対策	16	80.7	84.2	71.0	66.0

表7 後期の平均点比較

後期の開講講座	参加人数	基礎力テスト・中間・期末試験の平均点			
		受講者	対策のTRを受けた	プリントをもらった	その他
第 1 回基礎力テスト対策	13	92.7	86.6		83.5
第2回基礎力テスト対策	9	76.5	74.1	73.3	71.2
中間試験対策	10	78.3	69.2	74.1	71.2
第3回基礎力テスト対策	3	72.2	100	77.3	58.3
第4回基礎力テスト対策	10	88.9	80.3		65.5
期末試験対策	12	84.7	88	79.2	71.9

(7) 授業・学修支援の結果　学習前後の自己評価

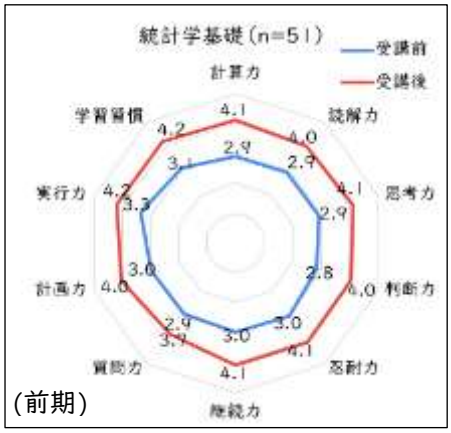


図3　学習前後の自己評価（前期）

図 4　学習前後の自己評価（後期）

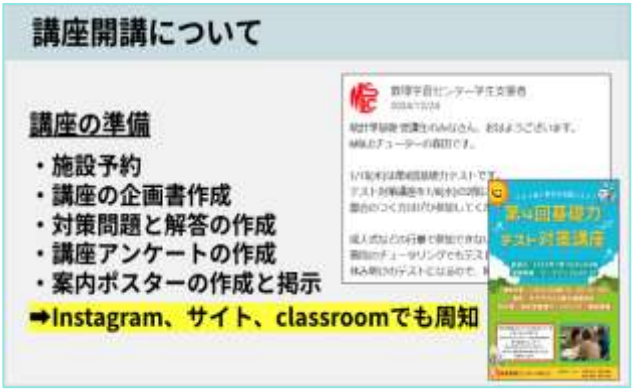
[考察]

この科目は，シラバスに「数学基礎力に課題を感じて，その改善に努力をしたいという意欲的な学生」と明記している。そのため，授業外学習に取り組み自ら課題改善に意欲的に取り組むことを求めている。そのため数理学習センターを活用して努力をした結果の自己評価であり，科目の目標は達成できているものと思われる。

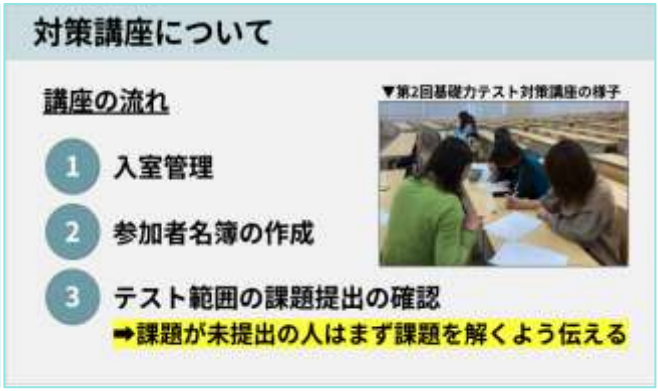
(8) **プロジェクト発表会チューターの報告より**　　**発表：森田春香（国際文化学科 2年次）**

科目担当（前期）：森田春香，赤嶺妃美紀，新城碧唯，
（後期）：森田春香，外間涼花，新城碧唯，繁永怜美

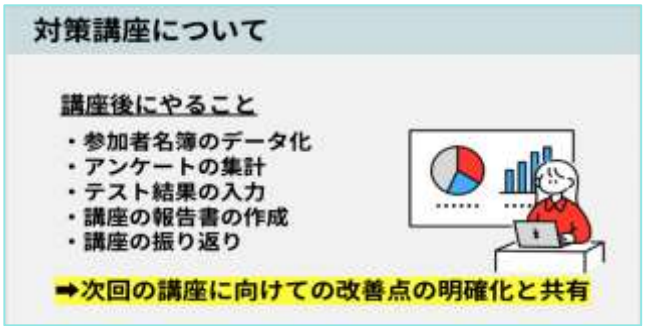
＜後期の報告＞

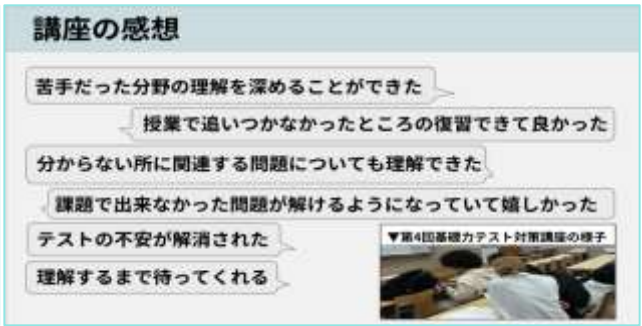


講座開講前までに，行う業務内容は以下の通りです。講座の案内ポスターは，多くの人の目にとまるように，サクラウムでの掲示の他に Instagram やサイト，クラスルームでも案内を行っています。



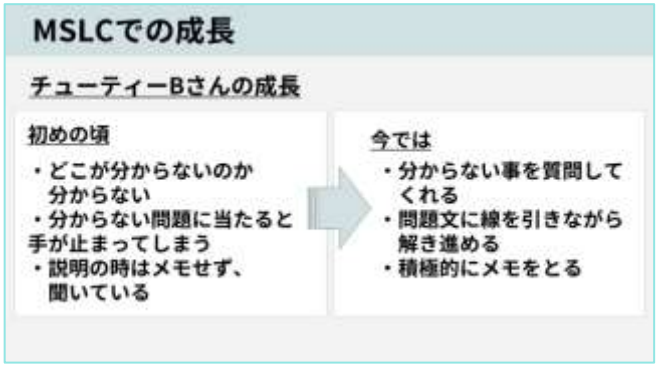
こちらは，講座の流れになります。
今期徹底して行ったことは，テスト範囲の課題が解けているかの確認です。課題は基礎的な問題を扱っているため，課題が解けているかどうかを確認することで基礎固めを徹底しました。

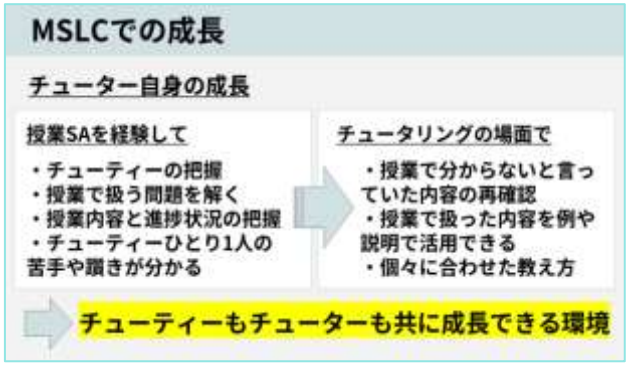




講座の感想では，・苦手分野の理解を深めることができた　　・授業の復習もできた
・分からない所に関連する問題も理解できた　・課題で出来なかった問題が解けるようになっていて嬉しかった
・テストの不安が解消された　　・理解するまで待ってくれるので落ち着いて学習できる
といった肯定的な意見が挙りました。

◆ 統計学基礎講座のポスター



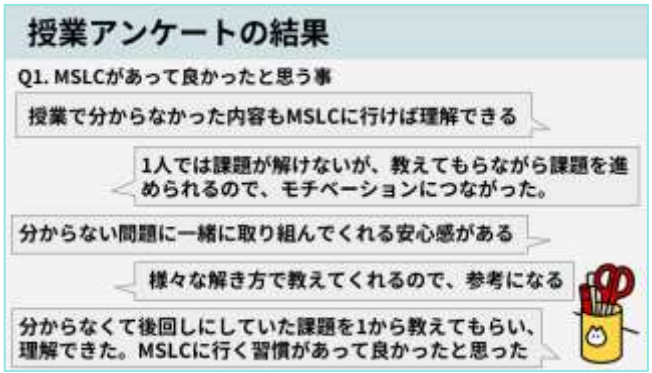


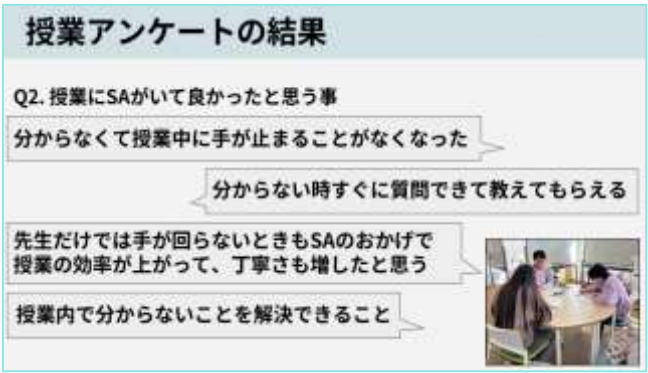
〇チューティーB さんは初めの頃は，分からない問題が分からない，手が止まってしまう，という状態でしたが，TR の回数を重ねるごとに，どこで躓いているかを言ってくれるようになったり，説明の時にメモを取りながら説明を聞いたりするようになりました。問題が解けるようになるという成長はもちろんですが，それと同時に学習への取り組み方・勉強の仕方も成長したのではないかと感じています。

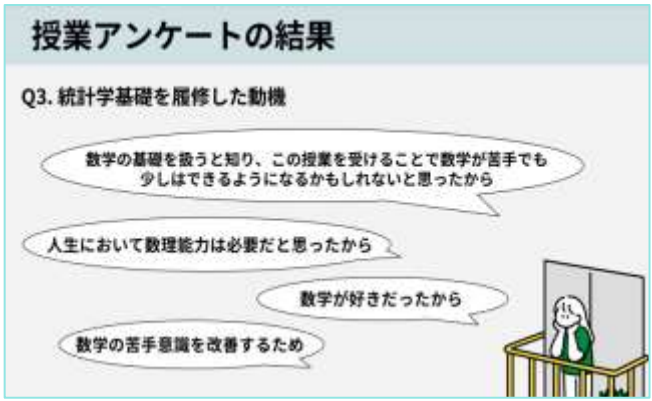
〇チューティーのみではなく，私たち，チューターも日々の活動で成長を実感する場面があります。

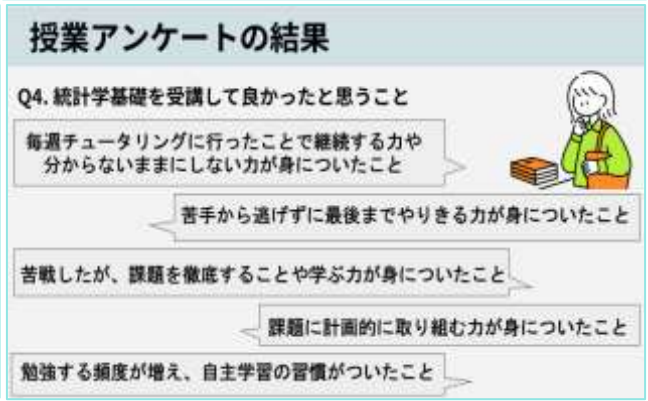
私は，前期に統計学基礎の SA を担当していました。SA を担当したことで，チューティーとの関わりが増え，チューティーの顔を覚えることができ，SA の時に受けた質問を参考に，チューティー１ 人 １ 人の苦手や躓きやすいポイントを把握出来ました。このおかげで，実際の TR の際に，よりチューティー１ 人 １ 人の“分からない”に寄り添い，ニーズに合わせて TR を行えるようになったと思います。

　このように，チューティーのみではなく，私たちチューターも活動を通して，チューティーと一緒に成長できる環境であることが MSLC の魅力であると気付きました。



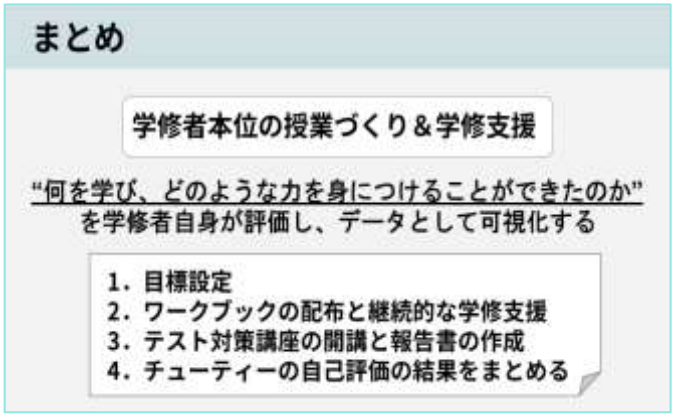






その他の回答
・高校数学の復習がしたかったから。
・データの読み取りや文章問題が苦手で克服したかった。
・商業高校出身でほとんど数学をやっていなかったので，頑張ればできそうだと思ったから
・数学的な思考に自信がなく基礎から学びたいと思った。SPI 問題を解く時に役立ちそうだと思ったから。

「数学が苦手な人に本講義を勧めるか」という回答では，円グラフから分かるように，勧めるとの回答が91%を占めています。
また，MSLC についてのアンケートでは，
「分からないと言いやすい環境だった。」
「答えのみを教えるのではなく，答えまでの過程を教えてくれた」
「TR が楽しくて，通いたくなる」という前向きな感想をいただきました。
課題や授業への取り組みなどの受講生の前向きな姿勢が，MSLC の今回の評価につながったのだと考えます。



その他の回答
・難しい問題にも頑張って取り組めたこと。
・理解しようとする姿勢を思い出すことができた。
・文章問題を自分の力で読み解く力が身についた。
・SPI の解き方が分かり，自信になった。
・苦戦したが，課題を徹底することや理解する力を身につけることができた。
・批判的，論理的な視点を身につけることができた。
・計画的に課題に取り組んだことで，社会に出てから役に立つ力が身についたと思う。
・分からないままにしない力が身についた。
・公務員試験も視野に入れているので，良い勉強になった。
・難しいものもあったが，数学的な問題も楽しいと思うことが出来，諦めずにこの授業を履修し続けて良かったと感じた。
・苦手科目であるがめげずに取り組むことで，解けるようになった快感を得られた。

まとめ
●学修＝知識や技術を学び，それを習得すること。
つまり学んだことが身に付いているということが本当の学びということです。
今期の活動を通して，授業連携について改めて考えました。活動をしていく中で，連携授業の目標は，
「学修者本位の授業作りと学修支援」ではないかと考えました。
今回可視化したのは，以下の 4 点です。
1. 目標設定
➡シラバスに授業の到達目標が書かれています。この目標を達成することを学修者自身が自覚する必要があります。
2. WB の配布と継続的な学修支援
➡日々の TR はもちろん，授業においても SA を配置し，今期の間継続的に学修支援を行いました。
3. 試験対策講座の開講と報告書の作成
➡試験対策講座を設け，試験前に＋α で支援が受けられるように企画しました。
また，報告書を作成することで，チューティーの自主学修の様子が分かり，よりニーズにあった学修支援を行うことが出来ました。

<2> 数学

担当教員：高安美智子（リベラルアーツ機構）
担当チューター（前期）：◎川鍋匠生　清水麻由，繁永怜美，田浦和珠
（後期）：◎川鍋匠生 ，繁永怜美，田浦和珠

（1）MSLC 利用状況と学習状況

表 1 履修者のMSLC利用状況

	受講者	述べ利用者数(人)	実人数(人)	利用率(%)	1 人当たりの利用回数(回)
前期	18	231	18	100	12.8
後期	22	241	21	95.5	11.9

表 2（前期）MSLC の利用回数と学習状況の比較

前期	MSLC 利用回数	人数	診断ﾃｽﾄ平均	課題提出平均回数	SPI テスト平均点	定期試験の平均点
下位層	2~12	5	36.3	25	59.2	61.2
中位層	14~16	7	32.1	39.6	80.7	72.0
上位層	17~23	6	36.5	40.7	84.5	84

表 3（後期）MSLC の利用回数と学習状況の比較

後期	MSLC 利用回数	人数	診断ﾃｽﾄ平均	課題提出平均回数	SPI テスト平均点	定期試験の平均点
下位層	1~7	7	36.7	12.1	65.8	51.8
中位層	9~14	6	40.0	31.8	79.8	72.2
上位層	15~21	8	38.6	37.8	90.0	88.1

[考察]

表2と表3は受講者の MSLC の利用回数によって3段階に分け，第1回授業で実施した診断テストと授業外学習の基礎力テストや授業の定期試験の平均点を層毎に集計し比較したものである。その結果は，前期・後期のどちらもMSLCの利用回数の多い層ほど課題提出状況，テスト点のどちらも高い傾向がみられた。前期も後期も診断テストに大きな差は見られなかった。前期も後期も半数以上の受講者は週に 1 回以上は MSLC を利用していることが分かる。

(3) 授業外学習の効果測定 履修前後の正答率比較

図1 学習前後の効果測定（前期）

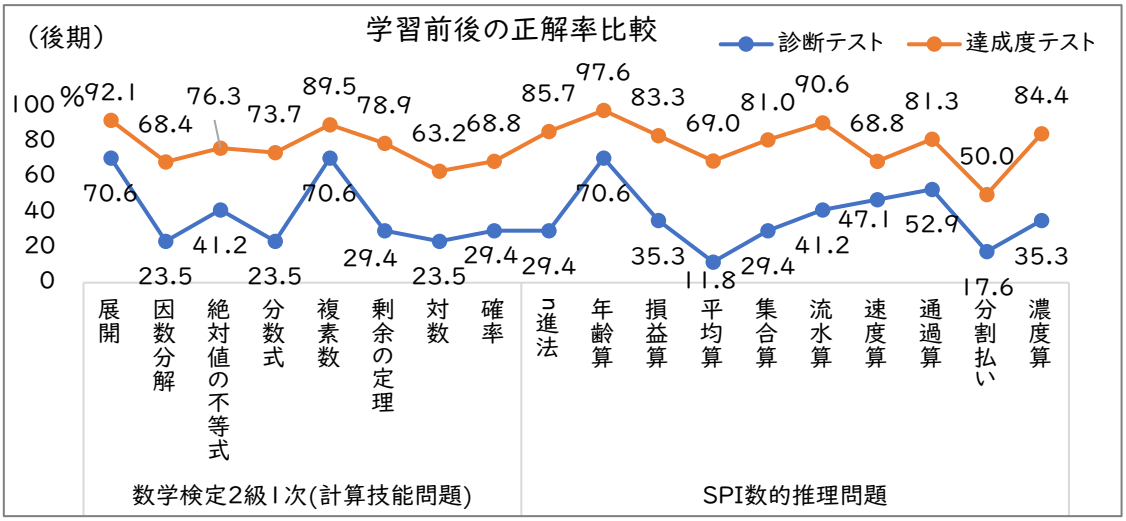


図2 学習前後の効果測定（後期）

[考察]

図1，図 2 のグラフの試験内容は，授業ではなく授業外学習の課題より出題したものである。プレテスト（第1回授業で実施した診断テスト）とポストテスト（2 回実施した SPI 試験・中間試験）の単元ごとの正解率比較の結果である。

ここでの平均算は，公務員試験過去問題からの出題である。全体の正解率平均は前期は34.7%から 74.3%に，後期は 37.9%から 77.9%に上昇した。その結果は，MSLCの支援を受けて取り組んだ授業外学習の成果だといえる。

◆数学の講座のポスター

図3 数学 試験対策講座のポスター

(5) 受講者アンケートより

◆授業評価アンケート

〇数学に苦手意識を持っていたが今は苦手意識が無くなり，数学が楽しく思えるようになった。
SPI 試験の問題もあることで公務員試験の対策も出来ることもこの授業の魅力と感じた。

〇わからないところは授業内でしっかり教えてくれたし，テストの点数が悪かったりすると連絡してくれて再テストをさせてくれたりマンツーマンで教えてくれたりして頑張れた。また，チュータリングにも行くので復習を常にしている感じがよかった。

〇就活で使える SPI の対策や定期試験などがあり将来の役に立つ授業だと思った。また数学力を鍛えることで発想力などの向上にもつながると思った。

〇この講義をうけて，高校までとはまた違った視点で数学という学問を見ることによって数学の面白さをしれた気がしました。また課題の提出が遅れてしまいがちだったので改善していきたいです。

〇毎回予習や復習があったので計画的に勉強することが出来ました。

〇チュータリングで復習予習をしながらの授業であったため，分かるまで出来るようになっており，とても理解度が深まったことが良かった。

〇先生が数学大好きなのが伝わってきて，受けていて楽しかったです。私もより数学が好きになりました。

〇数学の楽しさや高校では行ってない範囲を身につけることができた。

〇SPI など，今後も必要になってくるものを学べたのでとってよかったです

〇授業でわからなくてもチューターが丁寧に教えてくれるため，安心して授業をうけられた。

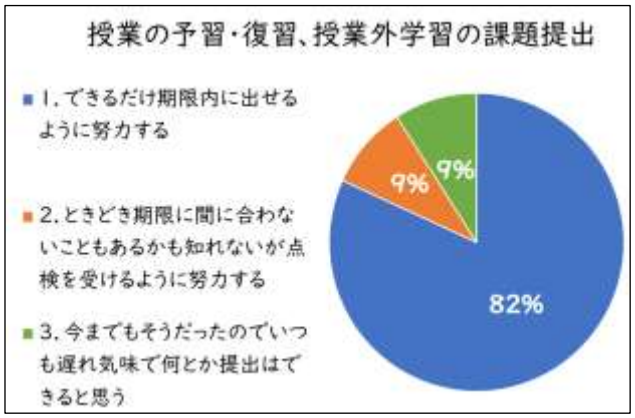


図4 課題提出について

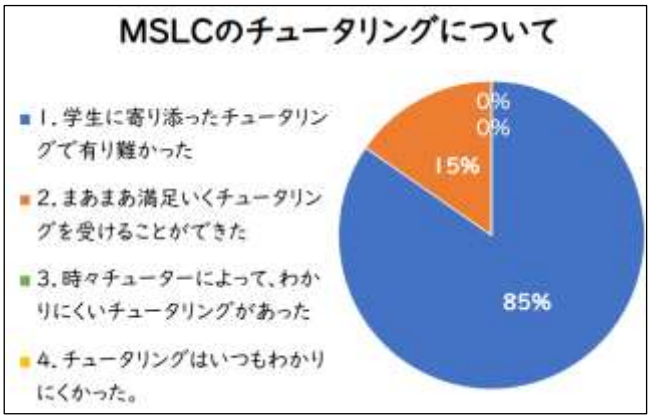


図5 MSLC のチュータリングについて

[考察]

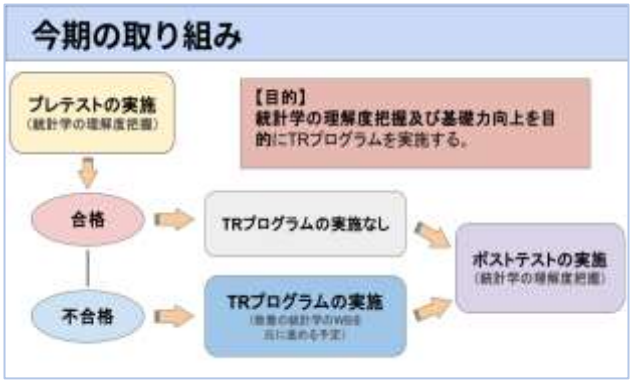
今年の数学履修者の履修動機は，「自然科学科目を履修しないといけないから」という学生が多く，その中には，高校の頃数学が好きだったのでもっと学びたいという学生もいた。しかし，自分の数学力はこれではいけないと努力しようと履修する学生もいました。この科目も授業外学習で SPI 数的推理問題を課しているため，授業外学習ができなくてリタイアした者もいた。課題提出は，82%ができるだけ期限内に出せるように努力すると回答しており，課題提出状況も一部を除きよかった。 MSLCのチュータリングについては，全員が肯定的回答であった。

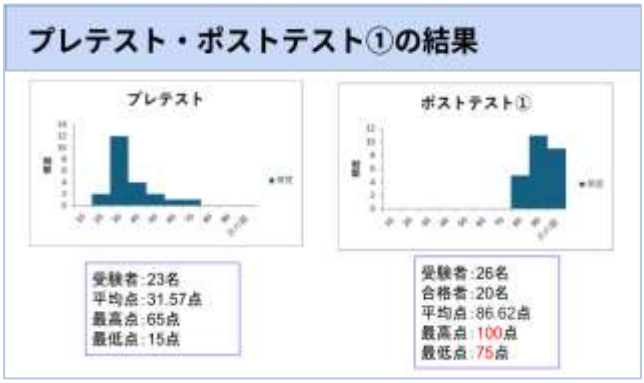
●MSLC があってよかったと思うことは何ですか。
・SPI とか試験の時に，対策プリントくれる。課題を出すのを習慣づけられた。 ・わからない問題を解決してくれる。分からないところをそのままにしないで聞きやすい。 ・早めに予約すれば先生たちに聞くとは違い，時間帯を自分で決めてチュータリングできるところ。 ・分からないところを気軽に聞きに行けるので助かってます。 ・授業でわからなかったことを理解できること。 ・先生に聞くのはハードルが高くて出来ないけど，MSLC に行けば学生が教えてくれることがすごくありがたかったです。 ・解説が丁寧で分かりやすいと感じた。 ・先生に聞くのが少し怖くても，学生でより身近な MSLC では聞きやすい。 ・わからないところがわからず，大丈夫ですといったが，逆にあっちから質問してくれて，わからないところをしっかり丁寧に教えてくれた。 ・自分でインターネット調べてみてもわからない時，自分によりそったチュータリングでしっかり教えてくれる。 ・分からないところを分かるまで丁寧に教えてくれるところです。また，分かるところも別の解き方を教えてくれるところも助かりました。

診療科目
<3> 医療統計学

2024年度後期 発表者：清水麻由（国際観光産業専攻4年次）
担当教員：木村堅一先生（健康情報学科）
担当チューター：◎清水麻由（国際観光産業専攻4年次）
・新里佳祐（健康情報学科2年次）・與那嶺一愛（健康情報学科1年次）

支援内容　・医療統計学の WB 作成と点検・チュータリング　　プレテストとポストテストの実施
今期は医療統計学で新たな取り組みを行ったため医療統計学での支援についてお話ししていきます。





こちらが今期の取り組みになります。医療統計学受講者は全員が健康情報学科の学生であること，そして医療統計学の前提科目である，健康情報統計Ⅰの理解度把握及び基礎力向上を図るため，このようなチュータリング（TR）・プログラムの実施を考えました。

プレテスト 80 点以上が合格です。問題は，MSLC 診療担当チューターが作成しました。ポストテストの合格を目指しその対策として MSLC でワークブックを作成し，学習支援を行いました。

そして TR プログラム実施後のポストテストに合格しなければ，中間試験が受けられないような仕組みになっています。

ポストテストは3回のチャンスがあり，1回目で合格できない場合は2回目を受験。それでも合格できない場合は3回目を受験という形になっています。

チュータリングプログラムで使用したワークブックです。
課題提出日一覧表も示しています。 ⟶

結果　受講者26名　MSLC利用率 100%
6回の課題提出日を設定し，MSLC の
延べ利用人数は146名，平均 5.6 回
85%の受講生が今後もMSLCを利用したいと回答！

医療統計学　課題提出日

	課題内容	提出日
第1回	p1～p6	10/3（木）
第2回	p7～p13	10/10（木）
第3回	p14～p18	10/17（木）
第4回	p19～p25	10/24（木）
第5回	p25～p26	10/31（木）
第6回	p27～p29	11/7（木）
第7回	ポストテストを受ける	11/14（木）まで

[結果]　プレテスト･ポストテストの結果

	受験者	平均点	最高点	最低点	合格者数
プレテスト	23 名	31.57	65 点	15 点	なし
ポストテスト	26 名	86.62	100 点	75点	6名:2 回目に合格

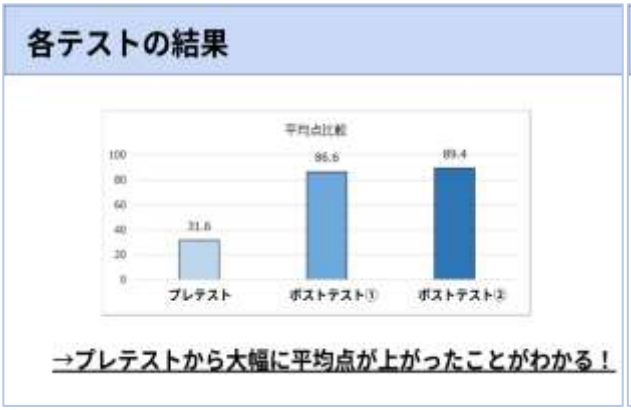
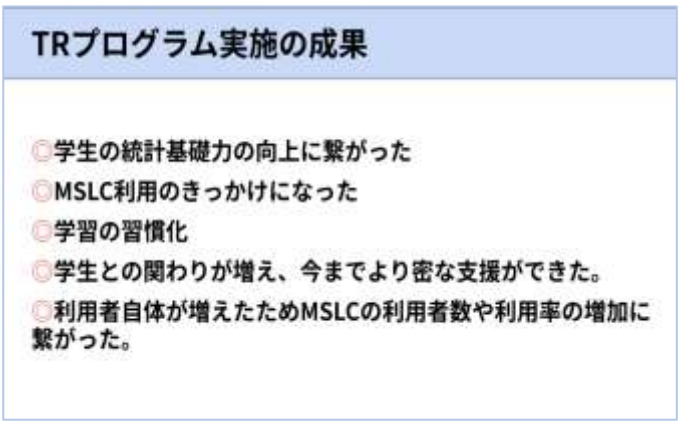


図1　プレテスト･ポストテスト①･ポストテスト②

図2　MSLC 利用回数とプレテストとポストテストの比較

●図 1 は, プレテスト, ポストテストの結果です。このグラフからもわかるように全体的に得点が高くなったことがわかります。

●図 2 のグラフは, MSLC 利用回数別の得点比較です。利用回数が多いほど得点も高いことがわかります。
利用回数とポストテストの結果には, 弱い相関がみられました。これは, MSLC の学修支援の成果だと捉えています。



こちらはポストテスト①で合格できなかった受講者6名の合格達成までの変化になります。ポストテスト①で合格できなかったものの全員が 80 点近い点数が取れており, プレテストから大きく得点が上がっていることがわかります。またポストテスト②でも 90 点近い値を取れており, これらの結果からも着実に統計基礎力が高まっていることがいえます。さらに私たちがポストテスト受験後に行った MSLC の利用に関するアンケート結果からも MSLC の利用が学生の統計基礎力の向上や学習の習慣化に繋がっていることがわかりました。

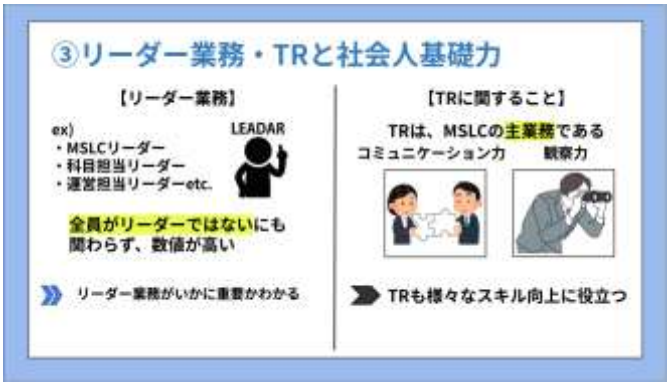
次に今期の成果と今後についてです。

ここまでで述べてきた, テスト結果やアンケートの結果から今回の取り組みは受講者の統計基礎力の向上, そして学習サイクルの定着と学習の習慣化にもつながりとても良い効果を与えたのではないかと考えます。また TR プログラムを実施したことで, 以前よりも健康情報学科の学生との関わりが増えました。学生とチューターが密に連携できたり, MSLC 利用のきっかけになったりと私たち自身の学習支援のモチベーションや今後の学習支援にも繋がり自分達チューター自身にも良い効果を与えたのではないかと考えています。今後は今年度の健康情報統計の結果を踏まえて, 科目担当教員と連携して学生の様子や理解度などに応じて学生に寄り添った学習支援をしていけるように学習支援の方法等も考えていきたいです。

5. MSLCのチューター業務と社会人基礎力について　　発表者：山内貴裕（スポーツ健康学科 3年次）

こちらのグラフは，MSLC 内におけるチューター業務と社会人基礎力との関連について，MSLCチューターに調査した結果になります。チューター全員がチューター業務と社会人基礎力に関連があると回答しており，いずれも 5 件法で 4.0 以上と大きな差はありません。その中で最も高いのは「プレゼン研修」，続いて，「プロジェクト発表会」，「リーダー業務」，「TR 実践」，「TR ロールプレイ」となっています。それぞれについて詳しくみていきます。

最初に「プレゼン研修」です。プレゼン研修は与えられたテーマについて学習・調査を行い，プレゼン内で，グループディスカッションを行い，MSLC 業務活かす方法を全員で話し合いながら MSLC 活動をよりよくするための提案を行っています。このように，MSLC のプレゼン研修では，提案型プレゼンテーションを実施しています。PJ 発表会では，半期の業務・活動を振り返り，これまでの行動や実績を可視化しています。これにより，チーム全員が今期の課題点や成果を具体的に把握し，次の学期へと活かすことができます。



続いてリーダー業務になります。MSLC では，MSLC リーダー，科目担当リーダー，運営担当リーダーなどがいますが，全員が何かしらのリーダーを担っているというわけではありません。しかし，全員がリーダーではないのにも関わらず数値が高いということは，リーダー業務がいかに重要であるかを示していると考えられます。最後に TR 業務・TR ロールプレイになります。TR は MSLC の主業務であります。TR スキルは，コミュニケーション力や観察力など，複数のスキルが求められます。そのため，TR 力を向上させることで，様々なスキル向上に役立ちます。

6. まとめ　　発表者：佐事奏実（チューターリーダー）

今期，MSLC の活動を振り返ると，チューター1 人ひとりが『整える』と『繋げる』というテーマを意識し，実践してくれたことを強く感じています。 特に，業務の効率化やスムーズな引き継ぎを意識し，「このマニュアルは今の運営に合っていないから更新しようか？」や「資料の作り方を残しておくね」といった声が自然と上がるようになりました。このような話し合いや提案も活発に行われ，新規・継続を問わず，メンバー間のコミュニケーションや連携がより強化されたと感じています。しかし，いくつかの改善すべき点も明らかになりました。 主なものとして，「各業務の進捗管理」「情報共有の明確なルールの策定」「仕事の分担と任せる方法」の 3 点が挙げられます。これらは基本的な事項だからこそ，より強固な基盤を築くために継続的な取り組みが必要であると考えています。各チューターが業務全体を把握し，互いにサポートし合える体制を整えることが，今後の MSLC の円滑な運営において重要です。 具体的な改善策として，ホワイトボードのさらなる活用や，講座・ワークブック作成における進捗管理シートの作成と導入を検討しています。これにより，今いるチューターだけでなく，今後加入するチューターもスムーズに業務を把握し，作業を進めることができると考えます。今期，私は初めてのリーダーを務めました。リーダーとして，全体を把握しながら企画・運営を進めていく難しさや，チューター全員の協力の大切さを改めて実感しました。 チューターメンバーの積極的かつ協力的な姿勢に支えられ，学期前の事前準備から始まり，事前研修会，勉強会，日々の学習支援活動や定期トレーニングなど，MSLC の活動を無事に進めることができました。このことに深く感謝しています。リーダーとして，もっとこうすればよかったと感じる部分もありますが，その経験を来期につなげ，さらなる成長を目指していきます。来期に向けては，先ほど挙げた 3 つの改善点に一つずつ取り組み，業務の質を向上させ，MSLC の活動をより円滑に進めていくことを目指します。 また，引き続き「整える」と

「繋げる」の意識を持ち，メンバー全員で MSLC のさらなる成長や発展に努めていきます。これから，今期の活動内容の一部を詳しく，各担当チューターが報告します。 以上で，2024 年度後期活動報告を終了します。

Ⅲ MSLC社会人基礎力調査について

「社会人基礎力」は，2006 年に経済産業省が提案し，「前に踏み出す力」，「考え抜く力」，「チームで働く力」の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成され組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力と示している。西道（2011）は，それに「伝える力」を取り出し4つの力で測定している。

数理学習センターでは，西道の考案した社会人基礎力の測定尺度を使って，「前に踏み出す力」「考え抜く力」「伝える力」「チームで働く力」の 4 つの力をチューターの自己診断によって測定している。

表1 社会人基礎力における 4 つの能力と15の要素

Ⅰ 前に踏み出す力	①主体性，②働きかけ力，③実行力
Ⅱ 考え抜く力	④課題発見力，⑤計画力，⑥創造力，⑦情報収集力
Ⅲ 伝える力	⑧発進力，⑨説得力，⑩プレゼン力
Ⅳ チームで働く力	⑪傾聴力，⑫柔軟性，⑬情況把握力，⑭規律性，⑮職業理解力

4段階評価（4:とてもある 3:ややある 2:あまりない 1:ほとんどない）

参考資料：西道実，社会人基礎力の測定に関する尺度構成の試み，プール大学院大学研究紀要第 51 号，2011．

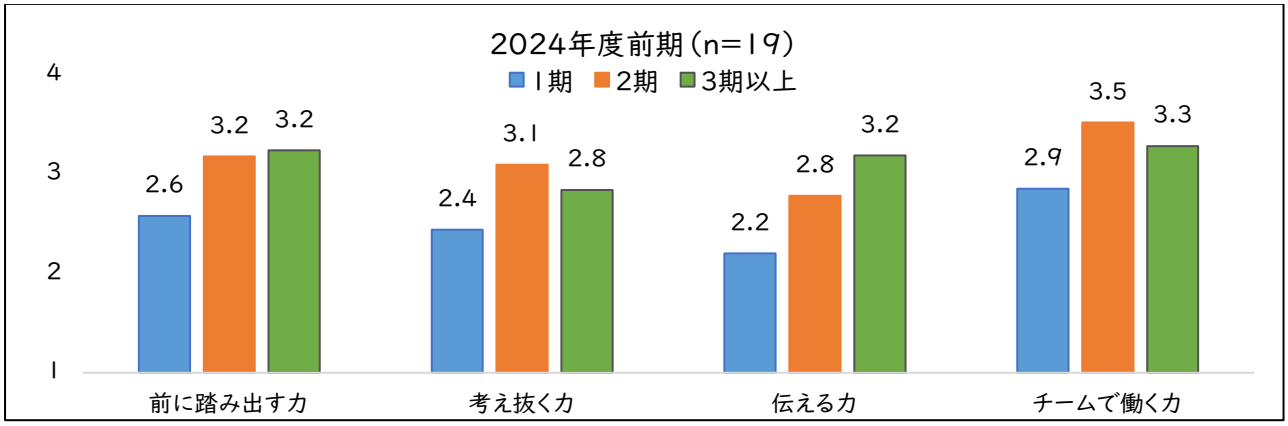


図1 2024 年度前期チューターの社会人基礎力

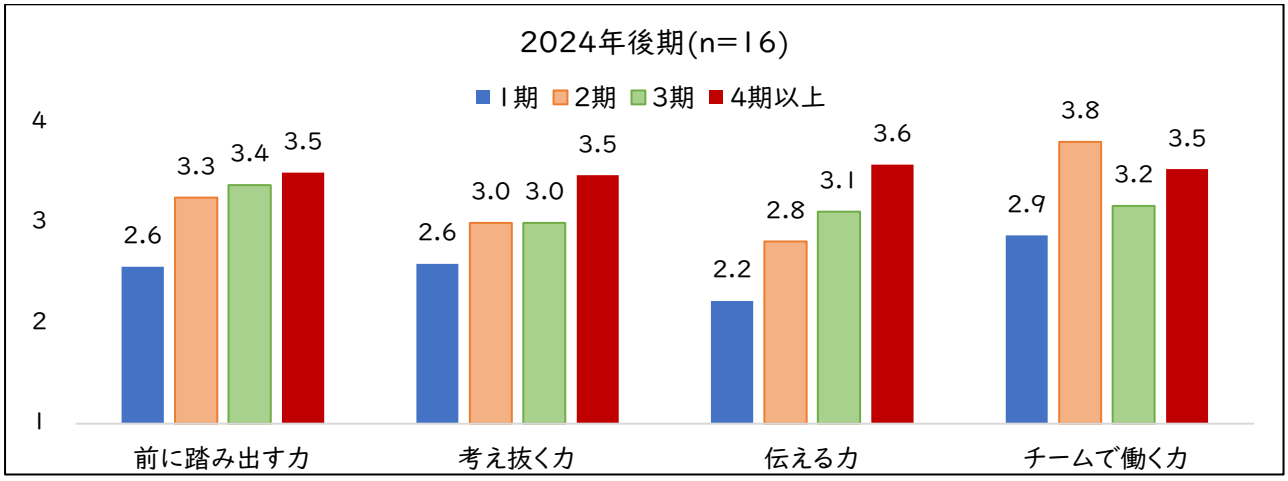


図1 2024 年度後期チューターの社会人基礎力

[考察]

この調査は，4件法（4:とてもある 3:ややある 2:あまりない 1:ほとんどない）で評価基準は示してはいるものの，評価規準はあくまでも個々の判断で行った自己評価であり，他人と比較できるものではない。しかし，経験を追うごとに自己評価が変化するのには，ある活動の変化や心理的変化を表すことがある。チューターの面談においては，その変化について双方で活動との関係を振り返る良い材料となっている。

前期は，「考え抜く力」と「チームで働く力」は，3 期以上のチューターより，2期目チューターが高くなっている。この結果は，2期目チューターの活躍から納得できるところもあった。ところが後期は，チームで働く力は 3 期目が低

くなっているが，3期目チューターは各科目担当や運営のリーダーとなり，チームというより，自分自身で処理しなければいけないことが多く，このような結果になったのではないかと推測できる。その他は，経験の長いチューターほど高い評価を出していることがわかる。特に伝えるちからは，リーダーとして伝える立場にあることと，プレゼンテーションの機会が増えてくることがこのような結果に結びついているものと思われる。

MSLCでは，新規チューターに対しては，本人の了解のもと，性格診断も行っており，その組み合わせで，自己の強みや弱みを診ることができる。何よりも自己の成長が可視化できることに達成感を感じていると思われる。

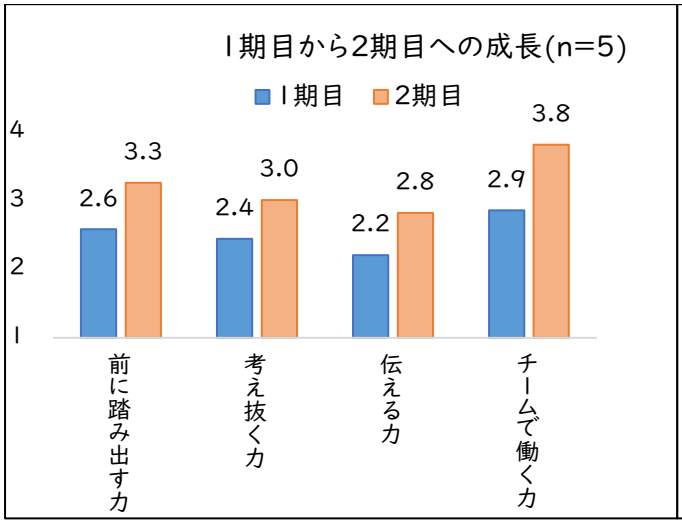


図3　1期目（新規チューター）から２期目の変化

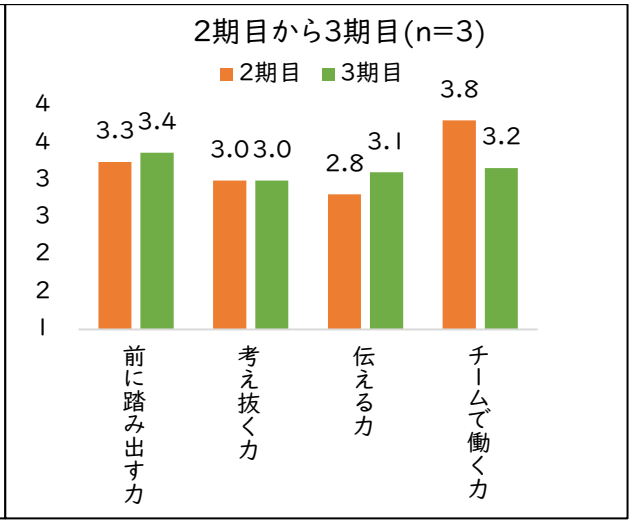


図4　２期目から3期目の変化

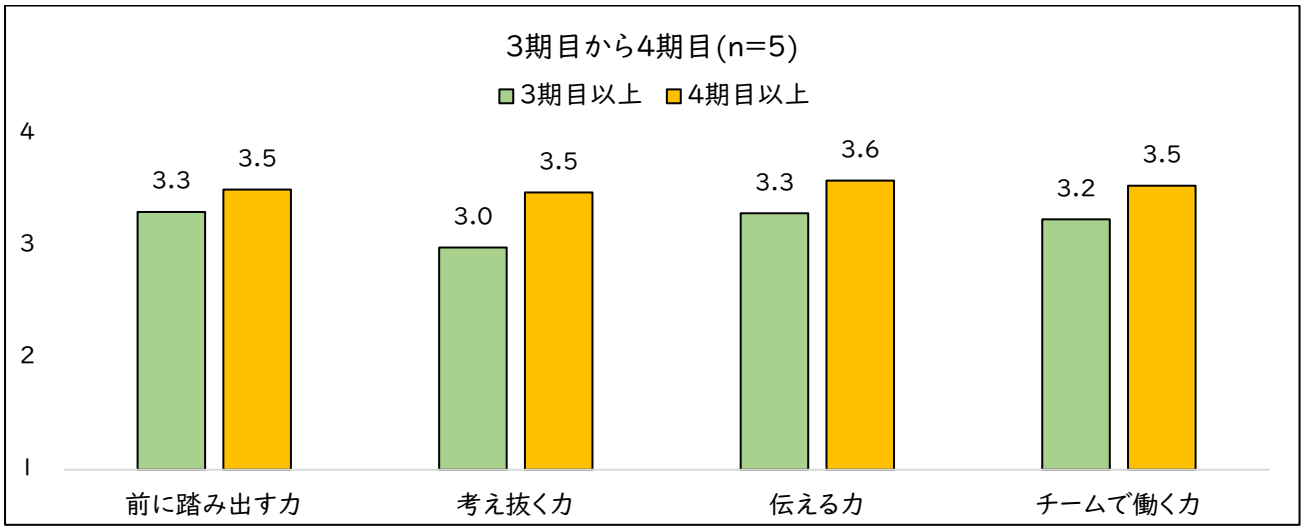


図5　３期目以上から４期目以上の変化

[考察]

図3～図5は，前期の3期目以上と後期の4期目以上のチューターの同じ集団の変化である。未提出者を除いている。そのため，人数は減少している。4つの力がともに上昇していることは，チューターにとっての自信の表れでもあり，達成感を確認するデータでもある。

●チューターの業務と社会人基礎力の関係で，チューターは次のように分析している。

自ら講座等を企画して実施することは「前に踏み出す力」につながり，講座を企画する際の業務である，講座の目的，内容，日時，場所を考えて実施することが「考え抜く力」に繋がる。また，自から発信する，誰かにしてもらうのではなく自分から，という主体性「前に踏み出す力」が必要である。

プレゼンテーションは「伝える」ことがとても重要である。発表するまで試行錯誤し，多くの人と対話しながらプレゼンを作る過程や，どのように伝えるのか，伝えたことを通してどう今後に活かし，学びに繋げるかというプレゼンテーションの特徴が社会人基礎力に繋がっていると思う。

新規チューターはMSLCのチュータリングを受けて，自ら希望してMSLCの一員となる。しかし，チュータリング以外の見えない部分の仕事内容は十分把握できているわけではない。その新規チューターに先輩チューターは，一緒に仕事を

進めながら徐々に仕事を任せるようにする。後輩を育てながら，ともに「チームで働く」力を身に付ける。誰かと発表する際はその人との協調性，組織の人に発表するという意味で「チームで働く力」が必要である。

Ⅳ チュータリングスキルの自己評価

本学の数理学習センターでは，2018 年度にチュータリングスキルとは何かを議論し，MSLCにおけるチュータリングの進め方（チュタリングの型）をまとめた。さらにMSLCにおけるチュータリングの定義を発表（高安，2023 年）した。その後若干の文言修正を加えて以下の項目についてチュータリングスキルを自己評価し，その変化を調べている。

表2　　MSLC におけるチュータリングスキル

(1) コミュニケーション能力（伝える力）	①自分の考えをわかりやすく整理して伝える力 ②アサーティブ･コミュニケーション能力 ③相手が理解できるように話す力 ④相手の言動や状況を理解し，共感を表現できる ⑤臨機応変にコミュニケーションが取れる力
(2) チューティーとの信頼関係づくり	①チューティーに寄り添う姿勢を身に付けている ②一つの考え方に縛られない柔軟性 ③相手を対等に見ることができる姿勢 ④直ぐには解けない問題を一緒に考える態度 ⑤話しやすい雰囲気をつくって相手の発言を促す
(3) チューティーの理解度を見極める洞察力	①チューティーの問題の理解度を把握する力 ②チューティーの躓きを見つける力 ③相手の言動から意見や主張を正確に聞き取り，チューティーの特徴を把握する力 ④先入観に捉われず，現状の課題に対する理解度を把握する力 ⑤チューティーが躓くポイント，なぜつまずくのかを洞察する力
(4) チュータリングにおける質問力や対応力	①チューティーの思考を促す質問力 ②臨機応変にチューティーのレベルに対応する力 ③計画(Plan)を立てて，それを実行(DO)していく力 ④チューティーの思考を支援する対応力 ⑤チューティーの自律的な学習を促す説得力 ⑥振り返りの質問や説明力
(5)チュータリングができる数理能力	①問題についての深い理解や知識を持つ ②自力解決を目標に下位目標を設定する力 ③難しい問題に対応できる力 ④新しい解決方法を導き出す力 ⑤総復習型質問に対応できる力

評価基準　4:十分にある　3:まあある　2:あまりない　1:全くない

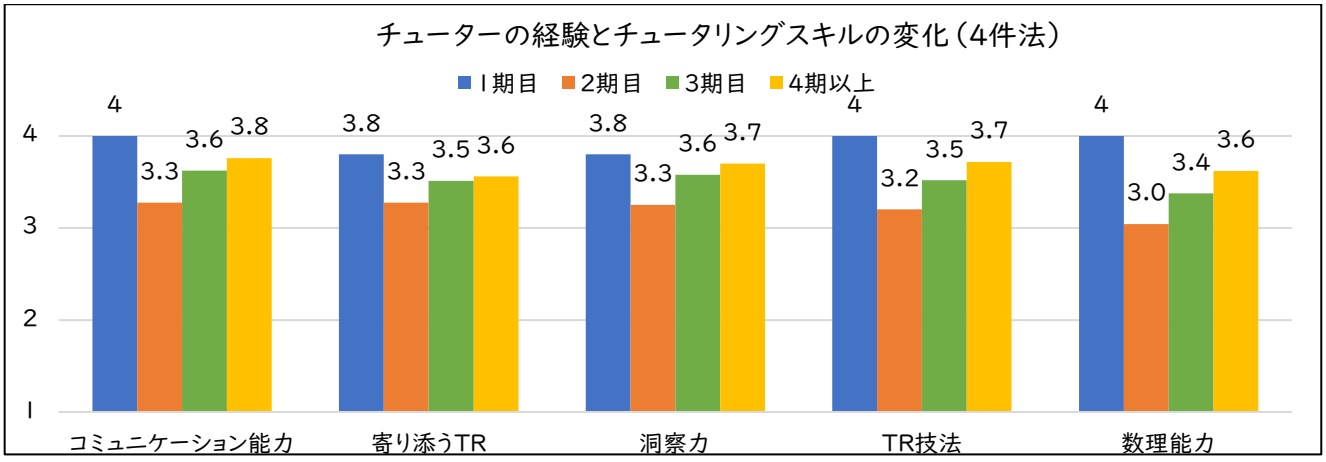


図6 チュータリングスキルの変化

[考察]

図 6 は，2024 年度チューター19 名のチュータリングスキルの自己評価を期毎にその平均をとったものである。調査は，毎学期事前研修会で実施していることから 1 期目というのは，まだチュータリングの経験のない新規チューター

である。

このグラフの特徴は，1 期目が，コミュニケーションスキル，チュータリング（TR）技法，数理能力がともに満点の4となっていることである。それは，新規チューターは数学や統計学が得意で数理科目に自信があってチューターにエントリーしてくる。チュータリングの難しさを未だ経験していないかだと思われる。しかし，実際にチュータリングが始まると，答えを教えるのではなく，チューティーが自身で解を導けるように質問をしたり，下位目標を考え段階的に考えさせるというチュータリングの難しさを実感することになる。その後は，2 期，3 期と徐々に上がっていくのが見て取れる。

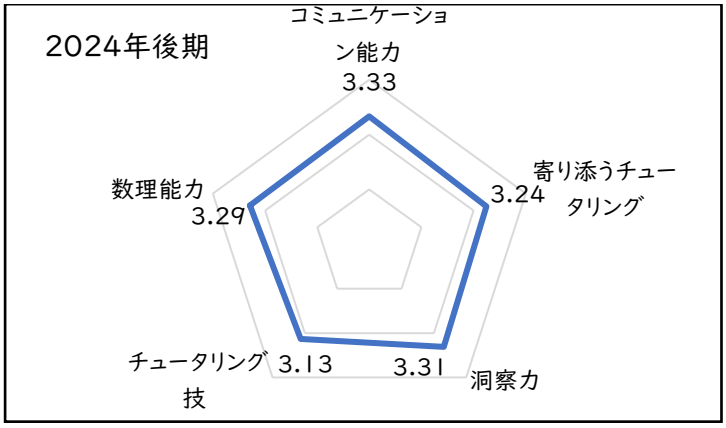


図7　2024 年度全チューターの平均値

[考察]

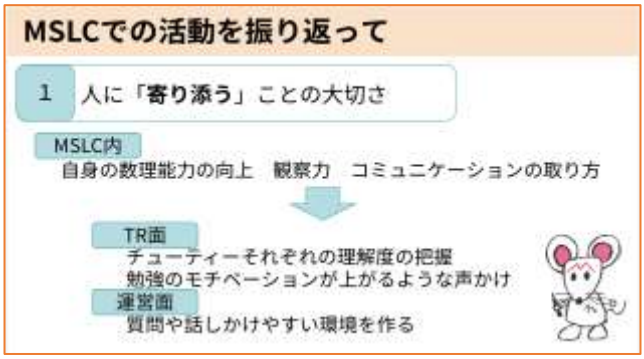
図7は，2024 年度全チューターのチュータリングスキルの自己評価の平均値である。5 つの評価項目に大きな偏りはない。中でも最も高いのがコミュニケーション能力である。それは，日頃よりチユータリングに関わらず，組織の一員としてもチューター業務の中で，最も重要だと意識して努力している成果だと受け止めている。さらにチュータリングスキルを高めるトレーニングを増やしたいという要望があることと関連していると思われる。今後の努力点である。

表3 MSLCにおけるチューターの質問マニュアル

チュータリングの型	チューティーに寄り添う	質問の具体例とポイント
1. 問題の理解 求めるものは何か，条件は何かを明確にする。数学化する。	○できるだけチューティーから質問を受ける。 ○問題の理解が，解法プロセスの第一段階であることを意識させる。 ○必要に応じて，下線を引かせる。 ○チューターが図示して説明をする場合もある。	・質問に対応しつつ問いを投げかける。 ・何に困っているのか，何に躓いているのか，　どこまでわかっているのか確認する。 ・この問題は何を求める問題か。 ・分かっているものは何か。 ・問題文から用語や数値について質問する。 ・この問題は解けそうか。 ・グラフを書かせる。図示させる。
2. 計画を立てる 既習事項との関連付け	○躓いている原因は，用語の意味なのか，定理などの既習事項の理解不足なのかを考えて進める。 ○チューティーの実力を考慮した下位目標を設定し，関連した易しい問題を解かせる。簡単な数を使って似たような問題を作って解かせてから本題に入る。	・用語や定義等，既習事項と関連した内容などについて質問をする。 ・必要な定理を理解しているか質問する。 ・ここでは，基本事項は理解できたか確認することが重要となる。 ・この問題を解くためには何が分かればいいか下位目標を設定し確認する。 （基本的な考え方，定理，公式など） ・躓いている原因は何か把握し，関連する易しい題を与える。関連した基本事項を復習する。
3. 方略 計画を実行する 解を導く	○チューティーの躓きをサポートする。質問しながら，既習事項と関連させて解かせる。 ○問題に含まれる本質的な概念はすべて考慮したか，見落としはないかを意識させる。 ○下位目標が理解できたら，次は自分でできるという自信を持たせる。	・下位目標が解決できたら次のステップに進み，自分で解いてみよう。 ・中断したら，そこでの躓きを確認する。 ・データをすべて使ったか。 ・条件をすべて使ったか。 ・筋道よく思考を整理し解を導けるよう支援する。 ・時には誘導尋問をして相手が解決できるように思考を促す。
4. 振り返り まとめと発展 学習内容の定着 学習の自律を促す 学習の発展化	○最後まで諦めず解を導くことができたことを賞賛し，振り返りを促す。どうして解けなかったのか，なぜ行き詰ってしまったのか，どこがまちがっていたのか ○問題を解く際に4つのステップ（理解・関連付け・方略・振り返り）を念頭に入れて，自身に質問をすることを習慣づけさせる。 ○チューティーに達成感と自信を与え，発展課題に目を向けさせる。	・問題を再確認する。何を求める問題であったか。わかったことは何か。 ・解き方で躓いたところを再確認する。 ・解が正しいか，解は何を意味しているか，検算をしてみよう。 ・求めた解の意味を理解させる。 ・どうしたから解けるようになったのか。結果をチェックして別の解法がないかを考えさせる。 ・次からこの問題は解けそうか。 ・追加問題で定着度を確認する。 ・発展問題を与える。知識の活用（広げる）

参考資料　高安美智子（2023）数学の学習支援におけるチュータリングスキルの育成
― チュータリングの型を用いたトレーニング方法を用いて ― リメディアル教育研究第17巻 2023

★ MSLCでの活動を振り返って　発表者：山田翔大(経営専攻 4年次)



これまでの MSLC の活動を通して，これら 3 つのことを実感したため発表します。

まず人に「寄り添うこと」の大切さです。元々私は，数学は得意な教科ではありませんでした。その中で，どのようにTR を行っていくかを考えていました。まずは，自分自身の数理能力の向上。特に数検 2 級の合格がなかなかできなかったため，自主学習も積極的に行いました。また，数理能力の低さをカバーするためにチューティーの行動を観察することやチュータリング中のコミュニケーションの取り方を意識しています。これらの意識をすることで，チューティーそれぞれの理解度の把握や対応を行えたり，勉強のモチベーションが上がるような声かけや考え方を共有することに繋がった。また，MSLC の運営の面では仲間に寄り添い，質問や話しかけやすい風通しの良い場所にすることで，引き継ぎやチューター育成に繋がると思い意識していました。

続いて社会人基礎力の構築です。

MSLC では社会人基礎力を向上させるさまざまな取り組みがありました。特に，今スライドにまとめているこれらは，MSLC の活動を通じて，大切だと感じた能力やポイントです。定期的なセンター長との面談で社会人基礎力の自己評価結果から自分の低い能力を知ることができ，その低い能力を意識し行動していていました。これまで自分から行動を起こせなかったため，これらの意識をしながら自分の言動を改善することができた点は，MSLC に所属したからこそだと感じました。

続いて，MSLC 以外の活動で活かせることです。特に部活動で活かすことができました。

スライドの表にあるように，MSLC と部活動とでは共通する部分があります。

当時の部活動の課題として，チーム（組織）の一人ひとりの働きかけ方や信頼関係の面で課題がありました。その際，自分の行動に一貫性を持たすことやそれぞれの価値観を理解するために定期的な MT を始めたことなど，MSLC での経験や MT で学習したことを落とし込んで，チームの課題解決，環境作りに繋げることができました。

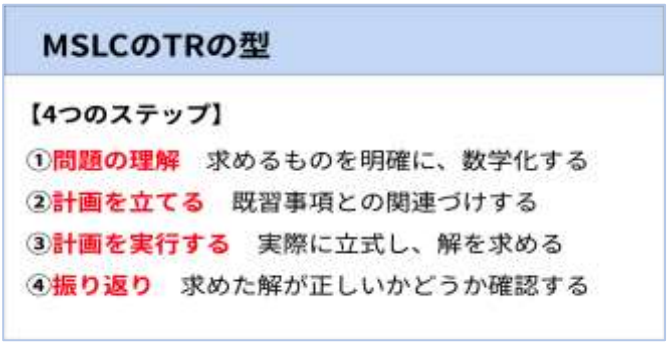
私は MSLC で働く中で，基本理念にもある”人に寄り添う”ことに対して一番想いが強くなりました。

将来は，地元で「地域の特色を活かした地域創生を行う」ことを目標としています。地域の方々に寄り添って，地域全体で活気のあるまちづくりを行うため，組織で働きかけるために MSLC で培ってきた社会人基礎力を大切にして目標に向かいたい。

今後は，就職先で将来の自分の目標に繋げられるよう積極的に働きかけ，吸収していきたい。また，働きながらではありますが，この MSLC で学んだことも活かし，地方公務員になるための勉強もしていきます。

これまで連携科目でお世話になった天願先生・仲程先生，MSLC でお世話になった高安先生・太田先生・立津先生・事務の大城さん，約3年間ありがとうございました。

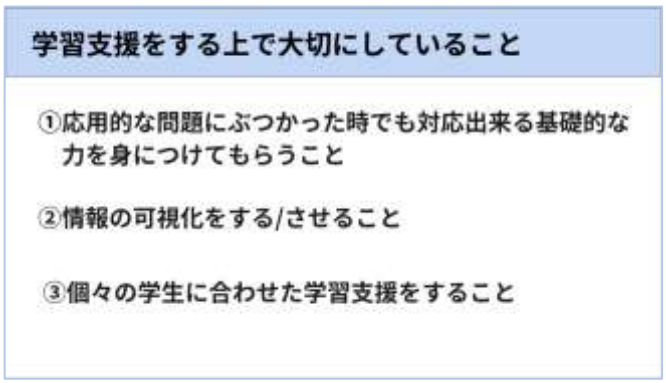
★ MSLC での 7 期間の活動を通して　　発表者：清水麻由（観光産業専攻 4年次）



はじめの頃は正直言うとコミュニケーションスキルを身につけたいや就職活動で使えるガクチカが欲しいなど，自分の未来しか考えていませんでした。実際に自分自身ここでの活動を通して多くのスキルを身につけ，社会人を目前とした学生として成長したと感じています。しかしもう一度立ち止まって考えてみるとMSLCの基本理念の１つ目，2つ目に来ていることは自分の成長ではなく，一緒に学習するという学びの空間の提供，学生の数理能力の向上と自主学習の促進であります。このことからもわかるようにチューター自身の成長だけでなく利用者である学生の学修を支援をすること，学生の成長を支援することを考えることも必要であると考えます。

そこで今回はここでの活動全般を通しての自分の成長ではなく，チューティとの接点である学修支援での学生の成長やそれに付随した私の成長についてお話していきたいと思います。

まずTRでは，問題を理解し，既習事項と関連付けながら計画を立て，計画を実行し，振り返るというこの 4 つのステップのもとTRをしています。この 4 つのステップは数理科目の学習だけでなく，大学での自分の専門の研究や就職活動にも生かせる，極めて重要なステップであります。そのためここでの TR を通して，その講義だけでこのステップを使うのではなく，実生活での問題解決ができるような学生の成長を支援しています。

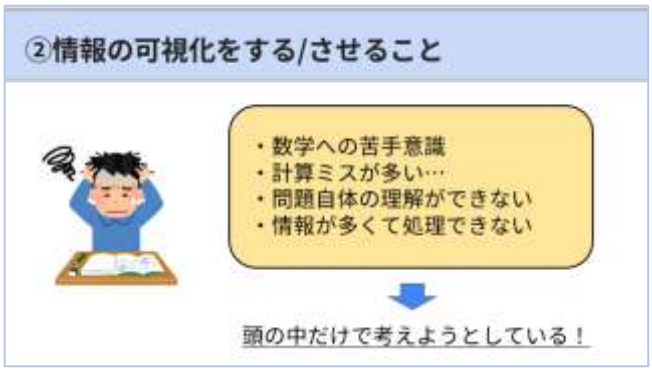


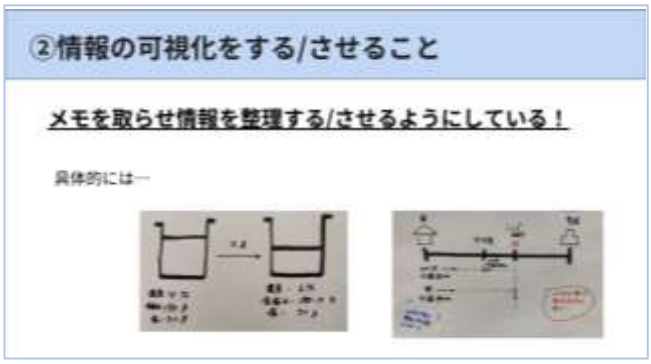
私が学修支援をする上で大切にしていることは大きくこの3つです。

１つめに基礎的な力を身につけてもらうことです。最初の頃はチューティーが答えにたどり着くまでの解法や公式だけがわかればそれで良いと思っていたのですが，多くのTRを通して学生を見てきて，大切なのは日常的な問題にぶつかった時でも対応出来る基礎的な力だということに気づきました。

そのため私は，より理解が深まりやすくなるよう日常的によく目にするものやシーンが浮かびやすい例え話をするようにしています。またこれはアイスブレイクにも繋がっていると考えます。

例えば，損益算であれば「スーパーで 10%割引などのシールが貼られているのを見たことがあるかな?…」といった話をして定価と売価の違いを理解してもらっています，





２つ目に情報の可視化をする/させることです。

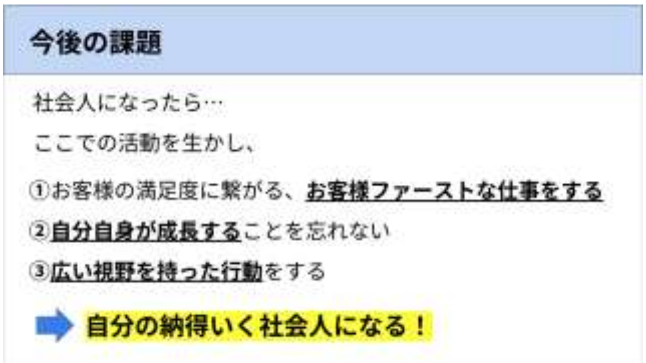
数学が苦手な学生は，頭のなかで完結させようとする傾向があります。そこで逐一メモをとらせたり，自分自身も TR 時に図を書くことを意識し，情報を整理するように促しています。具体的にはスライドに載せているような図を書いたり，問題の横にメモを書いてもらったりしています。

３つ目に個々の学生に合わせた学習支援をすることです。

学生の理解度は人それぞれであり，また考え方も人それぞれです。また基本理念の３つ目にも学生に寄り添った学習支援を目指すことが挙げられていることから個々の学生に合わせた支援をしていくことが必要です。そのために質問や観察を通して，学生を理解し TR をしています。

このように学生との接点であるTRでは私自身で考え，時には他のチューターのTRを観察したり，相談したりしながら，利用者にMSLCを利用して学習してよかった，MSLCがあったことでできるようになったと利用者の成長や満足度につながるように活動することで基本理念の１と2の達成につながり，さらに自分の成長にも繋がっています。

４ 月からは社会人になりますが，ここで学んだことを活かし，



①自分は対お客様のサービス業（実際にはお客様には対面しないが）に就くのでここでの活動でチューティーのことを考えて，チューティーの立場に立った TR をしてきた経験を活かし，お客様の立場に立って，お客様ファーストな仕事を心がけていきたいです。

②MSLC では学習支援をするために，自分の数理能力の向上のためやその他検定の取得のため自主学習を続けてきました。それと同じようにお客様により良いサービスを提供していくために自分自身も成長することを忘れないよう仕事をしていきたい。具体的には自分の仕事は様々な資格が必要なので積極的に資格を取得し，様々な専門的な仕事ができるようになりたいです。そのような目標は言葉に出し，ただの夢で終わらないように実現させていきたいです

③上記までのスライドでは対チューティーの話をしましたが，自分自身の成長としては社会人基礎力の自己診断の結果では伝える力，次に考え抜く力が大きくアップしましたが，それに加え，ピンチヒッターでチューターリーダーや科目のリーダーをやった経験を通して，周りを見る力，広い視野が身についたと感じています。この力は社会人になっても活かせる大きな力だと思います。社会人になっても周りを見て広い視野を持った行動していきたいです。

そして自分の評価だけではなくて他人の評価を含めて自分自身の納得いく社会人になりたいです。

～～

卒業するみなさんこれまでお疲れ様でした。

皆さんが築いてきた MSLC は，後輩達がしっかり受け継いでいきます。時には，MSLCに遊びに来てくれることをみんなで待っていますね！

資料1　2024 年度 MSLC 後期の振り返り（第16回 最終ミーティングのまとめ）

<table>
<tr><td colspan="2">＜山田・森田・高橋・比嘉グループ＞</td></tr>
<tr><td>【今期よかったこと】
・新規試用期間があったこと
➡事前にアドバイスをもらえた。
・積極的な対応➡シフト調整・マニュアル作成等
・新規育成で TR のフィードバックを沢山もらえたこと
・不自由なく業務出来た
・シフトを 1 ヶ月ごとに変えるのがよかった。
・プロジェクト発表会・パーテーションの内容が良かった
・新規や 2 期目が積極的（主体的）に業務を行えていた点
・プレゼンを先輩とできて良かった
・「みんなで解こうぜ」の時間が良かった</td><td>【今期の改善点】
・無断欠席・遅刻が気になった
・数検の申し込み等の情報があまりうまく回らなかった
・TR ロールプレイの質向上
・シフトの時間で TR ロールプレイを行うことが少なかった（お互いに声を掛け合う）
・使ったものが元に戻されていないことがあった
・業務が多く，数理能力の向上に使う時間が少なかった
・みんなでの勉強会（「みんなで解こうぜ」の時間）をもっとやりたい
・MSLC と先生との連携や情報共有の強化
・定期トレーニングに全員参加できる回数が少なめだった
・数検の勉強に取り組んでいなかった</td></tr>
<tr><td colspan="2">＜清水・谷本・繁永・外間(袴)グループ＞</td></tr>
<tr><td>【今期の良かったこと】
・新しいことができた（医療統計学）
・リーダーからの働きかけタイムマネジメントができた
・マニュアルがあることで業務の整理ができた
・プロジェクト発表会のいつもとは少し違って良い色が出ていた
・マニュアルの共有ができていた
・講座がスムーズに開講できていた</td><td>【今期の改善点】
・業務の量の個人差
・ホワイトボードやラインのノート機能の活用
・健康情報学科の連携
・課題の提出率の低下→課題に関する業務
・課題とワークブックや授業などとのズレ
・ポスターの掲示</td></tr>
<tr><td colspan="2">＜山内・外間(涼)・鷲津・横溝グループ＞</td></tr>
<tr><td>【今期の良かった点】
・診療の医療統計学の取組みがうまくいってた。
・チューティーの成長も非常に感じられた
・新しい出勤簿の導入は，トラブルを防ぐうえで良い取り組みだった　→無駄な出勤・よくわからない出勤が減少した・遅刻した人が明確→改善
・新規チューター勉強会で，新規担当以外のチューターが観察したのもよかった
・新規チューター育成の新規試用期間は，新規チューターを観察する機会になり，新規チューターも意識を高めるうえで良い機会になった。
・新規チューター育成の取組みにより，徐々に心理的な負担が減少した</td><td>【今期の改善点】
・新規勉強会の時間で，業務の行い方も取り扱ってほしい
→来期は新規チューター育成を行わない可能性が高いので，新規チューターに業務内容は各担当が責任をもって行うべきである
・WB を事前に解いてきていない→改善策：MTG のロールプレイで WB を使用したものを行うこと
・講座開講の際に，冬休みをまたいで試験前日に講座を開いてしまったので，もっと余裕をもって企画をするべき
・SNS での講座告知が不足 or 遅延している
・講座参加人数0人はどうにかしたい
・連絡は classroom より LINE の方が見るかも
・健康情報統計学との連携方法に見直し</td></tr>
<tr><td colspan="2">＜川鍋・新里・新城・與那嶺グループ＞</td></tr>
<tr><td>【良かった点】
・マニュアルと引継ぎをしっかり行えた。
・新規の勉強会が助かった。チュータリングスキルの向上につながった。
・急に人数が減ったときにしっかり対応できた。（名簿での管理・枠の調整・代打を見つける）
・プロジェクト発表会までの時間の使い方が良かった。
→ゆとりがあった。
・出退勤管理や 4 階の過ごし方，など仕事以外のことに関する悩みが少ないように感じた。
・一人に対する負担量が減った。
・業務カレンダー良かった
・1 カ月ごとにシフトが変更するのは良かった</td><td>【改善点】
・健康情報統計で，先生に対して受け身になりすぎてしまい
コミュニケーションがうまくいかないことがあった。
・プロジェクト発表会で，受付がずっと外にいたため，少しでも中に行きたい。
→最初は二人体制ではじめて，時間が経過したら一人中に入り，時間を見てもう片方と交代
・講座の出席者をもっと自由に ←後半はチュータリング時間の少ない人が対応，チュータリング時間のアナウンスが必要
→科目を超えた対応ができると尚良し
・テスト対策プリントの在り処，アナウンス方法
・ホワイトボードの「分からない問題」がさほど機能しなかった
→分からない問題がないことに越したことはない，しかし分からなくなった時に対応できるように存在は今後も重要
・プロジェクト発表会の終了したこの時期，何をするのかがわからない
・1 ヶ月ごとにシフトを変更することは抵抗があるかもだが，理由を考えたり一旦やってみるとハマる。</td></tr>
</table>

資料 2〈チューターになってよかったこと・成長したこと・MSLC に期待すること〉

2024年度後期チューターの感想より

Q1　チューターになってよかったこと
○学校内に知り合いが増えたこと。自分で考えて行動する力がついたこと。 1 つ目は先輩との交流があることです。部活やサークルに入っていないと関わる機会がない先輩でも mslc は頭が良くて思いやりのある先輩が多く，他の先輩（mslc に入っていない先輩）より安心して話すことができました。また上手くなったねやすごいねと褒めてくれるので自己肯定感もあがりました。 2 つ目は同学年の他学科との交流があることです。特に健情の人はこちらの世界とは異次元の人というイメージがあったため，個性が強くて毎日刺激をもらっています。 3 つ目はチューティーの成長が見れることです。以前までは分からなかった問題も最後に確認してみると自分の言葉で説明できているので，これは LLC と MWC にもない MSLC だけの特徴と思います！mslc では学期をかけて利用していただくのでより可視化され，数学や統計学を学んでくれたんだなとひしひしと感じることができるところがとてもいいと感じます。
○数理能力やプレゼン能力などのスキルが元から高い人が MSLC に入っているイメージがあったが実際は裏での努力がすごいということを知ることができたこと。MSLC で学んだことを他の場所で活かせること。
○チューターとしてチュータリングを行う際，うまく言語化できずに大変な時もありますが，チューティーの方々が納得して内容を理解してもらえると，とても達成感を得ました。また，先輩チューターのチュータリングのアドバイスやロールプレイを通して，うまくチュータリングできるようになった時も，自身の成長を実感でき，チューターになってよかったと感じました。
○チューターになって良かったと思うことは沢山あるが，今一番に思いつくのは，学生が学生に学習支援を行うという経験を経て，学習支援のあり方について自分の考えを明確に持つことができるようになったことだ。 日本は先生と生徒の距離感が遠く，質問したくても質問しにくい関係になってしまったり，日本人は恥ずかしがり屋で，分からないことを分からないと言えないと世間から言われることがある。実際に私も小学生の時からずっとそうだった。分からないことにモヤモヤを感じるものの，分からないことが周りに知られる恥ずかしさとプライドが消えず，分からないを解消できないまま授業が進んでいく経験を何度もしてきた。大学 1 年の前期で数学を履修したが，授業で分からないことがあっても，授業内でそれを解決できなかった。まだ分からない問題を聞ける気の許せる友達もいなかった。そんな時に MSLC を活用して，分からないことをきちんと分からないと言えて，私の分からないに向き合ってくれる人がいると分かったとき，とても安心したのを今でも覚えている。 また，統計学基礎の SA や科目リーダーを経験して，チューティーと身近に関わるようになってからも，どんなチューティーも分からないことが分かるようになることを求めていると感じるようになった。見た目や言動のみで判断するのは良くないが，一見やる気がなく，適当に課題をやっているように見えるチューティーでも，TR の回数を重ね，慣れてくると，ふとしたところで「ここが分からない」とか「ここが苦手」とかを言ってくれるようになった。これを私は個人的に“本音”と呼んでいる。本音が聞けたら，その本音を根っこから解決できるように，図を書いたり，身近な例を使ったり，前の章に戻ったり，練習問題を使ったりして分かるようになるまでサポートを行う。そしてチューティーが「なるほど」とか「分かった」とか言ってくれる時は，チューティーの表情が明るく，達成感に満ちているように感じ，このチューティーはきっと今後も大丈夫だなと安心していた。 どういう人(先生やチューターなど，学習支援を行う人)や環境(教室の雰囲気など)が整っていたら，「分からない」と言えるだろうかと考えた時，私の場合は，
○コミュニケーション能力の向上，与えられた課題を期限前までにこなす力，組織の一員として協力して行動すること
○チューターになってよかったことは，学生の「わかった！」という瞬間に立ち会えることです。説明を工夫しながら，相手の理解が深まるのを実感できるのはとても嬉しいです。また，自分自身の学びも深まり，普段何気なく使っていた知識を改めて整理する機会にもなりました。さらに，チューター同士の交流や利用する学生(チューティー)との交流を通じて，異なる学部や学年の仲間と出会えたことも大きな財産です。
○新たに統計学を学ぶことが出来たことやプレゼンテーション能力の向上ができたことです。
たくさんの人と交流することができた
○大学で色んな学科の先輩や同級生との繋がりができ，一緒にご飯を食べたり相談が出来る友達も作れたこと。 MSLC に所属することで勉強したいときに気軽に訪れて先輩に相談したりが出来るようになったこと。
○先輩，同期とのコミュニケーションが増えたこと。
○さまざまな大学生とコミュニケーションをとることができた
Q2　チューターになって自分の成長を感じられた人は，どういうところが成長したと思ったか
○自分で考えて行動するようになったところ。

○1つ目はプレゼン力が向上したことです。「新規とは思えないくらい落ち着いて発表ができていたと思う。」や「新規という枠で見なくても，とても上手だなと思いました。」というコメントをいただいたので，MSLC に入って成長したと思います。
2 つ目は決断力が早くなったことです。
タスクがあるなかで優先順位をいち早く決めることでやるべきことを明確化することができていると感じます。
3 つ目は計画力と実行力が向上したことです。
プレゼンを作成するときも 1 ヶ月前から取り組み始め，微調整や話す量などを修正していったことが成功につながったと思います。課題がでたその日に一旦確認して，すぐできそうなら取り組み，量が多いならいつまでにどのくらい取り組んでおくべきかの目安を決めることで日々のタスクをこなしています。

○報連相の徹底，前期に比べ堂々とするようになった

○MSLC のチューターとして活動していく中で，数検対策等による自身の数理能力の向上はもちろん，MSLC という組織の中で活動することで，チームで動く力も向上させることができたと感じています。例えば，講座の開講だけでも，講座の企画書，報告書の作成から補助資料の準備，アンケートの実施，場所の予約，名簿作成など，担当のメンバーで役割分担をして業務を進めていくため，報連相を密に行うことの必要性を実感でき，実行に移すことができたと感じています。また，チュータートレーニングを通して，プレゼン力も養うことができたと感じています。

○沢山あります。本当に沢山あるので，思いつく限り箇条書きで書きます。
・人前で話すことが苦じゃなくなった
・周りの様子を伺って，声をかけたりできるようになった
・先を見通して，事前に計画を立てることができるようになった
・今何が問題となっているかを把握することができるようになった
・パソコンの使い方が分かった
・アナログ人間だったが，自分が分かりやすいパソコンでの情報の整頓の仕方が分かった
・Excel の使い方が分かった
・データにあったグラフを利用することができるようになった
・キャンバを使って，効果的なポスター作成ができるようになった
・数滴能力が少しは上がった
・プレゼンのスライド作成を学んだ
・プレゼンの発表の仕方を学ぶことができた
・分からないことに焦点を当てて，分からないが分かるようになる学習支援方法を自分なりに考えることができた
・他の人に仕事を任せながら，1 つの活動を完成させることができるようになった
・その人の性格を判断して，仕事の頼み方を変えることを学んだ
・大人や先輩，友達に頼ることを学んだ
・見返りを求めない心が身についた
・メールのマナーなどの礼儀を学んだ
・分からないことが分かるようになる喜びが分かった
・一見やる気がないように見える学生も，分かるようになることに喜びを感じ，分かるようになることを求めているんだと感じた。よって，先生はやる気がないように感じる生徒のことも見放さずに，粘り強く継続的に支援を行って，分かるという経験を積ませることが大切だと考えるようになった。
・自分たちの活動を効果的に相手に伝えることが出来るようになった
・要点を掴んで会話をしたり，まとめたりする力がみについた
・コミュニケーション力が身についた
・大変でも 1 つの活動を継続する力が身についた

○チューターになる前は，初対面の人と話すことに苦手意識があったが，チューターになったことで初対面の人と話をすることができるようになった。また，その後の人間関係を円滑に進められるようになったと感じています。

○説明の仕方が大きく成長したと感じています。最初は自分が理解していることをそのまま伝えるだけでしたが，相手のレベルや理解度に応じて言葉を選び，例え話を交えながら説明する力が身につきました。また，質問を受けた際に，ただ答えを伝えるのではなく，相手が自分で考えられるようにサポートする意識も強くなりました。これは，学習支援だけでなく，日常のコミュニケーションにも活かせる力だと思います。

○今まで教えることが少なく問題の意図の言語化をすることがなく最初は手こずったが出来るようになって行ったので成長したと感じました。

○他の人の考えを聞くようになった

○今まで問題の解き方などを他人に教える時は自分の解き方を説明するだけだったが，解く最中に相手に問いかけて相手が自ら理解することを促すことが重要であることを知り，実際にそれを実践することができたこと。日常においても一方的な会話ではなく，相手を顧みながら自分の意見を理解してもらうことが出来るようになった
○人に伝える力が向上したこと。
Q3　今後の MSLC へ期待すること，また，チューターへのメッセージがあったら書いてください。
○1 つ目はもう少し難しい問題を解きたいです。 2 つ目は定期トレーニングのロールプレイから「みんなで解こうぜ」に変更してほしいことです。mslc のメンバーと話をしていた時に定期トレーニングのロールプレイに意味はあるのかという話題が何回もでてきました。ロールプレイで実際にあった事例をあげたり，わからないチューターが多い問題なら取り組んでもいいと思います。しかし実際は，本番までにチューター役とチューティー役が何度も何度も練習したのを見せているので，実際のロールプレイとは少し異なっているなと感じました。その代替案として清水さんや山田さんの時に取り組んだ「みんなで解こうぜ」の時間をもっと増やした方が良いと考えました。こちらのほうが，チューター自身が持っている解き方や教え方を共有することで改善したり自分のものとして取り入れることでチューター自身のチュータリング力が向上し MSLC 全体のチュータリング力が向上にもつながるのではないでしょうか。
○今期までの人は本当にお疲れ様でした。短い間でしたが，MSLC で関わることができて良かったです！ 来期は少ない人数になると思いますが，少数精鋭で頑張っていきましょう！
○私は大学入学と同時に MSLC のチューターとして活動してきました。当時は大学と MSLC のことを右も左もわからない状態で活動し，今後どうなるのだろうと心配する時もありました。しかし，先輩チューターは業務内容やチュータリングのコツ等をいつもわかりやすく説明してくださり，困った時に助けてくれました。ご迷惑をおかけした場面も多々ありましたが，先輩のご支援もあり，少しずつ環境に慣れていくことができました！一年間ありがとうございました！
○チューティー自身が MSLC で勉強することのメリットを感じながら，MSLC に通って勉強できるような環境をより整えられると，チューティーにとってより良い学びになるのではないかと思います。そのため，可能だったらプロジェクト発表会をもっと多くの先生やチューティーの人にも聞きに来てもらいたいなと思いました。 ○チューターとして活動するのは楽しいことばかりではないと思います。嫌と思ったり，時には面倒だなと思ってしまうこともあると思いますが，そんな時には，一緒に活動する他のチューターを頼って，山を乗り越えると活動に意義を感じられるようになると思います。せっかく努力して，チューターになったのでできるだけ長く活動を続けて，色々なことを経験して，自分の自己成長につなげられたらいいなと思います。頑張ってください。
○日々，自分に足りない部分を実感することができるので課せられた課題にどう向き合っていけばいいのかを考える場所になっているのでこれからも成長していける環境だと思っています。
○MSLC がさらに多くの学生にとって，学びやすい場所になってほしいと思います。そのために，より気軽に利用できる雰囲気づくりや，学習支援以外の交流の場が増えるといいなと感じています。チューターの皆さんには，それぞれの強みを活かしながら，自信をもって活動してほしいです。また利用したい学生の方は気軽に足を運んで欲しいです。学ぶ楽しさを共有しながら，一緒に MSLC をより良い場所にしていきましょう！
○みんなで協力して頑張りましょう。 これからもよろしくお願いします。

卒業・留学・その他の
理由で今期 MSLC
チューターを卒業する
チューターのあいさつ！

♡ 2024 年度 MSLC 前期チューターリーダーからのメッセージ　具志堅百奏（情報システムズ専攻）

こんにちは，2024 年度前期に MSLC を卒業した具志堅百奏です。
MSLC15 周年おめでとうございます🎊
今回は MSLC で学んだことについて紹介したいと思います。

私は二年間 MSLC に所属しました。
MSLC は生徒の学びの場になるのはもちろん，私たちチューターにとっても学びの場になりました。
毎週の定期トレーニングでチュータリングの方法を学び，プレゼンテーションでの学びが社会人基礎力の向上につながりました。
特に初めてのプレゼンテーションは，20 回以上自主練をして，それでもドキドキで手汗がたくさん出ていたのを覚えています。本番では噛まずに済んだのですが，緊張が相まって，皆さんのコメントで「素晴らしかったが，喋るスピードが早かった」と，とても初々しい思い出が残ってます笑。その後からは，プレゼンテーションがあるたびに10回以上はプレゼンテーションの練習をするよう決めて，実行しました。
このような行動は，MSLC に来てくれる生徒には見えない努力ですが，日々の学びを行う過程を身につけることができ，MSLC を卒業した今，夏休みでも毎日勉強を 30 分以上行っています。MSLC に所属していなければ，得られなかった学びの習慣だと考えます。感謝しています！
また，MSLC の 1 番のいいところは，なんといってもお互い支え合える仲間，気軽に相談できる先生ができたことです。大学では授業ごとにメンバーが違い，特定の人といることは中々ないです。MSLC に所属することで，同期に出会い，学習の面で，また MSLC を運営する面で切磋琢磨に声をかけながら取り組んできました。特にリーダーを任された時には，助かりました。
初めて，リーダーになって，仲間のいることの重要性，　ありがたさに気づきました。
MSLC をよりよくしようと，一人で頑張ると限界がありますが，一緒に MSLC をより良くしてくれる仲間と共に頑張ることで影響力や効果も格段に違うなと実感しました。
もちろんチームを一つの目標に対して，リーダーと同じマインドで行動するのは難しいですが，仲間たちがいることで，リーダーに近いマインドで行動することができるとわかりました。

MSLC でのニ年間を通じて，私は学びの大切さや仲間の存在がどれほど心強いものであるかを実感しました。チューターとして成長できたこと，そして仲間と共に切磋琢磨しながら，共通の目標に向かって努力できた経験は，私にとってかけがえのない宝物です。今後も，この貴重な経験を活かし，自分自身を磨き続けるとともに，支え合える仲間を大切にしていきたいと思います。MSLC で得た学びと絆を胸に，さらなる成長を目指していきます。私を成長させてくれて，ありがとうございました。
これからの活躍，ファンとして応援しています！！

♡　2024 年度 MSLC のチームビルディングに奮闘した後期チューターリーダーより　　佐事奏実（2年次）

こんにちは，2024 年度後期に MSLC のリーダーを務めた佐事奏実です。
MSLC は今年で 15 周年を迎えました。節目の年に活動することができ，とても嬉しく思います。
私自身も 3 期目のチューターとして，そして初めてのリーダーとして活動しました。
今回は，私が MSLC で学んだことや，チューターの皆さんと一緒に築いてきたチームのことについてお話ししたいと思います。
<初めてのリーダーとして感じたこと>
リーダーを引き受けたとき，正直なところ不安もありました。「自分に務まるのか」「みんなをまとめられるのか」と考えることもありました。
しかし，チューターの皆さんが主体的に動いてくれたおかげで，一人で背負い込むのではなく，チーム全体で協力しながら進める大切さを実感しました。チューター同士のサポートがあったからこそ，運営をスムーズに進めることができたと思います。
<チームビルディングで意識したこと>
MSLC の活動が円滑に進むように，特に「整える」と「繋げる」を意識しました。
①「整える」 … 運営の流れやマニュアルを見直し，よりわかりやすい形にすること。
②「繋げる」 … チューター同士の連携を深め，スムーズな引き継ぎができるようにすること。
これらを意識することで，より働きやすく，次のチューターへつながる環境を作れるのではないかと考えました。実際に，マニュアルの改訂や，情報共有の強化などを進めた結果，「作業がスムーズになった」「次の担当者がわかりやすいように記録を残そう」という声が増え，少しずつ変化を感じることができました。
<チューターの皆さんへの感謝>
リーダーとして，皆さんの活動を見ていて，本当に頼もしく感じました。
困っているチューターがいれば自然に助け合う姿。
どの業務にも前向きに取り組み，「もっとこうしたほうがいいかも?」と意見を出してくれる姿。
MSLC の雰囲気を大切にしながら，楽しく学び合う姿
どれも，MSLC がここまで続いてきた理由の一つだと思いますし，皆さんの積極的な姿勢に何度も助けられました。本当にありがとうございます!
<これからの MSLC に期待すること> 今後も，「整える」と「繋げる」を意識しながら，よりよい学びの場を一緒に作っていけたらと思います。
チューター活動を通して，それぞれが新しい気づきを得たり，成長したりできる環境であってほしいです。そして，「学びを支える立場」としてのやりがいを，これからもみんなで感じていけるような MSLC にしていきたいと思います!
後期の活動を振り返りながら，皆さんと過ごした時間がとても貴重だったと改めて感じました。来期も，MSLC がより良い場となるよう，一緒に頑張っていきましょう!

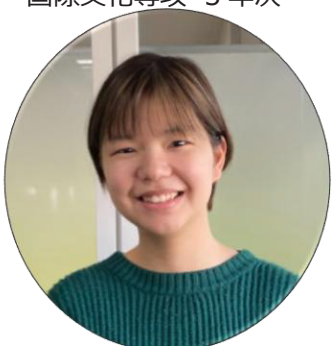
2024 年度 チューター紹介 前期･後期

マスター
清水 麻由
Shimizu Mayu
観光産業専攻 4 年次

アドバンス
山田 翔大
Yamada Syota
経営専攻 4 年次

アドバンス
具志堅 百奏
Gushiken Mona
情報システムズ専攻 3 年次

マスター
赤嶺 妃美紀
Akamine Hibiki
国際文化専攻 3 年次



アドバンス
外間 涼花
Hokama Ryoka
観光産業専攻 3 年次

アドバンス
山内 貴裕
Yamauchi Takahiro
スポーツ健康学科 3 年次

レギュラー
塩谷玲空
Shioya Riku
診療情報管理専攻 3 年次

アドバンス
草場珠緒
Kusaba Tamao
診療情報管理専攻 4 年次

アドバンス
川鍋 匠生
Kawanabe Takumi
経営専攻 3 年次

レギュラー
桃原 歩夢
Tobaru Ayumu
診療情報管理専攻 3 年次

アドバンス
佐事 奏実
Saji Kanami
国際文化学科 2 年次

レギュラー
森田 春香
Morita Haruka
国際文化学科 2 年次

レギュラー
新里 佳祐
Shinzato Keisuke
健康情報学科 2 年次

アドバンス
鷲津 心花
Washizu Motoka
健康情報学科 2 年次

チューター
谷本 淳晟
Tanimoto Junsei
健康情報学科 2 年次

レギュラー
田浦 和珠
Taura Nagomi
スポーツ健康学科 2 年次

レギュラー
新城 碧唯
Shinjyo Aoi
スポーツ健康学科 2 年次

レギュラー
繁永 怜美
Shigenaga Satomi
スポーツ健康学科 2 年次

レギュラー
佐藤 大虎
Sato Taiga
スポーツ健康学科 2 年次

レギュラー
外間 袴大
Hokama Kota
健康情報学科 1 年次

チューター
比嘉 紗七
Higa Sana
国際文化学科 1 年次

チューター
與那嶺 一愛
Yonamine Ai
健康情報学科 1 年次

チューター
高橋 航海
Takahashi Wataru
健康情報学科 1 年次

チューター
横溝 正泰
Yokomizo Masayasu
国際観光産業学科 1 年次

★★★ MSLC の仲間とともに ★★★

頼もしいこのメンバーは？

統計学基礎担当チーム

前期新規チューター

前期：統計担当チーム

前期：診療担当チーム

前期：情報担当チーム

◆チューター名簿（2019年度後期～2024年度後期）　※期の欄の〇の囲み数はその期のチューターリーダー

2019年後期									
連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
1	1416278	宮川寛太郎	5	マスター	8	1419228	芝毬香	2	
②	1418205	夏目晃汰	4	アドバンス	9	1419162	吉高恵理菜	2	
3	1418218	馬場星	4	アドバンス	10	2219067	水谷日向子	2	
4	1418063	亀井謙二郎	2	レギュラー	11	1419295	刈谷志乃美	1	チューター
5	1418175	杜銀偉	2	レギュラー	12	2219016	糸数勇利	1	チューター
6	1418155	田中里奈	2		13	2219077	大沢詩音	1	チューター
7	1418206	西晃人	2	レギュラー					
2020年前期									
連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
①	1418205	夏目晃汰	5	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	8	2219016	糸数有利	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ
2	1418218	馬場星	5	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	9	2219077	大沢詩音	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ
3	1418175	杜銀偉	4	ﾚｷﾞｭﾗｰ	10	1419021	三浦諒太	1	ﾁｭｰﾀｰ
4	1418155	田中里奈	4	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	11	1419171	叶健人	1	ﾁｭｰﾀｰ
5	1418206	西晃人	4	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	12	1419237	片山裕基	1	ﾁｭｰﾀｰ
6	1419228	芝毬香	3	ﾚｷﾞｭﾗｰ	13	2220937	瑞慶山まなか	1	ﾁｭｰﾀｰ
7	1419295	刈谷志乃美	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ					
2020年後期									
連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
1	1418155	田中里奈	5	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	9	1419021	三浦諒太	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ
②	1418205	夏目晃汰	6	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	10	1420037	瑞慶山まなか	2	ﾁｭｰﾀｰ
3	1418218	馬場星	6	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	11	1420110	新垣寧	1	ﾁｭｰﾀｰ
4	1418206	西晃人	5	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	12	1420269	帳楽凡	1	ﾁｭｰﾀｰ
5	1418175	杜銀偉	5	ﾚｷﾞｭﾗｰ	13	1420235	李筱曼	1	ﾁｭｰﾀｰ
6	1419228	芝毬香	4	ﾚｷﾞｭﾗｰ	14	1420064	佐竹彩音	1	ﾁｭｰﾀｰ
7	1419237	片山裕基	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ	15	2119085	松田慶	1	ﾁｭｰﾀｰ
8	1419171	叶健人	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ					
2021年前期									
連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
1	1418155	田中里奈	5	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	10	1420235	李筱曼	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ
2	1418206	西晃人	5	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	11	1420064	佐竹彩音	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ
③	1419228	芝毬香	5	ﾚｷﾞｭﾗｰ	12	2119085	松田慶	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ
4	1419021	三浦諒太	3	ﾚｷﾞｭﾗｰ	13	1420076	道添里菜	1	ﾁｭｰﾀｰ
5	1419171	叶健人	3	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	14	1420056	大朝はつき	1	ﾁｭｰﾀｰ
6	1419237	片山裕基	3	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	15	1420184	中川竣介	1	ﾁｭｰﾀｰ
7	2220037	瑞慶山まなか	3	ﾚｷﾞｭﾗｰ	16	1420218	勝田敦子	1	ﾁｭｰﾀｰ
8	1420110	新垣寧	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ	17	2120052	長尾優生	1	ﾁｭｰﾀｰ
9	1420269	張楽凡	2	ﾚｷﾞｭﾗｰ					
2021年後期									
連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
①	1419021	三浦諒太	4	アドバンス	11	1420218	勝田敦子	2	レギュラー
2	1419237	片山裕基	4	アドバンス	12	2120052	長尾優生	2	チューター
3	2119085	松田慶	3	アドバンス	13	1421090	松永佳楠子	1	チューター
4	1420110	新垣寧	3	アドバンス	14	1421261	中村光実	1	チューター
5	1418155	田中里奈	6	アドバンス	15	1421153	呉屋里紗	1	チューター
6	1418206	西晃人	6	マスター	16	1421196	草場環緒	1	チューター
7	1420235	李筱曼	3	レギュラー	17	1421135	清水麻由	1	チューター
8	1420076	道添里菜	2	レギュラー	18	2221077	陣内野乃華	1	チューター
9	1420184	中川竣介	2	レギュラー	19				
10	1420056	大朝はつき	2	レギュラー					
2022年前期									
連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
①	1419021	三浦諒太	5	マスター	8	1421153	呉屋里紗	2	レギュラー
2	1419237	片山裕基	5	マスター	9	1421196	草場環緒	2	レギュラー
3	1420110	新垣寧	5	マスター	10	1421261	中村光実	2	リーダー
4	1420076	道添里菜	4	アドバンス	11	1421135	清水麻由	2	レギュラー
5	1420235	李筱曼	4	レギュラー	12	1421248	山田翔大	2	レギュラー
6	1421090	松永佳楠子	4	レギュラー	13	2221077	陣内野乃華	2	チューター
7	2120052	長尾優生	3	レギュラー	14	1420184	中川竣介	3	アドバンス

2022 年後期

連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
1	1420110	新垣 寧	5	マスター	9	1422201	山内 貴裕	1	チューター
2	1420076	道添 里菜	5	アドバンス	10	1422210	外間 涼花	2	チューター
3	2120052	長尾 優生	4	レギュラー	11	1422171	塩谷 玲空	2	チューター
4	1421153	呉屋 里紗	4	レギュラー	12	1422248	川鍋 匠生	1	チューター
5	1421196	草場 環緒	4	レギュラー	13	1422293	赤嶺 妃美紀	1	チューター
⑥	1421261	中村 光実	4	リーダー	14	1422092	具志堅 百奏	1	チューター
7	1421135	清水 麻由	4	レギュラー	15	1420184	中川 竣介	4	アドバンス
8	1421248	山田 翔大	2	レギュラー					

2023 年前期

連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
1	1420110	新垣 寧	6	マスター	8	1422293	赤嶺 妃美紀	2	レギュラー
2	2120052	長尾 優生	5	アドバンス	9	1422201	山内 貴裕	2	レギュラー
3	1421153	呉屋 里紗	4	レギュラー	10	1422210	外間 涼花	2	チューター
4	1421196	草場 環緒	4	レギュラー	11	1422171	塩谷 玲空	2	チューター
5	1421261	中村 光実	4	レギュラー	12	1422092	具志堅百奏	2	チューター
6	1421135	清水 麻由	4	リーダー	13	1422248	川鍋 匠生	1	チューター
⑦	1421248	山田 翔大	3	レギュラー	14				

2023 年後期

連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
①	1420110	新垣 寧	7	リーダー	10	1422093	具志堅 百奏	3	チューター
2	2120052	長尾 優生	6	アドバンス	11	1422248	川鍋 匠生	2	レギュラー
3	1421196	草場 環緒	5	レギュラー	12	1422212	桃原 歩夢	1	チューター
4	1421135	清水 麻由	5	アドバンス	13	B11023069	佐事 奏実	1	チューター
5	1421248	山田 翔大	4	レギュラー	14	B11023029	森田 春香	1	チューター
6	1422293	赤嶺 妃美紀	3	アドバンス	15	B23023029	新里 佳祐	1	チューター
7	2122107	山内 貴裕	3	レギュラー	16	B23023044	鷲津 心花	1	チューター
8	1422210	外間 涼花	3	レギュラー	17	B23023039	谷本 淳晟	1	チューター
9	1422171	塩谷 玲空	3	チューター					

2024 年前期

連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
1	1421135	清水 麻由	6	マスター	11	B11023029	森田 春香	2	チューター
2	1421248	山田 翔大	5	レギュラー	12	B23023029	新里 佳祐	2	アドバンス
3	1422293	赤嶺 妃美紀	4	マスター	13	B23023044	鷲津 心花	2	レギュラー
4	2122107	山内 貴裕	4	アドバンス	14	B23023039	谷本 淳晟	2	チューター
5	1422210	外間 涼花	4	レギュラー	15	B21023036	田浦 和珠	1	チューター
6	1422171	塩谷 玲空	4	レギュラー	16	B21023040	繁永 怜美	1	チューター
⑦	1422092	具志堅 百奏	4	アドバンス	17	B21023045	新城 碧唯	1	チューター
8	1422248	川鍋 匠生	3	アドバンス	18	B21023091	佐藤 大虎	1	チューター
9	1422212	桃原 歩夢	2	レギュラー	19	B23024043	外間 袴大	1	チューター
10	B11023069	佐事 奏実	2	レギュラー					

2024 年後期

連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ	連番	学籍番号	氏名	期	ﾚﾍﾞﾙ
1	1421135	清水 麻由	7	マスター	11	B21023040	繁永 怜美	2	レギュラー
2	1421248	山田 翔大	6	アドバンス	12	B21023036	田浦 和珠		
3	2122107	山内 貴裕	5	アドバンス	13	B21023045	新城 碧唯	2	レギュラー
4	1422210	外間 涼花	5	レギュラー	14	B21023091	佐藤 大虎	2	レギュラー
5	1422248	川鍋 匠生	5	アドバンス	15	B23024043	外間 袴大	2	レギュラー
⑥	B11023069	佐事 奏実	3	アドバンス	16	B11024095	比嘉 紗七	1	チューター
7	B11023029	森田 春香	3	チューター	17	B12024014	横溝 正泰	1	チューター
8	B23023029	新里 佳祐	3	アドバンス	18	B23024060	與那嶺一愛	1	チューター
9	B23023044	鷲津 心花	3	レギュラー	19	B23024081	髙橋 航海	1	チューター
10	B23023039	谷本 淳晟	3	チューター	20	1421196	草場 環緒		ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ

おわりに

名桜大学数理学習センター（MSLC）は設置 15 周年を迎えました。この節目にあたる 2024 年度の活動を振り返り，この活動記録を通じて皆様にご紹介いたしました。

本活動記録でご紹介してきたように，MSLC は「主体的に自らの数理能力の向上に立ち向かい，学び続ける学生の自主学習の促進」という設置趣旨のもと，チューターとなる学生たちの成長と学修者へのきめ細やかな支援を両輪として活動を続けてきました。特に「優しさ・笑顔・努力を大事にする学びの空間」という基本理念は，チューターに対する研修の度に確認し，日々のチュータリングや運営の中で実践され，センターの温かい雰囲気を醸成してきました。

MSLC の特色である学生による数理系科目の学修支援は，支援を受ける学生（チューティー）だけでなく，支援を行うチューター自身の成長にも大きく寄与しています。プレゼンテーション能力の向上，時間管理スキルの習得，組織の一員としての責任感，そして何より「寄り添う」姿勢を持ったコミュニケーション力など，社会人基礎力の多くの要素が MSLC での活動を通じて培われています。赤嶺さんの「四期間を終えての所感」にあるように，チューターとしての経験は，学生たちの大学生活だけでなく，その先の社会人生活にも大きな財産となることでしょう。

特に近年では，「数理・データサイエンス・AI 入門の分析課題講座の開講」といった新たな取り組みにも挑戦しました。また，MSLC からの情報発信に SNS を活用し，多くの学生の目にとまるようにエ夫をしました。こうした挑戦は，変化する学習環境や学生のニーズに応えるために重要であり，MSLC の持続的な発展の証でもあります。さらに，リベラルアーツ機構のもと，言語学習センター（LLC）やライティングセンター（MWC）と連携しながら，本学の教養教育の質保証に貢献している点も特長と言えます。高大接続勉強会や入学前特別講座では，名桜大学入学前から卒業後まで一貫した学びの支援体制の一翼を担っていることも，本センターの重要な役割です。

未来に目を向けると，Society 5.0 時代の到来に伴い，数理的思考力や自己調整学習能力の重要性はさらに高まることが予想されます。これからも数理学習センターは，名桜大学の特色ある教育活動の一環として，学生の主体的な学びを促進し，「課題解決」と「価値創造」に貢献できる人材育成に尽力していく所存です。単に知識を教えるのではなく，「わからない」を「わかる」に変える場，そして学生たちが共に成長できるコミュニティとしての役割を果たしてまいります。

最後に，本活動記録が多くの方々にとって，MSLC の活動への理解を深める一助となり，また次の20周年への出発点となることを願っております。今後とも数理学習センターの活動にご支援とご協力を賜りますよう，心よりお願い申し上げます。

2025 年 3 月 31 日
数理学習センター 副センター長 太田佐栄子

編集後記

数理学習センターでは5年ごとの節目を記念して，これまでの成果を後続に継承する目的で周年事業に取り組んでいます。5周年事業では数学者 ピーターフランクル氏を招聘し，「真の国際人を目指すために」と題して，名桜大学創立20周年記念講演会と併せて開催し，世界的な研究者の考えやものの見方に学生だけではなく，地域の方々にも大きな感動を与えました。10周年事業では，「数理学習センター（MSLC10年のあゆみ）」の記念誌を発行し，設置から10年間の学生による学生のための学修支援センターの活動のあゆみをご紹介しました。今年は，15周年を迎え，学生チューターと一緒に作り上げてきたチュータートレーニングの実践報告も含めて活動記録をまとめることになりました。MSLC スタッフ一同で作成した活動記録には，学習センターの1年間の活動の様子が分かるとともに，チューター達の学修支援への厚い思いが伝わってきます。

これからも名桜大学数理学習センター（MSLC）の学修支援活動は，本学の特色ある教育の一環として継続・発展できることを信じやみません。

なお本誌において，学習と学修の表現が混在していることは承知の上のことです。ご了承ください。

数理学習センター長　高安美智子

公立大学法人名桜大学 MSLC 設置15周年記念
2024年度 数理学習センター 1年間の活動記録

発　行　2025(令和 7)年3月31日
編　集　名桜大学数理学習センター
発行所　公立大学法人名桜大学
〒905-8585 沖縄県名護市為又 1220-1
TEL 0980-51-1027（数理学習センター）
印　刷　株式会社 国際印刷
〒901-0147 沖縄県那覇市宮城1丁目 13 番 9 号
TEL 098-857-3385 FAX 098-857-3892